

学 科 名			普 通 科												
教 科	科 目	標準 単位 数	I 類 進 学						II 類						
			I	II		III		I		II		III			
				文	理	文1	文2	理	進学	特別選抜	文・特文	理・特理	文	特文	理・特理
国 語	現代の国語	2	2						2	2					
	言語文化	2	2						2	2					
	論理国語	4		2	2	2	2	2			2	2	2	2	2
	文学国語	4		2		2	2								
	国語表現	4													
	古典探究	4		3	3	2	2	2			3	3	3	3	3
	表現基礎 (学)	2~3				2	2							3 ^B	
文学基礎 (学)	1										1		1	1	
地理歴史	地理総合	2		2	2						2	2			
	地理探究	3													3
	歴史総合	2	2						2	2					
	日本史探究	3		3 } 3		5 } 5	5 } 5				3 } 3		4 } 4	4 } 4	
	世界史探究	3		3 } 3		5 } 5	5 } 5				3 } 3		4 } 4	4 } 4	
公 民	公共	2	2				2		2	2	2				
	倫理	2													
	政治・経済	2				2		2					3	3	
数 学	数学 I	3	3						3	3					
	数学 II	4	1	4	4	3		4 ^T	1	1	3	3	3 ^A	3	
	数学 III	3					3		4 ^S			1			4
	数学 A	2	2						3	3					
	数学 B	2			2	3					2	2	2 ^A	2	1
	数学 C	2			1				1 ^T	2 ^S			1 ^A	1	2
	数学基礎演習 (学)	2												2 ^B	
理 科	科学と人間生活	2					2								
	物理基礎	2	2						2	2					
	物理	4			3							4			4
	化学基礎	2		2	2	1		2			2		2 ^A	2	4
	化学	4			2							2			4
	生物基礎	2	2	1		3	1	2			1		4	1	1
	生物	4			3				4			4			4
	地学基礎	2													
地学	4														
保健体育	体 育	7~8	3	3	2	2	3	2	3	3	3	2	2	2	2
	保 健	2	1	1	1				1	1	1	1			
芸 術	音 楽 I	2	2	1					2	2					
	音 楽 II	2					2								
	音 楽 III	2													
	美 術 I	2	2	1					2	2					
	美 術 II	2					2								
	美 術 III	2		2	1										
	工 芸 I	2													
	工 芸 II	2													
	工 芸 III	2													
	書 道 I	2	2	1					2	2					
書 道 II	2					2									
書 道 III	2														
外 国 語	英語コミュニケーション I	3	3						3	4					
	英語コミュニケーション II	4		4	4						4	4	3 ^B		
	英語コミュニケーション III	4				4	4	4					4	4	4
	論理・表現 I	2	3						3	3					
	論理・表現 II	2		3	3						3	3			
	論理・表現 III	2				3	3	2					3	3	2
家 庭	家庭基礎	2	2						2	2					
	家庭総合	4													
情 報	情報 I	2				2	2	2					2	2	2
	情報 II	2													
理 数	理数探究基礎	1													
	理数探究	2~5													
宗 教	一般仏教 (学)	2~3		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	宗乗・余乗 (学)	(5)	(2)	(2)	(2)	(1)	(1)	(1)	(2)	(2)	(2)	(2)	(1)	(1)	(1)
総合的な探究の時間 (実施時間数)		3~6 ()	1 (35)	1 (35)	1 (35)	1 (35)	1 (35)	1 (35)	1 (35)	1 (35)	1 (35)	1 (35)	1 (35)	1 (35)	1 (35)
	科目の単位数の計		34	33	33	33	33	33	35	36	35	35	35	35	35
特別活動	ホームルーム活動	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
合 計			35	34	34	34	34	34	36	37	36	36	36	36	36

S6単位選択

A8単位選択

T6単位選択

B8単位選択

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	国語	科目	論理国語	単位数	2単位	履修学年	Ⅲ年（Ⅰ類）
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 ・論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 ・言語が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。 						
評価の観点・評価基準	<p>【知識・技能】 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。</p> <p>【思考・判断・表現】 「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深めて言葉を効果的に使おうとしている。</p>						
使用教材	<p>【教科書】 新 論理国語（三省堂）</p> <p>【副教材】 現代文単語 改訂版（いいずな書店）・常用漢字ダブルクリア（尚文出版）三訂版プログレス【読解・論点・探究】現代文総演習標準編（いいずな書店）他</p>						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	<ul style="list-style-type: none"> ・「人類による環境への影響」 ・「この十年をどう生きるか」 ・「〈自動車〉と〈映像〉の二十世紀」 			<ul style="list-style-type: none"> ・筆者の考える二つの「戦略」や現在の利用状況について整理する。 ・多様な論点を結びつける。 ・社会的背景への理解を深め、筆者の指摘以外に現代社会を作り上げたものを考える。 			
2	<ul style="list-style-type: none"> ・「日本マンガのブルーオーシャン戦略」 ・「学びとは何か」 ・「『知る』ということ」 			<ul style="list-style-type: none"> ・「ブルーオーシャン戦略」への理解を深め、図表の効果や戦後のマンガの展開について考える。 ・「創造性」について筆者の考えをまとめる。 ・筆者の説明を整理し、規則を知ることの方法をどう述べているかをまとめる。 			
3	<ul style="list-style-type: none"> ・「科学には限界があるか」 ・「未来のありか」 			<ul style="list-style-type: none"> ・「科学万能主義」に対する筆者の考えを整理し、「科学の本質的な部分」に対する筆者の考えをまとめる。 ・「日本万国博覧会」に事例を通じて筆者が「未来」と「現在」関係をどう捉えているかを考える。 			
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・適宜演習を取り入れ、入試に対応した力を養う。 ・語彙の小テストを行い、語彙の定着を図る。 ・小論文・志望理由書など、書くことを中心とした活動を取り入れる。 ・自主学習に問題集を取り入れる。 						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	国語	科目	論理国語	単位数	2 単位	履修学年	Ⅲ年Ⅱ類文系
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・進学後の学びや実社会での活動などに備えて、国語を通して物事を的確に理解し、効果的に表現するための国語の知識や技能を身につける。 ・他者との協働に備えて、論理的かつ批判的に思考する力を伸ばし、また、創造的に思考する態度を育み、思考から導かれる内容を適切に伝えられるようにする。 ・言葉がもつ価値への認識を深め、言葉を通して社会に関わろうとする態度を養う。 						
評価の観点・評価基準	【知識・技能】社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけている。						
	【思考・判断・表現】「書くこと」「読むこと」の領域において、論理的かつ批判的に思考し、また、協働の場面において、創造的に思考し、互いの考えを適切に伝え合っている。						
	【主体的に学習に取り組む態度】言葉がもつ価値への認識を深め、言葉を通して社会に関わろうとしている。						
使用教材	【教科書】 精選 論理国語（数研出版） 【副教材】 現代文単語 改訂版（いいずな書店）・ベーシックマスター国語 現代文（Z会） 評論速読トレーニング2000（数研出版） 他、随時副教材を使用する。						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	<ul style="list-style-type: none"> ・「文化が違う」とは何を意味するのか ・学問の政治性 			<ul style="list-style-type: none"> ・「異文化の相互理解」と「学問の独自性」を扱う文章を通じて、卒業後に活動する際に求められる見識を養う。 ・第二学年で学んだ評論文の読み解き方をもとに、入試に即した実践的な読解力を養う。 			
2	<ul style="list-style-type: none"> ・生命の知性 ・メディアのテロル 			<ul style="list-style-type: none"> ・「生命のパフォーマンス」「情報処理」など、文系のみならず理系の領域についても高度な話題に触れ、見識を養う。 ・論理的な文章において頻出する語彙と表現を実践に即して学び、自らを表現する機会に備える。 			
3	<ul style="list-style-type: none"> ・顔の所有 ・無常ということ 			<ul style="list-style-type: none"> ・「現象学」「文芸」を取り扱う、難解とされる文章に取り組み、進路実現におけるあらゆる段階の要求に対応できる力を養う。 ・自分自身と社会について、そもそもどのような存在であるのかという根本的な思索をする機会を持つ。 			
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・語彙の小テストを定期的に行い、定着を図る。 ・適宜演習を取り入れ、入試に対応した力を養う。 ・小論文・志望理由書など、書くことを中心とした活動を適宜取り入れる。 						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	国語	科目	論理国語	単位数	2 単位	履修学年	Ⅲ年Ⅱ類特文
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・進学後の学びや実社会での活動などに備えて、国語を通して物事を的確に理解し、効果的に表現するための国語の知識や技能を身につける。 ・他者との協働に備えて、論理的かつ批判的に思考する力を伸ばし、また、創造的に思考する態度を育み、思考から導かれる内容を適切に伝えられるようにする。 ・言葉がもつ価値への認識を深め、言葉を通して社会に関わろうとする態度を養う。 						
評価の観点・評価基準	<p>【知識・技能】社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけている。</p> <p>【思考・判断・表現】「書くこと」「読むこと」の領域において、論理的かつ批判的に思考し、また、協働の場面において、創造的に思考し、互いの考えを適切に伝え合っている。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】言葉がもつ価値への認識を深め、言葉を通して社会に関わろうとしている。</p>						
使用教材	<p>【教科書】精選 論理国語（数研出版）</p> <p>【副教材】現代文単語 改訂版（いいずな書店）・ベーシックマスター国語 現代文（Z会） 評論速読トレーニング2000（数研出版） 他、随時副教材を使用する。</p>						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	<ul style="list-style-type: none"> ・「文化が違う」とは何を意味するのか ・学問の政治性 			<ul style="list-style-type: none"> ・「異文化の相互理解」と「学問の独自性」を扱う文章を通じて、卒業後に活動する際に求められる見識を養う。 ・第二学年で学んだ評論文の読み解き方をもとに、入試に即した実践的な読解力を養う。 			
2	<ul style="list-style-type: none"> ・生命の知性 ・メディアのテロル 			<ul style="list-style-type: none"> ・「生命のパフォーマンス」「情報処理」など、文系のみならず理系の領域についても高度な話題に触れ、見識を養う。 ・論理的な文章において頻出する語彙と表現を実践に即して学び、自らを表現する機会に備える。 			
3	<ul style="list-style-type: none"> ・顔の所有 ・無常ということ 			<ul style="list-style-type: none"> ・「現象学」「文芸」を取り扱う、難解とされる文章に取り組み、進路実現におけるあらゆる段階の要求に対応できる力を養う。 ・自分自身と社会について、そもそもどのような存在であるのかという根本的な思索をする機会を持つ。 			
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・語彙の小テストを定期的に行い、定着を図る。 ・適宜演習を取り入れ、入試に対応した力を養う。 ・小論文・志望理由書など、書くことを中心とした活動を適宜取り入れる。 						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	国語	科目	論理国語	単位数	2 単位	履修学年	Ⅲ年Ⅱ類理・特理
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・進学後の学びや実社会での活動などに備えて、国語を通して物事を的確に理解し、効果的に表現するための国語の知識や技能を身につける。 ・他者との協働に備えて、論理的かつ批判的に思考する力を伸ばし、また、創造的に思考する態度を育み、思考から導かれる内容を適切に伝えられるようにする。 ・言葉がもつ価値への認識を深め、言葉を通して社会に関わろうとする態度を養う。 						
評価の観点・評価基準	【知識・技能】社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけている。						
	【思考・判断・表現】「書くこと」「読むこと」の領域において、論理的かつ批判的に思考し、また、協働の場面において、創造的に思考し、互いの考えを適切に伝え合っている。						
	【主体的に学習に取り組む態度】言葉がもつ価値への認識を深め、言葉を通して社会に関わろうとしている。						
使用教材	【教科書】精選 論理国語（数研出版） 【副教材】現代文単語 改訂版（いっずな書店）・ベーシックマスター国語 現代文（Z会） 評論速読トレーニング2000（数研出版） 他、随時副教材を使用する。						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	<ul style="list-style-type: none"> ・「文化が違う」とは何を意味するのか ・学問の政治性 			<ul style="list-style-type: none"> ・「異文化の相互理解」と「学問の独自性」を扱う文章を通じて、卒業後に活動する際に求められる見識を養う。 ・第二学年で学んだ評論文の読み解き方をもとに、入試に即した実践的な読解力を養う。 			
2	<ul style="list-style-type: none"> ・生命の知性 ・メディアのテロル 			<ul style="list-style-type: none"> ・「生命のパフォーマンス」「情報処理」など、文系のみならず理系の領域についても高度な話題に触れ、見識を養う。 ・論理的な文章において頻出する語彙と表現を実践に即して学び、自らを表現する機会に備える。 			
3	<ul style="list-style-type: none"> ・顔の所有 ・無常ということ 			<ul style="list-style-type: none"> ・「現象学」「文芸」を取り扱う、難解とされる文章に取り組み、進路実現におけるあらゆる段階の要求に対応できる力を養う。 ・自分自身と社会について、そもそもどのような存在であるのかという根本的な思索をする機会を持つ。 			
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・語彙の小テストを定期的に行い、定着を図る。 ・適宜演習を取り入れ、入試に対応した力を養う。 ・小論文・志望理由書など、書くことを中心とした活動を適宜取り入れる。 						

科目の年間授業計画(シラバス)

教科	国語	科目	表現基礎	単位数	2 単位	履修学年	Ⅲ年 I 類文1
到達目標	国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。						
評価の観点・評価基準	<p>【知識・技能】適切かつ効果的な国語表現のための知識や技能を身につけている。</p> <p>【思考・判断・表現】事象・概念等を的確に文章で表現できる。また、それらについての意見を論理的に構築し、書くのみならず話すことでも表現できる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】社会生活における国語表現の意義を理解し、学習に意欲的に取り組むことができる。</p>						
使用教材	<p>【教科書】 国語表現(大修館書店)</p> <p>【副教材】 国語表現基礎練習ノート(大修館書店)</p> <p>他、随時副教材を使用する。</p>						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	<p>1 言葉と出会う</p> <p>2 伝える、伝え合う</p> <p>3 小論文・レポート入門</p>			<ul style="list-style-type: none"> ・主述の関係、副詞の呼応、文末表現の統一など整った文を書くために大切なことを理解する。 ・語彙を豊かにし、表現すべき事柄に応じて適切に選択する。 ・小論文の基本的な書き方を理解し、自分の意見を筋道を立てて書く。 ・資料を読み取り、発想を広げて小論文を書く。 ・自分の長所を考え、効果的な自己PRをする。 ・自分の将来について情報を集め、説得力のある志望動機を書く。 			
2	<p>4 自己PRと面接</p> <p>5 メディアを駆使する</p>			<ul style="list-style-type: none"> ・場面にふさわしい言葉遣いを考える。 ・話し合いに積極的に参加し、結論を出すために貢献する。 ・適切な言葉遣いで説得力のある話し方をすると共に、場面にふさわしい態度を理解し身につける。 ・さまざまな通信文の形式を理解し、相手や目的に応じて適切な形式を選択して書く。 ・メディアごとに立場や条件が異なり、情報の伝え方が異なることを理解する。 			
3	<p>6 会話・議論・発表</p>			<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションの方法とコツを学び、実践してみる。 ・効果的に情報を伝えるために、提示の手段、順序などを考える。 			
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・講義・演習形式・グループワークなど、教材に応じて授業形式を変える。 ・志望理由・自己アピール・小論文・作文の実践を行い、添削指導を行う。 ・面接練習を行う。 ・プレゼンテーションを行う。 						

科目の年間授業計画(シラバス)

教科	国語	科目	表現基礎	単位数	2 単位	履修学年	Ⅲ年Ⅰ類文2
到達目標	国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。						
評価の観点・評価基準	【知識・技能】適切かつ効果的な国語表現のための知識や技能を身につけている。						
	【思考・判断・表現】事象・概念等を的確に文章で表現できる。また、それらについての意見を論理的に構築し、書くのみならず話すことでも表現できる。						
	【主体的に学習に取り組む態度】社会生活における国語表現の意義を理解し、学習に意欲的に取り組むことができる。						
使用教材	【教科書】 国語表現(大修館書店) 【副教材】 国語表現基礎練習ノート(大修館書店) 他、随時副教材を使用する。						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	1 言葉と出会う			<ul style="list-style-type: none"> ・主述の関係、副詞の呼応、文末表現の統一など整った文を書くために大切なことを理解する。 ・語彙を豊かにし、表現すべき事柄に応じて適切に選択する。 ・小論文の基本的な書き方を理解し、自分の意見を筋道を立てて書く。 ・資料を読み取り、発想を広げて小論文を書く。 ・自分の長所を考え、効果的な自己PRをする。 ・自分の将来について情報を集め、説得力のある志望動機を書く。 			
	2 伝える、伝え合う						
3 小論文・レポート入門							
2	4 自己PRと面接			<ul style="list-style-type: none"> ・場面にふさわしい言葉遣いを考える。 ・話し合いに積極的に参加し、結論を出すために貢献する。 ・適切な言葉遣いで説得力のある話し方をすると共に、場面にふさわしい態度を理解し身につける。 ・さまざまな通信文の形式を理解し、相手や目的に応じて適切な形式を選択して書く。 ・メディアごとに立場や条件が異なり、情報の伝え方が異なることを理解する。 			
	5 メディアを駆使する						
3	6 会話・議論・発表			<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションの方法とコツを学び、実践してみる。 ・効果的に情報を伝えるために、提示の手段、順序などを考える。 			
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・講義・演習形式・グループワークなど、教材に応じて授業形式を変える。 ・志望理由・自己アピール・小論文・作文の実践を行い、添削指導を行う。 ・面接練習を行う。 ・プレゼンテーションを行う。 						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	国語	科目	古典探究	単位数	2 単位	履修学年	Ⅲ年（Ⅰ類）
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 ・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通じた先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。 						
評価の観点・評価基準	<p>【知識・技能】生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の古典に対する理解を深めることができる。</p> <p>【思考・判断・表現】論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。</p>						
使用教材	<p>【教科書】古典探究 古文編 漢文編（第一学習社）</p> <p>【副教材】古典常識も学べる新明説総合古典文法（尚文出版）・イラストとシーンでおぼえる Look@古文単語 3 3 7（京都書房）・必携 新明説漢文（尚文出版）</p>						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	古文 『発心集』『宇治拾遺物語』『枕草子』	漢文 『説苑』『新序』『列子』	<ul style="list-style-type: none"> ・人物の論理と行動を読み解く。 ・説話や随筆という文章特有の表現に注意して、構成や展開、内容を的確に捉える。 ・我が国の文化の特質について理解を深める。 ・逸話という文章の種類を踏まえて、構成や展開を的確に捉える。 ・訓読のきまりについて理解を深める。 ・語句の量を増やし、語句を豊かにする。 				
2	古文 『源氏物語』『無名草子』『大鏡』	漢文 『楚辞』『諸家の文章』『史記』	<ul style="list-style-type: none"> ・長編物語としてのストーリーをたどりながら、話の展開の仕方や心理描写の巧みさを捉える。 ・女性作者二人を批評した文章を読んで、歴史の伝承の仕方の一端に触れる。 ・歴史に残された人々の姿に触れる。 ・主張する生き方の違いを把握する。 ・史伝という文章の種類を踏まえて、構成や展開を的確に捉える。 				
3	古文 『玉勝間』『西鶴諸国はなし』	漢文 『史記』	<ul style="list-style-type: none"> ・批判的な作者の論理を理解し、古文を評価する態度や手法について考えを深める。 ・近世に生まれた新たな文芸を読み、文章に表れた価値観を通じて考えを深める。 ・作者の考えや目的を捉えて内容を理解する。 				
学習上の留意	<ul style="list-style-type: none"> ・適宜演習を取り入れ、入試に対応した力を養う。 ・古文単語の小テストを行い、語彙の定着を図る。 ・自主学习に問題集を取り入れる。 						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	国語	科目	古典探究	単位数	3 単位	履修学年	Ⅲ年Ⅱ類進学
到達 目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 ・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。 						
評価 の観 点・ 評価 基準	<p>【知識・技能】生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにしている。</p> <p>【思考・判断・表現】「読むこと」の領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで古典に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。</p>						
使用 教材	<p>【教科書】古典探究 古文編・漢文編(数研出版)</p> <p>【副教材】古典常識も学べる新明説総合古典文法(尚文出版)・イラストとシーンでおぼえる Look@古文単語 337(京都書房)・必携新明説漢文(尚文出版)・基礎古典(尚文出版)</p>						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	<p>『枕草子』二月のつごもりごろに 『古本説話集』清少納言がこと 『蜻蛉日記』父の離京 『紫式部日記』水鳥の足</p> <p>『逸話』知音 『小説』売鬼 『思想』論語・孟子・荀子・老子・荘子・ 韓非子・孫子</p>			<ul style="list-style-type: none"> ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 ・「清少納言がこと・二月のつごもりごろに」の本文を比較し違いを整理する。 ・日記に込められた作者の心情について理解する。 ・逸話から生まれた成語が現代どのような意味で使われているか理解する。 ・説話を読み登場人物の特徴を理解する ・中国の主要な思想家の主張を理解し、現代に通ずるものの見方や考え方を知る。 			
2	<p>『大鏡』南院の競射 『和泉式部日記』薫る香に 『十六夜日記』鎌倉への出立 『住吉物語』継母の策謀 『源氏物語』車争ひ</p> <p>『史伝』首陽山に餓死す 風蕭蕭として易水寒し 『古体詩』桃夭・飲酒・長恨歌</p>			<ul style="list-style-type: none"> ・作者によって描かれた人物像を理解する。 ・日記を読み人間や社会などに対する作者の思想や感情を読み取る。 ・物語文学を読み、登場人物の心情について文章中の表現を根拠に読み味わう。 ・中国の歴史書を読み、登場人物の行動の経緯や理由を理解する。 ・古体詩を味わい、詩形や韻、言葉の響きやリズム、修辞など表現の特色について理解を深める。 			
3	<p>『大鏡』道真と時平・最後の除目 『無名草子』清少納言と紫式部 『風姿花伝』秘すれば花</p> <p>『文章』桃花源記</p>			<ul style="list-style-type: none"> ・軍記物語の構成や展開を把握し、登場人物の行動や心情を読み味わう。 ・作者が清少納言や紫式部をどのような人物と捉えているか確認する。 ・日本最古の演劇論を読み話の内容を理解する。 ・物語を読み登場人物の行動を理解する。 			
学習 上の 留意 点	<ul style="list-style-type: none"> ・副教材は長期休業期間や自主学習など適宜使用する。 ・古典の基礎知識を定着させるため、古典単語などの小テストを実施する。 ・問題集は自主学習を主とするが、講義・演習形式をとることもある。 						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	国 語	科目	古典探究	単位数	3 単位	履修学年	Ⅲ年Ⅱ類特選
到達 目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 ・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。 						
評価 の観 点・ 評価 基準	【知識・技能】生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにしている。						
	【思考・判断・表現】「読むこと」の領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。						
	【主体的に学習に取り組む態度】言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで古典に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。						
使用 教材	【教科書】古典探究 古文編・漢文編(数研出版) 【副教材】古典常識も学べる新明説総合古典文法(尚文出版)・イラストとシーンでおぼえる Look@古文単語 337(京都書房)・必携新明説漢文(尚文出版)・基礎古典(尚文出版)						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	『枕草子』二月のつごもりごろに 『古本説話集』清少納言がこと 『蜻蛉日記』父の離京 『紫式部日記』水鳥の足 『逸話』知音 『小説』売鬼 『思想』論語・孟子・荀子・老子・荘子・韓非子・孫子			<ul style="list-style-type: none"> ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 ・「清少納言がこと・二月のつごもりごろに」の本文を比較し違いを整理する。 ・日記に込められた作者の心情について理解する。 ・逸話から生まれた成語が現代どのような意味で使われているか理解する。 ・説話を読み登場人物の特徴を理解する ・中国の主要な思想家の主張を理解し、現代に通ずるものの見方や考え方を知る。 			
2	『大鏡』南院の競射 『和泉式部日記』薫る香に 『十六夜日記』鎌倉への出立 『住吉物語』継母の策謀 『源氏物語』車争ひ 『史伝』首陽山に餓死す 風蕭蕭として易水寒し 『古体詩』桃夭・飲酒・長恨歌			<ul style="list-style-type: none"> ・作者によって描かれた人物像を理解する。 ・日記を読み人間や社会などに対する作者の思想や感情を読み取る。 ・物語文学を読み、登場人物の心情について文章中の表現を根拠に読み味わう。 ・中国の歴史書を読み、登場人物の行動の経緯や理由を理解する。 ・古体詩を味わい、詩形や韻、言葉の響きやリズム、修辞など表現の特色について理解を深める。 			
3	『大鏡』道真と時平・最後の除目 『無名草子』清少納言と紫式部 『風姿花伝』秘すれば花 『文章』桃花源記			<ul style="list-style-type: none"> ・軍記物語の構成や展開を把握し、登場人物の行動や心情を読み味わう。 ・作者が清少納言や紫式部をどのような人物と捉えているか確認する。 ・日本最古の演劇論を読み話の内容を理解する。 ・物語を読み登場人物の行動を理解する。 			
学習 上の 留意 点	<ul style="list-style-type: none"> ・副教材は長期休業期間や自主学習など適宜使用する。 ・古典の基礎知識を定着させるため、古典単語などの小テストを実施する。 ・問題集は自主学習を主とするが、講義・演習形式をとることもある。 						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	国語	科目	文学国語	単位数	2 単位	履修学年	Ⅲ年Ⅰ類文Ⅰ
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 ・深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。 						
評価の観点・評価基準	<p>【知識・技能】生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができる。</p> <p>【思考・判断・表現】「書くこと」「読むこと」の各領域で深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。</p>						
使用教材	<p>【教科書】標準 文学国語（第一学習社）</p> <p>【副教材】WINSTEP国語2Core文学的文章編（株式会社ランズ）</p>						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	<ul style="list-style-type: none"> ・「富嶽百景」 ・「山月記」 			<ul style="list-style-type: none"> ・名作とされる作品に触れ、国語文化への理解と親しみを深める。 ・内容や構成、展開、場面設定や描写の仕方、表現の特徴などを的確に捉え、内容を解釈する方法を学ぶ。 			
2	<ul style="list-style-type: none"> ・「清兵衛と瓢箪」 ・「永訣の朝」 			<ul style="list-style-type: none"> ・作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、作品の解釈を踏まえてそれらを深める。 ・物語の展開と出来事を整理し、登場人物の心理を表現に即して読み解く。 			
3	<ul style="list-style-type: none"> ・「卒業」 ・「夏の花」 			<ul style="list-style-type: none"> ・人間の歴史や生活史における普遍的な問題を題材とした作品を通じ、読解力とともに自らを省みる態度を養う。 			
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週語句の小テストを行い、語彙の定着を図る。 ・「読む・話す・書く」活動をバランス良く行い、面接やエントリーシートに寄与する力を養う。 ・進路実現のため、適宜問題演習を実施する。 						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	国 語	科目	文学国語	単位数	2 単位	履修学年	Ⅲ年Ⅰ類文2
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 ・深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。 						
評価の観点・評価基準	<p>【知識・技能】生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができる。</p> <p>【思考・判断・表現】「書くこと」「読むこと」の各領域で深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。</p>						
使用教材	<p>【教科書】標準 文学国語（第一学習社）</p> <p>【副教材】WINSTEP国語2 Core 文学的文章編（株式会社ランズ）</p>						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	<ul style="list-style-type: none"> ・「富嶽百景」 ・「山月記」 			<ul style="list-style-type: none"> ・名作とされる作品に触れ、国語文化への理解と親しみを深める。 ・内容や構成、展開、場面設定や描写の仕方、表現の特徴などを的確に捉え、内容を解釈する方法を学ぶ。 			
2	<ul style="list-style-type: none"> ・「清兵衛と瓢箪」 ・「永訣の朝」 			<ul style="list-style-type: none"> ・作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、作品の解釈を踏まえてそれらを深める。 ・物語の展開と出来事を整理し、登場人物の心理を表現に即して読み解く。 			
3	<ul style="list-style-type: none"> ・「卒業」 ・「夏の花」 			<ul style="list-style-type: none"> ・人間の歴史や生活史における普遍的な問題を題材とした作品を通じ、読解力とともに自らを省みる態度を養う。 			
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週語句の小テストを行い、語彙の定着を図る。 ・「読む・話す・書く」活動をバランス良く行い、面接やエントリーシートに寄与する力を養う。 ・進路実現のため、適宜問題演習を実施する。 						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	国語	科目	文学基礎	単位数	1 単位	履修学年	Ⅲ年Ⅱ類進学文系
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯にわたり生活を豊かなものにする国語の知識や技能を身につける。 ・他者との協働に備えて、深い共感と豊かな想像のための力を伸ばすとともに、思いや考えを他者と伝え合うことでより広く深い思索ができるようにする。 ・言葉がもつ価値への認識を深め、言葉を通して他者や社会に関わる態度を養う。 						
評価の観点・評価基準	【知識・技能】 文学的な表現に係る国語の知識や技能を身につけている。						
	【思考・判断・表現】 「書くこと」「読むこと」の領域において、正確な読み取りをもとに深い共感や豊かな想像をする力を養い、また、その内容を話すことや書くことで適切に伝え合っている。						
	【主体的に学習に取り組む態度】 言葉が持つ価値への認識を深め、言葉を通して社会に関わろうとしている。						
使用教材	【教科書】 文学国語（筑摩書房） 【副教材】 現代文読本 小説・随想編 2（いづな書店）						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	<ul style="list-style-type: none"> ・「陰翳礼賛」 ・「舞姫」 			<ul style="list-style-type: none"> ・不朽の名作とされる小説と随想に触れる。 ・実生活との関わりが薄い時代や価値観が根底にある作品を読み味わうことで、視野と思索の幅を広げ、人間活動の流行と不易の両者に理解を深める。 			
2	<ul style="list-style-type: none"> ・「水仙」 ・「ある〈共生〉の経験から」 			<ul style="list-style-type: none"> ・様々な文体や題材を切り口として人間の真実に迫る文学の価値を味わう。 ・情緒への訴えかけや圧縮された表現を読み解き、何を伝えようとしているのかを整理し表現する。 			
3	<ul style="list-style-type: none"> ・「寛容は自らを守るために不寛容に対して不寛容になるべきか」 			<ul style="list-style-type: none"> ・大きく変化する社会の中で自らの生き方を確立するにあたり、外界にどのような立場で相対するのかを考える。 			
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・精密さと全体の味わいの緩急をつけて読む。 ・入試をふまえた問題演習を適宜行い、進路を実現する力を養う。 						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	国 語	科目	文学基礎	単位数	1 単位	履修学年	Ⅲ年Ⅱ類特文
到達 目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯にわたり生活を豊かなものにする国語の知識や技能を身につける。 ・他者との協働に備えて、深い共感と豊かな想像のための力を伸ばすとともに、思いや考えを他者と伝え合うことでより広く深い思索ができるようにする。 ・言葉がもつ価値への認識を深め、言葉を通して他者や社会に関わる態度を養う。 						
評価 の観 点・ 評価 基準	<p>【知識・技能】 文学的な表現に係る国語の知識や技能を身につけている。</p> <p>【思考・判断・表現】 「書くこと」「読むこと」の領域において、正確な読み取りをもとに深い共感や豊かな想像をする力を養い、また、その内容を話すことや書くことで適切に伝え合っている。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 言葉が持つ価値への認識を深め、言葉を通して社会に関わろうとしている。</p>						
使用 教材	<p>【教科書】 文学国語（筑摩書房）</p> <p>【副教材】 現代文読本 小説・随想編 2（いづな書店）</p>						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	<ul style="list-style-type: none"> ・「陰翳礼賛」 ・「舞姫」 			<ul style="list-style-type: none"> ・不朽の名作とされる小説と随想に触れる。 ・実生活との関わりが薄い時代や価値観が根底にある作品を読み味わうことで、視野と思索の幅を広げ、人間活動の流行と不易の両者に理解を深める。 			
2	<ul style="list-style-type: none"> ・「水仙」 ・「ある〈共生〉の経験から」 			<ul style="list-style-type: none"> ・様々な文体や題材を切り口として人間の真実に迫る文学の価値を味わう。 ・情緒への訴えかけや圧縮された表現を読み解き、何を伝えようとしているのかを整理し表現する。 			
3	<ul style="list-style-type: none"> ・「寛容は自らを守るために不寛容に対して不寛容になるべきか」 			<ul style="list-style-type: none"> ・大きく変化する社会の中で自らの生き方を確立するにあたり、外界にどのような立場で相対するのかを考える。 			
学習 上の 留意 点	<ul style="list-style-type: none"> ・精密さと全体の味わいの緩急をつけて読む。 ・入試をふまえた問題演習を適宜行い、進路を実現する力を養う。 						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	地理歴史	科目	日本史探究	単位数	5 単位	履修学年	Ⅲ年Ⅰ類 進学文系
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・日本史の流れを理解し、歴史的考察力を身に付ける。 ・個々の歴史的事象を、因果関係の中で理解する態度を身に付ける。 ・諸資料から、歴史に関する情報を適切かつ効果的に調べ、まとめる技能を身に付ける。 ・歴史上に見られる課題を把握・検討し、それらを適切に表現する力を養う。 ・歴史の変化に関わる諸事象について、その課題を主体的に追究、解決する態度を養う。 						
評価の観点・評価基準	【知識・技能】 <ul style="list-style-type: none"> ・歴史の変化について、広く相互的な視野から捉え、理解できているか。 ・諸資料から、歴史に関する情報を適切かつ効果的に調べ、まとめることができているか。 						
	【思考・判断・表現】 <ul style="list-style-type: none"> ・歴史の変化に関わる諸事象について、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目し、多面的・多角的に考察できているか。 ・歴史上に見られる課題を把握・検討し、またそれらを適切に表現できているか。 						
	【主体的に学習に取り組む態度】 <ul style="list-style-type: none"> ・時代の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に、主体的に課題を追究しようとしているか。 						
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書『詳説日本史』（山川出版社） ・副教材『新詳日本史（付 史料の基礎210選）』（浜島書店） 						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	第9章 近世の幕開け 3. 幕政の安定 4. 経済の発展 第10章 幕藩体制の動揺 1. 幕政の改革 2. 宝暦・天明期の文化 3. 幕府の衰退と近代への道 4. 化政文化 第11章 近世から近代へ 1. 開国と幕末の動乱 2. 幕府の滅亡と新政府の発足 第12章 近代国家の成立 1. 明治維新と富国強兵 2. 立憲国家の成立			<ul style="list-style-type: none"> ・貨幣経済の発展を基礎に、領国一元支配に向けて封建制再編が進むことを理解させる。 ・海外からの強い影響が、国内の政治経済的統合を進める一因であったことに気付かせる。 ・江戸時代の長期安定のなかにおいても、社会的矛盾が深化してゆく姿をみる。 ・幕政藩政改革と比べながら国家的規模の変革の過程と限界を考えさせる。 ・近代化の過程を学び、後進的に資本主義化した日本がかかえる問題を考えさせる。 			
2	第13章 近代国家の展開 1. 日清・日露戦争と国際関係 2. 第一次世界大戦と日本 3. ワシントン体制 第14章 近代の産業と生活 1. 近代産業の発展 2. 近代文化の発達 3. 市民生活の変容と大衆文化 第15章 恐慌と第二次世界大戦 1. 恐慌の時代 2. 軍部の台頭 3. 第二次世界大戦 第16章 占領下の日本 1. 占領と改革 2. 冷戦の開始と講話			<ul style="list-style-type: none"> ・成立後の日本資本主義の課題に取り組む大正デモクラシーの姿を見て、その限界を考える。 ・資本主義の転換点である世界恐慌に、ブロック経済圏の拡大で臨む経過と結果をみる。 ・国際社会の中における日本の立場に着目し、大正～終戦までの対外政策の推移や、二つの大戦の影響について考察させる。 ・戦後の民主化について、日本を国際社会の中に位置づけて理解させる。冷戦による占領政策の転換、保守政治の安定までの過程をみる。 			
3	第17章 高度成長の時代 1. 55年体制 2. 経済復興から高度経済成長へ 第18章 激動する世界と日本 1. 経済大国への道 2. 冷戦の終結と日本社会の変容			<ul style="list-style-type: none"> ・高度成長とその限界を経て、グローバルな市場をめぐる競争時代になる一方で、環境・平和のための共存が模索されるべき時代である事を理解させる。 ・日本が国際社会の中で果たす役割を考察させ、平和や環境をめくり世界との協調が不可欠である現状を把握させる。 			
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・各事象の因果関係や、後世への影響について、常に留意しつつ、理解を深めさせる。 ・図説、史料などの補助資料を活用し、史資料読解に積極的に取り組む。 ・生徒自身が学習内容について主体的に考え、更にそれを表現する機会を多く設ける。 ・発問や小テストなどを通じて知識の定着を図る。 						

教科	公民	科目	政治・経済	単位数	2単位	履修学年	Ⅲ年Ⅰ類進学文系
到達目標	政治経済に関する基礎的事項の知識の習得を行う。その上で、憲法や人権意識の発展をとらえ、今日の日本や国際社会における問題点を考察し、自分なりの意見を持てると同時に異なる意見を理解し、考える力を身につける。経済面では、様々な課題を通じて、国家がどこまで経済に関与すべきか、また国際経済のグローバル化に国家はどのように関わることかなどの問題を考察させる。						
評価の観点・評価基準	<p>「知識・技能」…単なる語句の理解にとどまらず、実生活に必要な知識として定着しているか。</p> <p>「思考・判断・表現」…政治経済の諸問題に対し、多角的な視点で解決策や対策を思考できているか。かつ、学んだ知識を活用しているか。</p> <p>「主体的に取り組む態度」…授業態度の評価だけにとどまらず、グループワークなどを通じて、積極的に交流し、他者の意見を尊重できているか。課題やレポート提出などに取り組んで、さらなる発展学習につながっているか。</p>						
使用教材	教科書：政治・経済（第一学習社） 副教材：最新 政治・経済資料集 2024（第一学習社）						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	第1編 現代日本の政治・経済の諸課題 第1章 現代日本の政治・経済 第2節 望ましい政治のあり方と主権者としての政治参加のあり方 第3節 市場経済の機能と限界 第4節 持続可能な財政および租税のあり方 第5節 金融を通じた経済活動の活発化 第6節 経済活動と福祉の向上			<ul style="list-style-type: none"> ・現代の政治、経済の仕組みを学び、経済分野の基盤となる知識や思考力を養う。 ・日本経済の歩みなどを理解し、現在の日本経済の課題について学習する。 ・市場経済におけるさまざまな状況を学習する。 ・金融の仕組みを学び、財政の知識を深める。 			
2	第2章 現代日本の諸課題の探求 第2編 グローバル化する国際社会の諸課題 第1章 現代の国際政治・経済 第1節 国際法の果たす役割 第2節 国際平和と人類の福祉に寄与する日本の役割 第3節 相互依存関係が深まる国際経済の特質 第4節 国際経済において求められる日本の役割 第2章 国際社会の諸課題の探求			<ul style="list-style-type: none"> ・日本経済の抱える課題を、日本の現状から捉え、その解決方法を考察する力を養う。 ・グローバル化の進展に伴い、地域主義の動きが活発化していることを学習し、課題点について考察する。 ・国際政治、国際経済を学び、国際的つながりから国際社会のあり方を考察する。 ・世界における日本の役割を考察し、国際平和などへの貢献を学ぶ。国際社会の諸課題をこれまでの学習を基礎に考察する。 			
3	振り返り学習 演習						
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・政治経済分野を考察するために常に国内外の事柄に関心をもち、多角的な意見を持つことを心がける。 ・生徒が主体的に考えることのできるテーマや資料を活用し、生徒との対話を意識する授業を心がける。 ・多くの多角的な意見を教師側が提示し、その意見を取捨選択し、自らの意見を構築できる人材育成を心がける。 						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	公民	科目	公共	単位数	2 単位	履修学年	Ⅲ年Ⅰ類 進学文系
到達目標	幸福、正義、公正など、人間と社会のあり方についての見方、考え方はたらかせ、現代社会の諸課題の解決に向け、社会に参画する主体として自立し、他者と協働して考察できる資質を身につける。そのために倫理、社会、政治、法、経済、国際関係の諸課題を知り、それに対する主体的な意見をもてるように努める。						
評価の観点・評価基準	【知識・技能】 基本的な用語を理論的、体系的に理解すると同時に、その語句を自らの言葉で説明し、議論などに正しく使うことができるか。						
	【思考・判断・表現】 データをグラフや表などからしっかりと読みとり、客観的にそれを理解し、自分の体験などを振り返りながら、自分なりの意見につなげることができるか。そしてそれを、正しい知識や表現を使いながら、客観的に伝えることができるか。						
	【主体的に取り組む態度】 一方通行の授業を受けるのではなく、発問等に対し、他者の判断に流されるのではなく、自分なりの意見を持つことができるか。また一つの判断に固執せず、様々な意見を聴きながら多面的に考察し、積極的に新しい発想で物事を考えようとしているか。						
使用教材	教科書…公共（第一学習社） 副教材…クローズアップ公共2022						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	2章 政治的な主体となる私たち 主題4 政治参加と公正な世論の形成 主題5 国際社会と国家主権 主題6 日本の安全保障と防衛 主題7 国際社会の変化と日本の役割			<ul style="list-style-type: none"> ・民意を政治に反映するために選挙で投票し、政治参加することの重要性を理解させる。 ・国際連合の役割や課題を理解し、国際連合の未来の役割について考察させる。 ・平和主義とその変遷について理解し、世界平和のために果たすべき役割について考察させる。 ・国際社会の現状と課題を理解し、国際社会の中の日本が果たすべき役割について考察させる。 			
2	3章 経済的な主体となる私たち 主題8 雇用と労働問題 主題9 社会の変化と職業観 主題10 市場経済の機能と限界 主題11 金融のはたらき 主題12 財政の役割と社会保障 主題13 経済のグローバル化			<ul style="list-style-type: none"> ・経済の基本的なしくみを理解し、経済的意思決定が将来の選択に役立つことを理解させる。 ・少子高齢化による労働力不足が問題となる中、労働者の権利を理解させる。 ・経済をどのように運営し、国民の福祉を向上するための対処方法を考察させる。 ・物価安定のための中央銀行の働きを理解する ・公債を発行する問題点を理解し、持続可能な財政と社会保障制度についてを考察する。 ・国際社会が目指している貿易を理解し、現在の課題を克服する方法を考察する。 			
3	ふりかえり学習						
学習上の留意点	<p>一方的な知識伝達型の授業にならないように留意する。</p> <p>ニュースなどを学習上では随意取り上げ、机上の学習ではなく、現実の理解をうながすものであることを教師が心掛け、生徒へも意識付けをさせる。</p> <p>議論の中においては、異なる意見であったとしても、それを一方的に否定するのではなく、その考えに至った理由などを理解させることにより多角的に考え、より自分の意見を深化させていくことができるような指導を心がける。</p>						

教科	公民	科目	政治・経済	単位数	2単位	履修学年	Ⅲ年Ⅰ類進学理系
到達目標	政治経済に関する基礎的事項の知識の習得を行う。その上で、憲法や人権意識の発展をとらえ、今日の日本や国際社会における問題点を考察し、自分なりの意見を持てると同時に異なる意見を理解し、考える力を身につける。経済面では、様々な課題を通じて、国家がどこまで経済に関与すべきか、また国際経済のグローバル化に国家はどのように関わるのかなどの問題を考察させる。						
評価の観点・評価基準	<p>「知識・技能」…単なる語句の理解にとどまらず、実生活に必要な知識として定着しているか。</p> <p>「思考・判断・表現」…政治経済の諸問題に対し、多角的な視点で解決策や対策を思考できているか。かつ、学んだ知識を活用しているか。</p> <p>「主体的に取り組む態度」…授業態度の評価だけにとどまらず、グループワークなどを通じて、積極的に交流し、他者の意見を尊重できているか。課題やレポート提出などに取り組んで、さらなる発展学習につながっているか。</p>						
使用教材	教科書：政治・経済（第一学習社） 副教材：最新 政治・経済資料集 2024（第一学習社）						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	第1編 現代日本の政治・経済の諸課題 第1章 現代日本の政治・経済 第2節 望ましい政治のあり方と主権者としての政治参加のあり方 第3節 市場経済の機能と限界 第4節 持続可能な財政および租税のあり方 第5節 金融を通じた経済活動の活発化 第6節 経済活動と福祉の向上			<ul style="list-style-type: none"> ・現代の政治、経済の仕組みを学び、経済分野の基盤となる知識や思考力を養う。 ・日本経済の歩みなどを理解し、現在の日本経済の課題について学習する。 ・市場経済におけるさまざまな状況を学習する。 ・金融の仕組みを学び、財政の知識を深める。 			
2	第2章 現代日本の諸課題の探求 第2編 グローバル化する国際社会の諸課題 第1章 現代の国際政治・経済 第1節 国際法の果たす役割 第2節 国際平和と人類の福祉に寄与する日本の役割 第3節 相互依存関係が深まる国際経済の特質 第4節 国際経済において求められる日本の役割 第2章 国際社会の諸課題の探求			<ul style="list-style-type: none"> ・日本経済の抱える課題を、日本の現状から捉え、その解決方法を考察する力を養う。 ・グローバル化の進展に伴い、地域主義の動きが活発化していることを学習し、課題点について考察する。 ・国際政治、国際経済を学び、国際的つながりから国際社会のあり方を考察する。 ・世界における日本の役割を考察し、国際平和などへの貢献を学ぶ。国際社会の諸課題をこれまでの学習を基礎に考察する。 			
3	振り返り学習 演習						
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・政治経済分野を考察するために常に国内外の事柄に関心を持ち、多角的な意見を持つことを心がける。 ・生徒が主体的に考えることのできるテーマや資料を活用し、生徒との対話を意識する授業を心がける。 ・多くの多角的な意見を教師側が提示し、その意見を取捨選択し、自らの意見を構築できる人材育成を心がける。 						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	地理歴史	科目	日本史探究	単位数	4単位	履修学年	Ⅲ年Ⅱ類進学 ・特選文系
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・日本史の流れを理解し、歴史的考察力を身に付ける。 ・個々の歴史的事象を、因果関係の中で理解する態度を身に付ける。 ・諸資料から、歴史に関する情報を適切かつ効果的に調べ、まとめる技能を身に付ける。 ・歴史に見られる課題を把握・検討し、それらを適切に表現する力を養う。 ・歴史の変化に関わる諸事象について、その課題を主体的に追究、解決する態度を養う。 						
評価の観点・評価基準	【知識・技能】 <ul style="list-style-type: none"> ・歴史の変化について、広く相互的な視野から捉え、理解できているか。 ・諸資料から、歴史に関する情報を適切かつ効果的に調べ、まとめることができているか。 						
	【思考・判断・表現】 <ul style="list-style-type: none"> ・歴史の変化に関わる諸事象について、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目し、多面的・多角的に考察できているか。 ・歴史に見られる課題を把握・検討し、またそれらを適切に表現できているか。 						
	【主体的に学習に取り組む態度】 <ul style="list-style-type: none"> ・時代の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に、主体的に課題を追究しようとしているか。 						
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書『詳説日本史』（山川出版社） ・副教材『新詳日本史（付 史料の基礎210選）』（浜島書店） 						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	第9章 近世の幕開け 3. 幕政の安定 4. 経済の発展 第10章 幕藩体制の動揺 1. 幕政の改革 2. 宝暦・天明期の文化 3. 幕府の衰退と近代への道 4. 化政文化 第11章 近世から近代へ 1. 開国と幕末の動乱 2. 幕府の滅亡と新政府の発足 第12章 近代国家の成立 1. 明治維新と富国強兵 2. 立憲国家の成立			<ul style="list-style-type: none"> ・貨幣経済の発展を基礎に、領国一円支配に向けて封建制再編が進むことを理解させる。 ・海外からの強い影響が、国内の政治経済的統合を進める一因であったことに気付かせる。 ・江戸時代の長期安定のなかにおいても、社会的矛盾が深化してゆく姿をみる。 ・幕政藩政改革と比べながら国家的規模の変革の過程と限界を考えさせる。 ・近代化の過程を学び、後進的に資本主義化した日本がかかえる問題を考えさせる。 			
2	第13章 近代国家の展開 1. 日清・日露戦争と国際関係 2. 第一次世界大戦と日本 3. ワシントン体制 第14章 近代の産業と生活 1. 近代産業の発展 2. 近代文化の発達 3. 市民生活の変容と大衆文化 第15章 恐慌と第二次世界大戦 1. 恐慌の時代 2. 軍部の台頭 3. 第二次世界大戦 第16章 占領下の日本 1. 占領と改革 2. 冷戦の開始と講話			<ul style="list-style-type: none"> ・成立後の日本資本主義の課題に取り組む大正デモクラシーの姿を見て、その限界を考える。 ・資本主義の転換点である世界恐慌に、ブロック経済圏の拡大で臨む経過と結果をみる。 ・国際社会の中における日本の立場に着目し、大正～終戦までの対外政策の推移や、二つの大戦の影響について考察させる。 ・戦後の民主化について、日本を国際社会の中に位置づけて理解させる。冷戦による占領政策の転換、保守政治の安定までの過程をみる。 			
3	第17章 高度成長の時代 1. 55年体制 2. 経済復興から高度経済成長へ 第18章 激動する世界と日本 1. 経済大国への道 2. 冷戦の終結と日本社会の変容 演習			<ul style="list-style-type: none"> ・高度成長とその限界を経て、グローバルな市場をめぐる競争時代になる一方で、環境・平和のための共存が模索されるべき時代である事を理解させる。 ・日本が国際社会の中で果たす役割を考察させ、平和や環境をめぐる世界との協調が不可欠である現状を把握させる。 			
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・各事象の因果関係や、後世への影響について、常に留意しつつ、理解を深めさせる。 ・図説、史料などの補助資料を活用し、史資料読解に積極的に取り組む。 ・生徒自身が学習内容について主体的に考え、更にそれを表現する機会を多く設ける。 ・発問や小テストなどを通じて知識の定着を図る。 						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	地理歴史	科目	世界史探究	単位数	4 単位	履修学年	Ⅲ年Ⅱ類進学文系
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 世界の各地で生まれた文明の特色を、地理的条件をふまえた上で理解する。 世界史の学習を通じ、世界との関わりから日本の歴史を捉えていこうとする視点を養う。 2年次に3単位、3年次に4単位で教科書の内容を学習する。 						
評価の観点・評価基準	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業で扱っている範囲・テーマに対して関心を持ち、意欲的態度で授業に臨んでいるか。 各範囲の学習内容を全体的・構造的視野から理解し、基本的知識を身につけているか。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 歴史的事象について考察し、判断しているか。 図表や教科書等の諸資料を活用し、考察した過程や結果を適切に表現できるか。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 時代や地域の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に、主体的に課題を追究しようとしているか。 授業・課題提出・定期考査などを通して、以上の観点から評価する。 						
使用教材	<p>教科書：『新詳世界史探究』（帝国書院）</p> <p>副教材：『グローバルワイド最新世界史図表（改訂29版）』（第一学習社）</p>						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	<p>3部 諸地域の交流・再編</p> <p>2章 アジア諸地域の成熟とヨーロッパの進出</p> <p>3章 主権国家体制の成立と交易の拡大</p> <p>4部 諸地域の結合・変容</p> <p>1章 環大西洋革命～工業文明と国民国家の誕生</p> <p>2章 イギリスの覇権と欧米の国民国家建設</p> <p>3章 世界の一体化の進展とアジアの変容</p>			<ul style="list-style-type: none"> 周辺世界や諸民族、諸宗教との関連を視野に入れてオスマン帝国、ムガル帝国を理解する。 大航海時代によって成立した近代世界史システムを理解するとともに、宗教改革と対抗宗教改革、オランダの覇権と英仏の台頭など17世紀ヨーロッパと、ロシア台頭など国際社会の推移を理解する。 アメリカ独立やフランス革命の世界史的意義を理解する。 			
2	<p>4章 世界の一体化の完成とその影響</p> <p>5章 世界大戦の時代</p> <p>6章 戦後の国際秩序と冷戦</p> <p>5部 地球世界の課題</p> <p>1章 冷戦の展開と平和の模索</p> <p>2章 グローバル化する国際経済とその課題</p> <p>3章 情報と科学技術によって結びつく世界</p> <p>4章 地球世界の課題の探究</p>			<ul style="list-style-type: none"> 帝国主義時代の特徴を、様々な側面から把握する。 欧米列強による世界秩序形成、植民地化の拡大などを理解する。 アヘン戦争から辛亥革命の経緯について、整理して把握する。 総力戦としての大戦的な性格、大戦終結に至る経緯を把握する。 ロシア革命の意義や、国際協調の成果と限界について考察する。 第二次世界大戦に至る対立状況を認識する。 連合国軍の反撃と終戦にいたる経緯について理解する。 東西冷戦体制の成立とその世界化の諸状況について理解し、核の脅威と平和の意義について考察する。 冷戦後の世界経済のグローバル化と、発生した諸問題、地域経済圏形成の動きなどについて理解する。 			
3	演習						
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> 3年次では2年次の続きを学習するため、前年に引き続き地理的要因、思想にも留意しながら世界史の基本的な知識を身につけていく。 語句の暗記に終始しないよう、興味・関心を喚起する授業を展開する。 小テストを適宜実施し、学習内容の理解徹底に努める。 						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	地理歴史	科目	世界史探究	単位数	4 単位	履修学年	Ⅲ年Ⅱ類特別選抜文系
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 世界の各地で生まれた文明の特色を、地理的条件をふまえた上で理解する。 世界史の学習を通じ、世界との関わりから日本の歴史を捉えていこうとする視点を養う。 2年次に3単位、3年次に4単位で教科書の内容を学習する。 						
評価の観点・評価基準	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業で扱っている範囲・テーマに対して関心を持ち、意欲的態度で授業に臨んでいるか。 各範囲の学習内容を全体的・構造的視野から理解し、基本的知識を身につけているか。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 歴史的事象について考察し、判断しているか。 図表や教科書等の諸資料を活用し、考察した過程や結果を適切に表現できるか。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 時代や地域の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に、主体的に課題を追究しようとしているか。 授業・課題提出・定期考査などを通して、以上の観点から評価する。 						
使用教材	<p>教科書：『新詳世界史探究』（帝国書院）</p> <p>副教材：『グローバルワイド最新世界史図表（改訂29版）』（第一学習社）</p>						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	<p>3部 諸地域の交流・再編</p> <p>2章 アジア諸地域の成熟とヨーロッパの進出</p> <p>3章 主権国家体制の成立と交易の拡大</p> <p>4部 諸地域の結合・変容</p> <p>1章 環大西洋革命～工業文明と国民国家の誕生</p> <p>2章 イギリスの覇権と欧米の国民国家建設</p> <p>3章 世界の一体化の進展とアジアの変容</p>			<ul style="list-style-type: none"> 周辺世界や諸民族、諸宗教との関連を視野に入れてオスマン帝国、ムガル帝国を理解する。 大航海時代によって成立した近代世界史システムを理解するとともに、宗教改革と対抗宗教改革、オランダの覇権と英仏の台頭など17世紀ヨーロッパと、ロシア台頭など国際社会の推移を理解する。 アメリカ独立やフランス革命の世界史的意義を理解する。 			
2	<p>4章 世界の一体化の完成とその影響</p> <p>5章 世界大戦の時代</p> <p>6章 戦後の国際秩序と冷戦</p> <p>5部 地球世界の課題</p> <p>1章 冷戦の展開と平和の模索</p> <p>2章 グローバル化する国際経済とその課題</p> <p>3章 情報と科学技術によって結びつく世界</p> <p>4章 地球世界の課題の探究</p>			<ul style="list-style-type: none"> 帝国主義時代の特徴を、様々な側面から把握する。 欧米列強による世界秩序形成、植民地化の拡大などを理解する。 アヘン戦争から辛亥革命の経緯について、整理して把握する。 総力戦としての大戦的性格、大戦終結に至る経緯を把握する。 ロシア革命の意義や、国際協調の成果と限界について考察する。 第二次世界大戦に至る対立状況を認識する。 連合軍の反撃と終戦にいたる経緯について理解する。 東西冷戦体制の成立とその世界化の諸状況について理解し、核の脅威と平和の意義について考察する。 冷戦後の世界経済のグローバル化と、発生した諸問題、地域経済圏形成の動きなどについて理解する。 			
3	演習						
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> 3年次では2年次の続きを学習するため、前年に引き続き地理的要因、思想にも留意しながら世界史の基本的な知識を身につけていく。 語句の暗記に終始しないよう、興味・関心を喚起する授業を展開する。 小テストを適宜実施し、学習内容の理解徹底に努める。 						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	地理歴史	科目	地理探究	単位数	3単位	履修学年	Ⅲ年Ⅱ類 進学・特選理系
到達目標	<p>① 地球的な視野から地理的事象の空間的な規則性、傾向性や関連する課題の発生要因を捉える学習を通して、現代世界の諸事象の地理的認識を深めるとともに、系統地理的な考察方法を身に付ける。</p> <p>② ①をふまえ、選択した地域の特性とそこで発生する諸課題について捉える学習を通して、現代世界の諸地域の地理的認識を深めるとともに、地誌的な考察方法を身に付ける。</p> <p>③ ①、②をふまえ、我が国が抱える地理的な諸課題の解決の方向性や持続可能な国土像の在り方を構想する学習を通して、現代世界における日本の現状と望ましい将来像についての認識を深めるとともに、主体的な学習活動である探究の手法を身に付ける。</p>						
評価の観点・評価規準	<p>【知識・技能】</p> <p>○地図や地理情報システムなどの読み取りを通して、地球的な視野から地理的事象の空間的な規則性、傾向性や関連する課題の発生要因について理解することで、現代世界の諸事象の地理的認識を深めている。</p> <p>○地図や地理情報システムなどの読み取りを通して、世界諸地域の特性とそこで発生する諸課題について理解することで、現代世界の諸地域についての地理的認識を深めている。</p> <p>○調査、討論、発表などの探究的な学習を通して、現代世界における日本の現状について理解することで、望ましい将来像についての認識を深めている。</p>						
	<p>【思考・判断・表現】</p> <p>○地理的事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりすることができる。</p> <p>○考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりすることができる。</p>						
	<p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>○知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取り組みを行おうとしている。また、粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。</p> <p>○よりよい社会の実現を視野に、世界諸地域や日本において見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。</p> <p>○地理的な課題への多面的・多角的な考察や深い理解を通して市民としての自覚を持つとともに、社会へ参画することへの意識が高まっている。</p>						
評価の方法	<p>○年4回実施の定期考査では、出題範囲における知識と資料活用の技能の習得状況、思考力・判断力・表現力を評価する。</p> <p>○課題学習で提出されるレポートを評価のための資料とする。</p> <p>○日頃の学習活動の様子や発表、討論、論述などの内容を評価のための資料とする。</p> <p>○評定は、上記の方法で得られた評価に関する情報を総合的に判断して行うものとする。</p>						
使用教材	<p>帝国書院「詳説地理探究」（地探701） 帝国書院「新詳高等地図」（地図310） 副教材 帝国書院「詳説地理資料COMPLETE2024」</p>						
1	<p>第1部 現代世界の系統地理的考察 第1章 自然環境 4節 地球環境問題 第2章 産業と資源 1節 農林水産業 2節 食料問題 3節 エネルギー・鉱産資源 4節 資源・エネルギー問題 5節 工業 6節 第3次産業</p>			<p>地球環境問題とは さまざまな地球環境問題 地球環境問題の解決に向けた取り組み</p> <p>農業の発達と分布 農業の地域区分 現代世界の農業の現状と課題 日本の農業の現状と課題 世界と日本の林業・水産業 世界の食料問題 日本の食料問題 エネルギー資源の種類と利用 化石燃料の分布と利用 電力の利用 鉱産資源の種類と利用 資源・エネルギーをめぐる問題 日本の資源・エネルギー問題 工業の発達と種類 工業の立地 世界の工業地域 現代世界の工業の現状と課題 経済発展と第3次産業 商業の現状と変化</p>			

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	公民	科目	政治経済	単位数	3 単位	履修学年	Ⅲ年Ⅱ類 進学・特選文系
到達目標	政治経済に関する基礎的事項の知識の習得を行う。その上で、憲法や人権意識の発展をとらえ、今日の日本や国際社会における問題点を考察し、自分なりの意見を持てると同時に異なる意見を理解し、考える力を身につける。経済面では、様々な課題を通じて、国家がどこまで経済に関与すべきか、また国際経済のグローバル化に国家はどのように関わるのかなどの問題を考察させる。						
評価の観点・評価基準	<p>「知識及び技能」…単なる語句の理解にとどまらず、実生活に必要な知識として定着しているか。</p> <p>「思考力、判断力、表現力等」…政治経済の諸問題に対し、多角的な視点で解決策や対策を思考できているか。かつ、学んだ知識を活用しているか。</p> <p>「主体的に学習に取り組む態度」…授業態度の評価だけにとどまらずグループワークなどを通じて、積極的に交流し、他者の意見を尊重できているか。</p>						
使用教材	<p>教科書：政治・経済（第一学習社）</p> <p>副教材：政治・経済資料集（第一学習社）</p>						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	<p>市場経済の機能と限界</p> <p>持続可能な財政および租税のあり方</p> <p>金融を通じた経済活動の活発化経済活動と福祉の向上</p> <p>金融・財政のしくみとはたらき</p> <p>国際経済のしくみ</p> <p>国際協調と国際経済機関の役割</p> <p>南北問題と日本の役割</p> <p>現代経済の仕組み</p> <p>中小企業と農業</p> <p>消費者問題</p>			<ul style="list-style-type: none"> ・現代経済の仕組みを学び経済分野の基盤となる思考力を養う ・日本経済の歩みを理解し、現在の日本経済の課題について学習する。 ・国際経済の抱える課題を捉え、その解決方法を考察する力を定着させる 			
2	<p>現代日本の政治・経済の諸課題</p> <p>現代日本の政治・経済</p> <p>望ましい政治のあり方と主権者としての政治参加のあり方</p> <p>国際平和と人類の福祉に寄与する日本の役割</p> <p>相互依存関係が深まる国際経済の特質</p> <p>国際経済において求められる日本の役割</p>			<ul style="list-style-type: none"> ・民主主義思想の成立と近代憲法の関わりを学ぶ。 ・日本国憲法の基本原理の理解と、現在の問題点を考える。 ・基本的人権の成り立ちと現在の権利を、判例などを通じて考えさせる。 ・日本の政治制度の問題点を意識し、主権者としての自覚を持たせる ・国際社会と日本の関係を学ぶ。 			
3	振り返り学習						
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・政治経済分野を考察するための材料として教師側が常に国内外の事柄に関心を持ち、多角的な意見を持つことを心がける。 ・生徒が主体的に考えることのできるテーマや資料を活用し、生徒との対話を意識する授業を心がける。 ・多くの多角的な意見を教師側が提示し、その意見を取捨選択し自らの意見を構築できる人材育成を心がける。 						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	数学	科目	数学Ⅱ	単位数	3単位	履修学年	Ⅲ年 Ⅰ類進学文系
到達目標	<p>前半では、高校Ⅰ・Ⅱ年生で学んだことの確認の意味で基礎的な問題に取り組み、基礎学力の向上を目標とする。 後半では、入試レベルの問題に多く取り組み、大学入試に対応できる実力を養うことを目標とする。</p>						
評価の観点・評価基準	<p>【知識・技能】 基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な力を身に付けているかどうか。</p>						
	<p>【思考・判断・表現】 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力が養われているかどうか。</p>						
	<p>【主体的に学習に取り組む態度】 考え方に関心・意欲をもつとともに、積極的に取り組み粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断し、問題解決の過程を振り返って考察を深め、評価・改善したりしようとしているかどうか。</p>						
	<p>【基準】 「定期考査、宿題確認テスト、小テスト、授業時の様子、課題提出、観点別ワークシート、補講」などを基に総合的に評価する。</p>						
使用教材	<p>教科書 啓林館「深進数学Ⅱ（数Ⅱ708）」 副教材 啓林館「深進数学Ⅰ（数Ⅰ711）、深進数学A（数A711）」 傍用問題集 啓林館「定着演習編 Axis 数学Ⅰ+A」 啓林館「定着演習編 Axis 数学Ⅱ」 補助教材 実教出版「短期集中ゼミ 数学Ⅰ・A・Ⅱ・B・C」 補助教材として、大学入試に対応した問題集を使用する。</p>						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	数学Ⅱを中心とした基礎問題演習			基礎学力の向上と実力養成			
2	入試対策演習			数学Ⅰ・Ⅱ・Aの実力養成			
3	入試直前演習			数学Ⅰ・Ⅱ・Aの実践力養成			
学習上の留意点	<p>授業では、主に問題集を使用し演習を行う。授業に臨むにあたり、前もって問題を家庭で取り組んでおくことは必要不可欠である。学習の中で、分からない問題が出てきたときに、すぐに答えを見てしまうのではなく、今までに習ったことを利用しながら考える力を高め、自ら取り組む姿勢を見せて欲しい。考えてもどうしても解けない問題については質問し、解決出来るまで何度でも取り組むこと。 また、答案の書き方についてもしっかりと考えること。</p>						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	数学	科目	数学Ⅱ	単位数	4単位	履修学年	Ⅲ年 Ⅰ類進学理系
到達目標	<p>前半では、高校Ⅰ・Ⅱ年生で学んだことの確認の意味で基礎的な問題に取り組み、基礎学力の向上を目標とする。 後半では、入試レベルの問題に多く取り組み、大学入試に対応できる実力を養うことを目標とする。</p>						
評価の観点・評価基準	<p>【知識・技能】 基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な力を身に付けているかどうか。</p>						
	<p>【思考・判断・表現】 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力が養われているかどうか。</p>						
	<p>【主体的に学習に取り組む態度】 考え方に関心・意欲をもつとともに、積極的に取り組み粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断し、問題解決の過程を振り返って考察を深め、評価・改善したりしようとしているかどうか。</p>						
	<p>【基準】 「定期考査、宿題確認テスト、小テスト、授業時の様子、課題提出、観点別ワークシート、補講」などを基に総合的に評価する。</p>						
使用教材	<p>教科書 啓林館「深進数学Ⅱ」（数Ⅱ708） 傍用問題集 啓林館「定着演習編 Axis 数学Ⅱ」 参考書 啓林館「Focus Gold Smart 数学Ⅱ」 補助教材 数研出版「リンク数学演習Ⅰ・A+Ⅱ・B・C（ベクトル）$a+b+c+d$」 数研出版「大学入学共通テスト対策数学Ⅰ・A+Ⅱ・B・C上級演習 PLAN120」 補助教材として、大学入試に対応した問題集を使用する。</p>						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	数学Ⅱを中心とする基礎問題演習			基礎学力の向上と実力養成			
2	数学Ⅱを中心とする基本問題演習 大学入学共通テスト対策演習 大学入試記述対策演習			大学入試に向けた実力養成			
3	大学入試記述対策演習			大学入試に向けた実力養成			
学習上の留意点	<p>授業では、大学入学共通テストに向けた対策問題を中心に授業で扱います。学習した内容は、必ずその日のうちに復習することが大切です。毎日の家庭習をする習慣を身につけるために、問題集での演習に加え1日3題という宿題を課します。解らない問題はすぐにあきらめず、解るまで考える。自分で考えても解らないときは積極的に質問し、解決できるまで何度でも取り組むようにしてください。自力で解けなかった問題をノートに書き溜め、忘れた頃に解き直し二度と間違えないようにすることも大切です。Focus Gold Smart については、家庭学習の中で上手に活用することで基礎から発展まで幅広い内容を学習することができます。</p>						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	数学	科目	数学 B	単位数	1 単位	履修学年	Ⅲ年 Ⅰ類進学理系
到達目標	<p>前半では、高校Ⅰ・Ⅱ年生で学んだことの確認の意味で基礎的な問題に取り組み、基礎学力の向上を目標とする。 後半では、入試レベルの問題に多く取り組み、大学入試に対応できる実力を養うことを目標とする。</p>						
評価の観点・評価基準	<p>【知識・技能】 基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な力を身に付けているかどうか。</p>						
	<p>【思考・判断・表現】 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力が養われているかどうか。</p>						
	<p>【主体的に学習に取り組む態度】 考え方に興味・意欲をもつとともに、積極的に取り組み粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断し、問題解決の過程を振り返って考察を深め、評価・改善したりしようとしているかどうか。</p>						
	<p>【基準】 「定期考査、宿題確認テスト、小テスト、授業時の様子、課題提出、観点別ワークシート、補講」などを基に総合的に評価する。</p>						
使用教材	<p>教科書 啓林館「深進数学 B」(数 B 7 0 9) 傍用問題集 啓林館「定着演習編 Axis 数学 B」 参考書 啓林館「Focus Gold Smart 数学 B」 補助教材 数研出版「リンク数学演習Ⅰ・A+Ⅱ・B・C (ベクトル) a+b+c+d」 数研出版「大学入学共通テスト対策数学Ⅰ・A+Ⅱ・B・C 上級演習 PLAN120」 補助教材として、大学入試に対応した問題集を使用する。</p>						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	数学 B を中心とする基礎問題演習			基礎学力の向上と実力養成			
2	数学 B を中心とする基本問題演習 大学入学共通テスト対策演習 大学入試記述対策演習			大学入試に向けた実力養成			
3	大学入試記述対策演習			大学入試に向けた実力養成			
学習上の留意点	<p>授業では、大学入学共通テストに向けた対策問題を中心に授業で扱います。学習した内容は、必ずその日のうちに復習することが大切です。毎日の家庭習をする習慣を身につけるために、問題集での演習に加え1日3題という宿題を課します。解らない問題はすぐにあきらめず、解るまで考える。自分で考えても解らないときは積極的に質問し、解決できるまで何度でも取り組むようにしてください。自力で解けなかった問題をノートに書き溜め、忘れた頃に解き直し二度と間違えないようにすることも大切です。Focus Gold Smart については、家庭学習の中で上手に活用することで基礎から発展まで幅広い内容を学習することができます。</p>						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	数学	科目	数学 C	単位数	1 単位	履修学年	Ⅲ年 Ⅰ類進学理系
到達目標	<p>前半では、高校Ⅰ・Ⅱ年生で学んだことの確認の意味で基礎的な問題に取り組み、基礎学力の向上を目標とする。 後半では、入試レベルの問題に多く取り組み、大学入試に対応できる実力を養うことを目標とする。</p>						
評価の観点・評価基準	<p>【知識・技能】 基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な力を身に付けているかどうか。</p>						
	<p>【思考・判断・表現】 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力が養われているかどうか。</p>						
	<p>【主体的に学習に取り組む態度】 考え方に関心・意欲をもつとともに、積極的に取り組み粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断し、問題解決の過程を振り返って考察を深め、評価・改善したりしようとしているかどうか。</p>						
	<p>【基準】 「定期考査、宿題確認テスト、小テスト、授業時の様子、課題提出、観点別ワークシート、補講」などを基に総合的に評価する。</p>						
使用教材	<p>教科書 啓林館「深進数学 C」(数 C 7 0 7) 傍用問題集 啓林館「定着演習編 Axis 数学 C」 参考書 啓林館「Focus Gold Smart 数学 C」 補助教材 数研出版「リンク数学演習Ⅰ・A+Ⅱ・B・C (ベクトル) a+b+c+d」 数研出版「大学入学共通テスト対策数学Ⅰ・A+Ⅱ・B・C 上級演習 PLAN120」 補助教材として、大学入試に対応した問題集を使用する。</p>						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	数学 C を中心とする基礎問題演習			基礎学力の向上と実力養成			
2	数学 C を中心とする基本問題演習 大学入学共通テスト対策演習 大学入試記述対策演習			大学入試に向けた実力養成			
3	大学入試記述対策演習			大学入試に向けた実力養成			
学習上の留意点	<p>授業では、大学入学共通テストに向けた対策問題を中心に授業で扱います。学習した内容は、必ずその日のうちに復習することが大切です。毎日の家庭学習をする習慣を身につけるために、問題集での演習に加え1日3題という宿題を課します。解らない問題はすぐにあきらめず、解るまで考える。自分で考えても解らないときは積極的に質問し、解決できるまで何度でも取り組むようにしてください。自力で解けなかった問題をノートに書き溜め、忘れた頃に書き直し二度と間違えないようにすることも大切です。Focus Gold Smart については、家庭学習の中で上手に活用することで基礎から発展まで幅広い内容を学習することができます。</p>						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	数学	科目	数学Ⅲ	単位数	4 単位	履修学年	Ⅲ年 Ⅰ類進学理系
到達目標	<p>関数の極限、微分法及び積分法について、基礎的な内容の習得と技能の習得を図り、それらの知識や技能を的確に活用する能力を伸ばすとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにすることを目標とする。基本的な公式についての使い方や意味を考えることにより、使いこなせるようにしていく。基礎的な知識の習得と反復練習により理解を深める。また応用問題についても「考えること」を大切に、「応用力」を身につける。</p>						
評価の観点・評価基準	<p>【知識・技能】 基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な力を身に付けているかどうか。</p>						
	<p>【思考・判断・表現】 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力が養われているかどうか。</p>						
	<p>【主体的に学習に取り組む態度】 考え方に関心・意欲をもつとともに、積極的に取り組み粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断し、問題解決の過程を振り返って考察を深め、評価・改善したりしようとしているかどうか。</p>						
	<p>【基準】 「定期考査、宿題確認テスト、小テスト、授業時の様子、課題提出、観点別ワークシート、補講」などを基に総合的に評価する。</p>						
使用教材	<p>教科書 啓林館「深進数学Ⅲ」（数Ⅲ 707） 傍用問題集 啓林館「定着演習編 Axis 数学Ⅲ」 補助教材 数研出版「リンク数学演習Ⅰ・A+Ⅱ・B・C（ベクトル）$a+b+c+d$」 数研出版「リンク数学演習Ⅲ・C（複素数平面、式と曲線）$a+b+c$」 数研出版「大学入学共通テスト対策数学Ⅰ・A+Ⅱ・B・C 上級演習 PLAN120」 補助教材として、大学入試に対応した問題集を使用する。</p>						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	<p>第2章 関数とその極限 第1節 分数関数と無理関数</p> <p>第2節 関数の極限と連続性</p>			<p>分数・無理関数のグラフを描き、それを利用して分数・無理方程式、分数・無理不等式を解く。関数と逆関数の関係を理解し、合成関数についても考察する。</p> <p>片側からの極限など、より詳しく極限を調べて、関数の極限値の性質についてまとめる。 $\sin\theta/\theta$の極限を学習し、絶対値を使った三角関数の評価も学習し、いろいろな三角関数の極限が求められるようにする。また、ガウス記号で表される関数から、関数が連続であることの意味を理解し、それと関連して、中間値の定理などの重要な連続関数の性質を認識し、方程式の実数解の存在する区間を調べる場合などに活用できるようにする。</p>			

	大学入試に向けた総合演習	発展学習として大学入試で扱われる問題を多く取り組み、思考力を養成する。
3	大学入試に向けた総合演習	大学入試に対応できる実力養成
学習上の留意点	<p>授業では、教科書のコア編のみならず探究編も扱います。また、問題集 Axis を使って演習を行います。特に授業で学習した内容は、必ずその日のうちに復習することが大切です。毎日の家庭学習をする習慣を身につけるために、問題集での演習に加え1日3題という宿題を課します。解らない問題はすぐにあきらめず、解るまで考える。自分で考えても解らないときは積極的に質問し、解決できるまで何度も取り組むようにしてください。自分で解けなかった問題をノートに書き溜め、忘れた頃に解き直し二度と間違えないようにすることも大切です。</p> <p>演習については、Axis の演習と応用を中心に授業で扱いますが、必須の問題も含めてきちんと取り組むことによって基礎力を身につけることができます。</p>	

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	数学	科目	数学 C	単位数	2 単位	履修学年	Ⅲ年 Ⅰ類進学理系
到達 目標	複素数平面、2次曲線、媒介変数と極座標について、基礎的な内容の習得と技能の習得を図り、それらの知識や技能を的確に活用する能力を伸ばすとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにすることを目標とする。基本的な公式についての使い方や意味を考えることにより、使いこなせるようにしていく。基礎的な知識の習得と反復練習により理解を深める。また応用問題についても「考えること」を大切に、「応用力」を身につける。						
評価 の観 点・ 評価 基準	【知識・技能】 基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な力を身に付けているかどうか。						
	【思考・判断・表現】 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力が養われているかどうか。						
	【主体的に学習に取り組む態度】 考え方に関心・意欲をもつとともに、積極的に取り組み粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断し、問題解決の過程を振り返って考察を深め、評価・改善したりしようとしているかどうか。						
	【基準】 「定期考査、宿題確認テスト、小テスト、授業時の様子、課題提出、観点別ワークシート、補講」などを基に総合的に評価する。						
使用 教材	教科書 啓林館「深進数学 C」(数 C 7 0 7) 傍用問題集 啓林館「定着演習編 Axis 数学 C」 参考書 数研出版「Focus World Smart 数学 C」 補助教材 数研出版「リンク数学演習Ⅰ・A+Ⅱ・B・C(ベクトル) a+b+c+d」 数研出版「リンク数学演習Ⅲ・C(複素数平面、式と曲線) a+b+c」 数研出版「大学入学共通テスト対策数学Ⅰ・A+Ⅱ・B・C上級演習 PLAN120」 補助教材として、大学入試に対応した問題集を使用する。						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	第1章 複素数平面 第1節 複素数平面 第2節 平面図形と複素数			数学Ⅱにおいて方程式の解として導入された複素数を、座標平面上の点に対応させることで平面上の点として表し、複素数の四則演算の図形的な意味を考える。ベクトルを利用して、複素数の和・差および実数倍を図示し、複素数の極形式による表現から、複素数の積・商の図形的意味を示して、ド・モアブルの定理を導く。さらに、この定理を利用して二項方程式 $z^n - a = 0$ を解き、その解を図示することを通して、累乗根の図形的な意味や結果の美しさを通して、複素数平面の考え方の良さを理解する。 平面図形を複素数の集合と見なして、複素数の平面図形の問題への応用を図る。2点間の距離と絶対値、内・外分点の複素数、点zのまわりの回転移動、2直線のなす角の複素数による表現、3点の共線条件、2直線の垂直条件、複			

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	数学	科目	数学Ⅱ	単位数	4 単位	履修学年	Ⅱ年 Ⅰ類進学理系
到達目標	方程式・式と証明、図形と方程式、いろいろな関数、及び微分法・積分法の考え方を理解し、基礎的な事項の知識を習得し、事象を数学的に処理する能力を伸ばす。それとともに、数学的な見方や考え方の良さを認識する。						
評価の観点・評価基準	【知識・技能】 基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な力を身に付けているかどうか。						
	【思考・判断・表現】 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力が養われているかどうか。						
	【主体的に学習に取り組む態度】 考え方に関心・意欲をもつとともに、積極的に取り組み粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断し、問題解決の過程を振り返って考察を深め、評価・改善したりしようとしているかどうか。						
	【基準】 「定期考査、宿題確認テスト、実力テスト、小テスト、授業時の様子、課題提出、演習ノート提出、復習ノート提出、観点別ワークシート、補講」などを基に総合的に評価する。						
使用教材	教科書 啓林館「深進数学Ⅱ」(数Ⅱ708) 傍用問題集 啓林館「定着演習編 Axis 数学Ⅱ」 参考書 啓林館「Focus Gold 5th Edition 数学Ⅱ+B+C(ベクトル)」 補助教材として深進数学Ⅲの教科書、傍用問題集、参考書を用いることもある。						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	第1章 式と証明・高次方程式 第1節 多項式の乗法・除法と分数式 第2節 式と証明 第3節 高次方程式 第2章 図形と方程式 第1節 点と直線 第2節 円と直線			「数学Ⅰ」で学んだ整式の加法・減法・乗法に続き、その除法を理解する。また、分母に文字を含む分数式の計算を理解する。 等式・不等式の証明方法について学び、基本的な等式・不等式の証明を理解する。 方程式の解の判別、分類について学び、解と係数の関係を利用して、方程式の解の有り様を理解する。また、因数定理を利用して、高次方程式を理解する。 2点間の距離の公式や内分点・外分点の座標計算を利用して、平面図形の性質や関係を調べる。また、直線の方程式について学び、2直線の位置関係を調べたり、点と直線の距離の求め方を理解する。 円の方程式について学び、円と直線、円と円との位置関係を理解する。また、円の接線の方程式の求め方を理解する。			

2	<p>第3節 軌跡と領域</p> <p>第4章 指数関数・対数関数 第1節 指数と指数関数</p> <p>第2節 対数と対数関数</p> <p>第5章 微分法・積分法 第1節 微分係数と導関数</p> <p>第2節 導関数の応用</p> <p>第3節 積分</p>	<p>与えられた条件を満たす点の集合としての軌跡の方程式を理解する。また、不等式で表された領域の図示を理解する。</p> <p>指数法則、累乗根を理解する。指数関数の基本的な性質を理解し、指数関数のグラフが描け、グラフを使って方程式や不等式を解く。</p> <p>対数と指数の関係を理解し、対数関数のグラフが描け、グラフを使って方程式や不等式を解く。また、常用対数を利用し、数の桁数などを求められることを理解する。</p> <p>平均変化率や微分係数の意味を理解する。また、導関数の定義を理解し、整関数の導関数を理解する。</p> <p>導関数を利用して、関数の増減、極値、最大値・最小値を調べ、関数のグラフを描く。また、関数のグラフを利用して、方程式の実数解の個数や不等式について理解する。</p> <p>微分法の逆演算として不定積分を理解する。また、定積分の計算を理解する。さらに、定積分を利用して放物線や直線で囲まれた図形の面積の計算を理解する。</p>
3	<p>【数学Ⅲ】</p> <p>第1章 数列の極限 第1節 無限数列</p> <p>第2節 無限級数</p> <p>第2章 関数とその極限 第1節 分数関数と無理関数</p>	<p>数列の極限に関して、収束、発散、振動の意味や、極限値の性質、はさみうちの原理などの基本事項を理解し、分数列や無理数列などの基本的な場合に極限値が求められるようにする。続いて、特に応用範囲の広い無限等比数列の極限についてまとめる。さらに、漸化式によって定義される数列の極限を考察し、数列の極限に関する理解を一層深めることとする。</p> <p>無限級数の部分和とその極限値について考察し、無限級数の和を定義する。また級数の中で、最も重要な無限等比級数についてその収束・発散をまとめ、循環小数を分数で表すことなどの具体的な問題の解決に活用できるようにする。</p> <p>分数・無理関数のグラフを描き、それを利用して分数・無理方程式、分数・無理不等式を解く。関数と逆関数の関係を理解し、合成関数についても考察する。</p>

	<p>第2節 関数の極限と連続性</p> <p>※進捗状況及び学習状況により進捗が前後することがあります。</p>	<p>片側からの極限など、より詳しく極限を調べて、関数の極限值の性質についてまとめる。 $\sin \theta / \theta$の極限を学習し、絶対値を使った三角関数の評価も学習し、いろいろな三角関数の極限が求められるようにする。また、ガウス記号で表される関数から、関数が連続であることの意味を理解し、それと関連して、中間値の定理などの重要な連続関数の性質を認識し、方程式の実数解の存在する区間を調べる場合などに活用できるようにする。</p>
<p>学習上の留意点</p>	<p>授業では、教科書のコア編のみならず探究編も扱います。また、問題集 Axis を使って演習を行います。特に授業で学習した内容は、必ずその日のうちに復習することが大切です。毎日の家庭学習をする習慣を身につけるために、問題集での演習に加え1日3題という宿題を課します。解らない問題はすぐにあきらめず、解るまで考える。自分で考えても解らないときは積極的に質問し、解決できるまで何度も取り組むようにしてください。自分で解けなかった問題をノートに書き溜め、忘れた頃に書き直し二度と間違えないようにすることも大切です。</p> <p>演習については、Axis の演習と応用を中心に授業で扱いますが、必須の問題も含めてきちんと取り組むことによって基礎力を身につけることができます。また、Focus Gold 5th Edition については、家庭学習の中で上手に活用することで基礎から発展まで幅広い内容を学習することができます。</p>	

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	数学	科目	数学 B	単位数	2 単位	履修学年	Ⅱ年 Ⅰ類進学理系
到達目標	<p>数列・統計的な推測について、概念を理解すること、基礎的な知識の習得と技能の習熟、事象を数学的に考察する能力を培うことなどを目標とする。また、数学のよさを認識し、習得した知識、習熟した技能、事象を数学的に考察する能力等を積極的に活用する態度を育てることを目標とする。</p>						
評価の観点・評価基準	<p>【知識・技能】 基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な力を身に付けているかどうか。</p>						
	<p>【思考・判断・表現】 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力が養われているかどうか。</p>						
	<p>【主体的に学習に取り組む態度】 考え方に関心・意欲をもつとともに、積極的に取り組み粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断し、問題解決の過程を振り返って考察を深め、評価・改善したりしようとしているかどうか。</p>						
	<p>【基準】 「定期考査、宿題確認テスト、実力テスト、小テスト、授業時の様子、課題提出、演習ノート提出、復習ノート提出、観点別ワークシート、補講」などを基に総合的に評価する。</p>						
使用教材	<p>教科書 啓林館「深進数学 B」(数 B 7 0 9) 傍用問題集 啓林館「定着演習編 Axis 数学 B」 参考書 啓林館「Focus Gold 5th Edition 数学Ⅱ + B + C (ベクトル)」</p>						
学期	学習内容			学習のねらい			
2	<p>第 1 章 数列 第 1 節 等差数列・等比数列</p> <p>第 2 節 いろいろな数列</p>			<p>数列の一般項の意味を理解し、初項、第 n 項、末項、項数、有限数列、無限数列などの基本用語を理解する。次に、基本となる等差数列と等比数列を学ぶ。第 n 項を n の式で表し、第 n 項までの和の公式を導く。その際に用いる考え方の良さを理解し、数列の他の問題の解決に応用できるようにする。</p> <p>和の記号 Σ を導入して、その性質をまとめる。続いて自然数の和、平方の和、立方の和の公式を導き、それらと共に、記号 Σ によって様々な数列の和が見通しよく計算できることを理解する。次に、階差数列から元の数列の一般項を求める方法を学ぶ。特に、階差数列が等差数列や等比数列となるような簡単な場合について考察して理解の定着を図る。さらに、和が先に与えられた場合に、その数列の第 n 項を求めることを通して、和と第 n 項の間の一般的な関係を理解する。また、分数列について、部分分数分解による和の求め方を学び、その巧妙な考え方の良さを理解して、類似の問題に応用できるようにする。</p>			

	第3節 漸化式と数学的帰納法	漸化式の意味を理解する。続いて、漸化式から一般項を導く技法を学ぶ。ここでは、等差数列、等比数列を表す漸化式から始めて、隣接二項間の漸化式の解法を学ぶ。
3	<p>第2章 統計的な推測</p> <p>第1節 確率分布</p> <p>第2節 正規分布</p> <p>第3節 区間推定と仮説検定</p>	<p>確率変数や確率分布の意味を理解する。確率変数の期待値、分散、標準偏差やその性質について理解を深め、確率分布の特徴を考察できるようにする。また、二項分布に関する特徴や性質を理解する。</p> <p>連続型確率変数や確率密度関数に関する用語を理解し、その期待値、分散、標準偏差を求められるようにする。また、正規分布の定義及び、その性質を理解する。</p> <p>区間推定や、正規分布を利用した母平均の仮説検定の考え方を利用して、統計的な推測をできるようにする。</p>
学習上の留意点	<p>授業では、教科書のコア編のみならず探究編も扱います。また、問題集 Axis を使って演習を行います。特に授業で学習した内容は、必ずその日のうちに復習することが大切です。毎日の家庭学習をする習慣を身につけるために、問題集での演習に加え1日3題という宿題を課します。解らない問題はすぐにあきらめず、解るまで考える。自分で考えても解らないときは積極的に質問し、解決できるまで何度でも取り組むようにしてください。自力で解けなかった問題をノートに書き溜め、忘れた頃に解き直し二度と間違えないようにすることも大切です。</p> <p>演習については、Axis の演習と応用を中心に授業で扱いますが、必須の問題も含めてきちんと取り組むことによって基礎力を身につけることができます。また、Focus Gold 5th Edition については、家庭学習の中で上手に活用することで基礎から発展まで幅広い内容を学習することができます。</p>	

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	数学	科目	数学 C	単位数	1 単位	履修学年	Ⅱ年 I 類進学理系
到達目標	ベクトルについて、概念を理解すること、基礎的な知識の習得と技能の習熟、事象を数学的に考察する能力を培うことなどを目標とする。また、数学のよさを認識し、習得した知識、習熟した技能、事象を数学的に考察する能力等を積極的に活用する態度を育てることを目標とする。						
評価の観点・評価基準	【知識・技能】 基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な力を身に付けているかどうか。						
	【思考・判断・表現】 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力が養われているかどうか。						
	【主体的に学習に取り組む態度】 考え方に関心・意欲をもつとともに、積極的に取り組み粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断し、問題解決の過程を振り返って考察を深め、評価・改善したりしようとしているかどうか。						
	【基準】 「定期考査、宿題確認テスト、実力テスト、小テスト、授業時の様子、課題提出、演習ノート提出、復習ノート提出、観点別ワークシート、補講」などを基に総合的に評価する。						
使用教材	教科書 啓林館「深進数学 C」(数 C 7 0 7) 傍用問題集 啓林館「定着演習編 Axis 数学 C」 参考書 啓林館「Focus Gold 5th Edition 数学 II + B + C (ベクトル)」						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	第 1 章 ベクトル 第 1 節 ベクトルとその演算 第 2 節 ベクトルと図形			平面上のベクトルについて、有向線分を利用した幾何ベクトルによって、その意味、相等、加法、減法および実数倍について理解する。続いて、座標平面上にベクトルを置き、ベクトルを成分で表して、いわゆる計量ベクトルを導入する。さらに、ベクトルの内積の意味や基本的な性質を学び、平面図形の性質の考察に応用する。 位置ベクトルの考えを理解し、図形の性質の考察においてベクトルが利用できることを認識する。また、ベクトル方程式を取り扱い、直線や線分、およびそれで囲まれた領域などの平面図形をベクトルを用いて表現できるようにする。			
2	第 3 節 空間のベクトル			空間座標を導入して、空間内の点を 3 つの実数の組として表す。続いて空間においてもベクトルが定義され、内積を含むベクトルの演算、位置ベクトルの考えなどが、平面の場合と同様に考察することができることを理解する。			

学
習
上
の
留
意
点

授業では、教科書のコア編のみならず探究編も扱います。また、問題集 Axis を使って演習を行います。特に授業で学習した内容は、必ずその日のうちに復習することが大切です。毎日の家庭学習をする習慣を身につけるために、問題集での演習に加え1日3題という宿題を課します。解らない問題はすぐにあきらめず、解るまで考える。自分で考えても解らないときは積極的に質問し、解決できるまで何度でも取り組むようにしてください。自力で解けなかった問題をノートに書き溜め、忘れた頃に解き直し二度と間違えないようにすることも大切です。

演習については、Axis の演習と応用を中心に授業で扱いますが、必須の問題も含めてきちんと取り組むことによって基礎力を身につけることができます。また、Focus Gold 5th Edition については、家庭学習の中で上手に活用することで基礎から発展まで幅広い内容を学習することができます。

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	数学	科目	数学Ⅱ	単位数	3 単位	履修学年	Ⅲ年 Ⅱ類進学文系
到達目標	<p>前半では、高校Ⅰ・Ⅱ年生で学んだことの確認の意味で基礎的な問題に取り組み、基礎学力の向上を目標とする。</p> <p>後半では、大学入学共通テストレベルの問題に多く取り組み、大学入試に対応できる実力を養うことを目標とする。</p>						
評価の観点・評価基準	<p>【知識・技能】 基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な力を身に付けているかどうか。</p>						
	<p>【思考・判断・表現】 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力が養われているかどうか。</p>						
	<p>【主体的に学習に取り組む態度】 考え方に関心・意欲をもつとともに、積極的に取り組み粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断し、問題解決の過程を振り返って考察を深め、評価・改善したりしようとしているかどうか。</p>						
	<p>【基準】 「定期考査、宿題確認テスト、小テスト、授業時の様子、課題提出、観点別ワークシート、補講」などを基に総合的に評価する。</p>						
使用教材	<p>教科書 啓林館「深進数学Ⅱ」（数Ⅱ708） 傍用問題集 啓林館「演習思考編 Grasp 数学Ⅱ」 参考書 啓林館「Focus Gold 5th Edition 数学Ⅱ」 補助教材 啓林館「大学入学共通テスト対応問題集 数学Ⅰ・A・Ⅱ・B・C」 数研出版「リンク数学演習Ⅰ・A+Ⅱ・B・C（ベクトル）$a+b+c+d$」 補助教材として、大学入試に対応した問題集を使用する。</p>						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	数学Ⅱを中心とする基本問題演習			大学入学共通テストに対応するための基礎学力向上			
2	大学入学共通テスト対策演習			大学入学共通テストに向けた実力養成			
3	大学入学共通テスト対策演習			大学入学共通テストに向けた実力養成			
学習上の留意点	<p>授業では、大学入学共通テストに向けた対策問題を中心に授業で扱います。学習した内容は、必ずその日のうちに復習することが大切です。毎日の家庭習をする習慣を身につけるために、問題集での演習に加え1日3題という宿題を課します。解らない問題はすぐにあきらめず、解るまで考える。自分で考えても解らないときは積極的に質問し、解決できるまで何度でも取り組むようにしてください。自力で解けなかった問題をノートに書き溜め、忘れた頃に解き直し二度と間違えないようにすることも大切です。</p> <p>また、補助教材である大学入学共通テスト対応問題集 数学Ⅰ・A・Ⅱ・B・Cは、今までに使用したFocus Gold 5th Editionに準拠しているため、家庭学習の中で上手に活用することで基礎から発展まで幅広い内容を学習することができます。</p>						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	数学	科目	数学B	単位数	2単位	履修学年	Ⅲ年 Ⅱ類進学文系
到達目標	<p>前半では、高校Ⅰ・Ⅱ年生で学んだことの確認の意味で基礎的な問題に取り組み、基礎学力の向上を目標とする。 後半では、大学入学共通テストレベルの問題に多く取り組み、大学入試に対応できる実力を養うことを目標とする。</p>						
評価の観点・評価基準	<p>【知識・技能】 基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な力を身に付けているかどうか。</p>						
	<p>【思考・判断・表現】 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力が養われているかどうか。</p>						
	<p>【主体的に学習に取り組む態度】 考え方に関心・意欲をもつとともに、積極的に取り組み粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断し、問題解決の過程を振り返って考察を深め、評価・改善したりしようとしているかどうか。</p>						
	<p>【基準】 「定期考査、宿題確認テスト、小テスト、授業時の様子、課題提出、観点別ワークシート、補講」などを基に総合的に評価する。</p>						
使用教材	<p>教科書 啓林館「深進数学B」(数B709) 傍用問題集 啓林館「演習思考編 Grasp 数学B+C」 参考書 啓林館「Focus Gold 5th Edition 数学B+C」 補助教材 啓林館「大学入学共通テスト対応問題集 数学Ⅰ・A・Ⅱ・B・C」 数研出版「リンク数学演習Ⅰ・A+Ⅱ・B・C(ベクトル) a+b+c+d」 補助教材として、大学入試に対応した問題集を使用する。</p>						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	数学Bを中心とする基本問題演習			大学入学共通テストに対応するための基礎学力向上			
2	大学入学共通テスト対策演習			大学入学共通テストに向けた実力養成			
3	大学入学共通テスト対策演習			大学入学共通テストに向けた実力養成			
学習上の留意点	<p>授業では、大学入学共通テストに向けた対策問題を中心に授業で扱います。学習した内容は、必ずその日のうちに復習することが大切です。毎日の家庭習をする習慣を身につけるために、問題集での演習に加え1日3題という宿題を課します。解らない問題はすぐにあきらめず、解るまで考える。自分で考えても解らないときは積極的に質問し、解決できるまで何度でも取り組むようにしてください。自力で解けなかった問題をノートに書き溜め、忘れた頃に解き直し二度と間違えないようにすることも大切です。</p> <p>また、補助教材である大学入学共通テスト対応問題集 数学Ⅰ・A・Ⅱ・B・Cは、今までに使用したFocus Gold 5th Editionに準拠しているため、家庭学習の中で上手に活用することで基礎から発展まで幅広い内容を学習することができます。</p>						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	数学	科目	数学C	単位数	1 単位	履修学年	Ⅲ年 Ⅱ類進学文系
到達目標	<p>前半では、高校Ⅰ・Ⅱ年生で学んだことの確認の意味で基礎的な問題に取り組み、基礎学力の向上を目標とする。 後半では、大学入学共通テストレベルの問題に多く取り組み、大学入試に対応できる実力を養うことを目標とする。</p>						
評価の観点・評価基準	<p>【知識・技能】 基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な力を身に付けているかどうか。</p>						
	<p>【思考・判断・表現】 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力が養われているかどうか。</p>						
	<p>【主体的に学習に取り組む態度】 考え方に関心・意欲をもつとともに、積極的に取り組み粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断し、問題解決の過程を振り返って考察を深め、評価・改善したりしようとしているかどうか。</p>						
	<p>【基準】 「定期考査、宿題確認テスト、小テスト、授業時の様子、課題提出、観点別ワークシート、補講」などを基に総合的に評価する。</p>						
使用教材	<p>教科書 啓林館「深進数学C」(数C707) 傍用問題集 啓林館「演習思考編 Grasp 数学B+C」 参考書 啓林館「Focus Gold 5th Edition 数学B+C」 補助教材 啓林館「大学入学共通テスト対応問題集 数学Ⅰ・A・Ⅱ・B・C」 数研出版「リンク数学演習Ⅰ・A+Ⅱ・B・C(ベクトル) a+b+c+d」 補助教材として、大学入試に対応した問題集を使用する。</p>						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	数学Cを中心とする基本問題演習			大学入学共通テストに対応するための基礎学力向上			
2	大学入学共通テスト対策演習			大学入学共通テストに向けた実力養成			
3	大学入学共通テスト対策演習			大学入学共通テストに向けた実力養成			
学習上の留意点	<p>授業では、大学入学共通テストに向けた対策問題を中心に授業で扱います。学習した内容は、必ずその日のうちに復習することが大切です。毎日の家庭習をする習慣を身につけるために、問題集での演習に加え1日3題という宿題を課します。解らない問題はすぐにあきらめず、解るまで考える。自分で考えても解らないときは積極的に質問し、解決できるまで何度でも取り組むようにしてください。自力で解けなかった問題をノートに書き溜め、忘れた頃に解き直し二度と間違えないようにすることも大切です。 また、補助教材である大学入学共通テスト対応問題集 数学Ⅰ・A・Ⅱ・B・Cは、今までに使用したFocus Gold 5th Editionに準拠しているため、家庭学習の中で上手に活用することで基礎から発展まで幅広い内容を学習することができます。</p>						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	数学	科目	数学Ⅲ	単位数	4 単位	履修学年	Ⅲ年 Ⅱ類進学理系
到達目標	微分法及び積分法について、基礎的な内容の習得と技能の習得を図り、それらの知識や技能を的確に活用する能力を伸ばすとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにすることを目標とする。基本的な公式についての使い方や意味を考えることにより、使いこなせるようにしていく。基礎的な知識の習得と反復練習により理解を深める。また応用問題についても「考えること」を大切に、「応用力」を身につける。						
評価の観点・評価基準	【知識・技能】 基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な力を身に付けているかどうか。						
	【思考・判断・表現】 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力が養われているかどうか。						
	【主体的に学習に取り組む態度】 考え方に関心・意欲をもつとともに、積極的に取り組み粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断し、問題解決の過程を振り返って考察を深め、評価・改善したりしようとしているかどうか。						
	【基準】 「定期考査、宿題確認テスト、小テスト、授業時の様子、課題提出、観点別ワークシート、補講」などを基に総合的に評価する。						
使用教材	教科書 啓林館「深進数学Ⅲ」（数Ⅲ 707） 傍用問題集 啓林館「演習思考編 Grasp 数学Ⅲ」 参考書 啓林館「Focus Gold 5th Edition 数学Ⅲ」 補助教材 啓林館「大学入学共通テスト対応問題集 数学Ⅰ・A・Ⅱ・B・C」 数研出版「リンク数学演習Ⅰ・A+Ⅱ・B・C（ベクトル）a+b+c+d」 数研出版「リンク数学演習Ⅲ・C（複素数平面，式と曲線）a+b+c」 補助教材として、大学入試に対応した問題集を使用する。						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	第3章 微分法 第1節 微分と導関数 第2節 いろいろな関数の導関数 第3節 導関数の応用			微分可能かどうかを詳しく見る。連続と微分可能の関係を学習する。導関数の定義を学習し、合成関数や逆関数、陰関数など種々の関数についても微分できるようにする。 三角関数の微分、対数関数の微分とそれに関連する自然対数の底 e の導入と指数関数の微分を学習する。 簡単な関数の第2次導関数、第3次導関数が求められるようにする。 直線の方程式 $y - y_1 = m(x - x_1)$ を使って接線の方程式を求める。また、垂直条件を使って法線の方程式を求める。平均値の定理を導入し、実際に不等式の証明などに使って実用化する。数学Ⅱで扱った増減表に慣れると共に問題が解けるようにする。第2次導関数とグラフの関係を見つけて、実際にグラフをかくときの手段の一つとして使えるようにする。			

	<p>第4節 いろいろな応用</p> <p>第4章 積分法 第1節 不定積分</p> <p>第2節 定積分</p> <p>第3節 積分法の応用</p>	<p>増減表、グラフに注意をしながら、最大・最小の問題、文章問題に挑戦する。グラフをかいて、方程式・不等式を証明する。媒介変数を使った関数についてのグラフについて学習する。関数を使って、多項式で近似する。</p> <p>不定積分といろいろな積分をすることにより、扱える関数をより詳しく見る準備をする。置換積分と部分積分を学習し、積分できる関数の幅を増やす。</p> <p>定積分を定義し、初等関数を実際に定積分する。公式を導き出し、日常において使えるように練習する。 区分求積法の考えにより、定積分と面積の関係について理解する</p> <p>曲線と直線などで囲まれた部分の面積、媒介変数表示を用いて表される曲線で囲まれた部分の面積など、様々な関数を使って定義された図形の面積の求め方を学習する。体積が積分によって求められることを理解し、一般の立体図形の体積や、平面上の曲線で囲まれた図形を x 軸または y 軸のまわりに1回転してできる回転体の体積の求め方を学習する。簡単な曲線について、曲線の長さの求め方を学習する</p>
2	大学入試に向けた総合演習	発展学習として大学入試で扱われる問題を多く取り組み、思考力を養成する。
3	大学入試の個別試験および 大学入学共通テスト対策総合演習	大学入試の個別試験および 大学入学共通テストに向けた実力養成
学習上の留意点	<p>授業では、教科書のコア編のみならず探究編も扱います。また、問題集Graspを使って演習を行います。特に授業で学習した内容は、必ずその日のうちに復習することが大切です。毎日の家庭学習をする習慣を身につけるために、問題集での演習に加え1日3題という宿題を課します。解らない問題はすぐにあきらめず、解るまで考える。自分で考えても解らないときは積極的に質問し、解決できるまで何度でも取り組むようにしてください。自力で解けなかった問題をノートに書き溜め、忘れた頃に解き直し二度と間違えないようにすることも大切です。</p> <p>演習については、節末問題に加え、GraspのB問題と深問題を中心に授業で扱いますが、A問題の問題も含めてきちんと取り組むことによって基礎力を身につけることができます。また、Focus Gold 5th Editionについては、家庭学習の中で上手に活用することで基礎から発展まで幅広い内容を学習することができます</p>	

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	数学	科目	数学B	単位数	1 単位	履修学年	Ⅲ年 Ⅱ類進学理系
到達目標	<p>前半では、高校Ⅰ・Ⅱ年生で学んだことの確認の意味で基礎的な問題に取り組み、基礎学力の向上を目標とする。</p> <p>後半では、大学入試の個別試験および大学入学共通テストレベルの問題に多く取り組み、大学入試に対応できる実力を養うことを目標とする。</p>						
評価の観点・評価基準	<p>【知識・技能】 基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な力を身に付けているかどうか。</p>						
	<p>【思考・判断・表現】 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力が養われているかどうか。</p>						
	<p>【主体的に学習に取り組む態度】 考え方に関心・意欲をもつとともに、積極的に取り組み粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断し、問題解決の過程を振り返って考察を深め、評価・改善したりしようとしているかどうか。</p>						
	<p>【基準】 「定期考査、宿題確認テスト、小テスト、授業時の様子、課題提出、観点別ワークシート、補講」などを基に総合的に評価する。</p>						
使用教材	<p>教科書 啓林館「深進数学B」(数B709) 傍用問題集 啓林館「演習思考編 Grasp 数学B+C」 参考書 啓林館「Focus Gold 5th Edition 数学B+C」 補助教材 啓林館「大学入学共通テスト対応問題集 数学Ⅰ・A・Ⅱ・B・C」 数研出版「リンク数学演習Ⅰ・A+Ⅱ・B・C(ベクトル) a+b+c+d」 数研出版「リンク数学演習Ⅲ・C(複素数平面, 式と曲線) a+b+c」 補助教材として、大学入試に対応した問題集を使用する。</p>						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	数学Bを中心とする基本問題演習			大学入試の個別試験および 大学入学共通テストに対応するための 基礎学力向上			
2	大学入試の個別試験および 大学入学共通テスト対策演習			大学入試の個別試験および 大学入学共通テストに向けた実力養成			
3	大学入試の個別試験および 大学入学共通テスト対策演習			大学入試の個別試験および 大学入学共通テストに向けた実力養成			
学習上の留意点	<p>授業では、大学入試の個別試験および大学入学共通テストに向けた対策問題を中心に授業で扱います。学習した内容は、必ずその日のうちに復習することが大切です。毎日の家庭習をする習慣を身につけるために、問題集での演習に加え1日3題という宿題を課します。解らない問題はすぐにあきらめず、解るまで考える。自分で考えても解らないときは積極的に質問し、解決できるまで何度でも取り組むようにしてください。自力で解けなかった問題をノートに書き溜め、忘れた頃に解き直し二度と間違えないようにすることも大切です。</p> <p>また、補助教材である大学入学共通テスト対応問題集 数学Ⅰ・A・Ⅱ・B・Cは、今までに使用したFocus Gold 5th Editionに準拠しているため、家庭学習の中で上手に活用することで基礎から発展まで幅広い内容を学習することができます。</p>						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	数学	科目	数学C	単位数	2 単位	履修学年	Ⅲ年 Ⅱ類進学理系
到達目標	<p>複素数平面、2次曲線、媒介変数と極座標について、基礎的な内容の習得と技能の習得を図り、それらの知識や技能を的確に活用する能力を伸ばすとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにすることを目標とする。基本的な公式についての使い方や意味を考えることにより、使いこなせるようにしていく。基礎的な知識の習得と反復練習により理解を深める。また応用問題についても「考えること」を大切に、「応用力」を身につける。</p>						
評価の観点・評価基準	<p>【知識・技能】 基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な力を身に付けているかどうか。</p>						
	<p>【思考・判断・表現】 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力が養われているかどうか。</p>						
	<p>【主体的に学習に取り組む態度】 考え方に関心・意欲をもつとともに、積極的に取り組み粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断し、問題解決の過程を振り返って考察を深め、評価・改善したりしようとしているかどうか。</p>						
	<p>【基準】 「定期考査、宿題確認テスト、小テスト、授業時の様子、課題提出、観点別ワークシート、補講」などを基に総合的に評価する。</p>						
使用教材	<p>教科書 啓林館「深進数学C」(数C707) 傍用問題集 啓林館「演習思考編 Grasp 数学B+C」 参考書 啓林館「Focus Gold 5th Edition 数学B+C」 補助教材 啓林館「大学入学共通テスト対応問題集 数学Ⅰ・A・Ⅱ・B・C」 数研出版「リンク数学演習Ⅰ・A+Ⅱ・B・C（ベクトル）a+b+c+d」 数研出版「リンク数学演習Ⅲ・C（複素数平面、式と曲線）a+b+c」 補助教材として、大学入試に対応した問題集を使用する。</p>						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	第1章 複素数平面 第1節 複素数平面 第2節 平面図形と複素数			<p>数学Ⅱにおいて方程式の解として導入された複素数を、座標平面上の点に対応させることで平面上の点として表し、複素数の四則演算の図形的な意味を考える。ベクトルを利用して、複素数の和・差および実数倍を図示し、複素数の極形式による表現から、複素数の積・商の図形的意味を示して、ド・モアブルの定理を導く。さらに、この定理を利用して二項方程式$z^n - a = 0$を解き、その解を図示することを通して、累乗根の図形的な意味や結果の美しさを通して、複素数平面の考え方の良さを理解する。</p> <p>平面図形を複素数の集合と見なして、複素数の平面図形の問題への応用を図る。2点間の距離と絶対値、内・外分点の複素数、点zのまわりの回転移動、2直線のなす角の複素数による表現、3点の共線条件、2直線の垂直条件、複素数の等式が表す図形などについて学び、幾何</p>			

	<p>第2章 平面上の曲線 第1節 2次曲線</p> <p>第2節 媒介変数と極座標</p>	<p>学的な関係が、どのように複素数の代数的な演算と結びつくかを考察して複素数を総合的に理解する。</p> <p>2次曲線の標準形を学習し、焦点・準線・グラフがかけられるようにする。2次曲線を平行移動することで図形もかけられるようにする。判別式を用いて、共有点の数を理解する。</p> <p>媒介変数表示は重要な箇所であるため、自由自在に計算ができ、活用できるようにする。 極方程式・離心率についても学び、曲線の見聞を広める。</p>
2	大学入試に向けた総合演習	発展学習として大学入試で扱われる問題を多く取り組み、思考力を養成する。
3	大学入試の個別試験および 大学入学共通テスト対策総合演習	大学入試の個別試験および 大学入学共通テストに向けた実力養成
学習上の留意点	<p>授業で学習した内容は、必ずその日のうちに復習することが大切です。毎日の家庭学習をする習慣を身につけるために、問題集での演習に加え1日3題という宿題を課します。解らない問題はすぐにあきらめず、解るまで考える。自分で考えても解らないときは積極的に質問し、解決できるまで何度でも取り組むようにしてください。自力で解けなかった問題をノートに書き溜め、忘れた頃に解き直し二度と間違えないようにすることも大切です。</p> <p>演習については、節末問題に加え、GraspのB問題と深問題を中心に授業で扱いますが、A問題の問題も含めてきちんと取り組むことによって基礎力を身につけることができます。また、Focus Gold 5th Editionについては、家庭学習の中で上手に活用することで基礎から発展まで幅広い内容を学習することができます。</p>	

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	数学	科目	数学Ⅱ	単位数	3 単位	履修学年	Ⅲ年 Ⅱ類特選文系
到達目標	<p>前半では、高校Ⅰ・Ⅱ年生で学んだことの確認の意味で基礎的な問題に取り組み、基礎学力の向上を目標とする。 後半では、大学入学共通テストレベルの問題に多く取り組み、大学入試に対応できる実力を養うことを目標とする。</p>						
評価の観点・評価基準	<p>【知識・技能】 基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な力を身に付けているかどうか。</p>						
	<p>【思考・判断・表現】 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力が養われているかどうか。</p>						
	<p>【主体的に学習に取り組む態度】 考え方に関心・意欲をもつとともに、積極的に取り組み粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断し、問題解決の過程を振り返って考察を深め、評価・改善したりしようとしているかどうか。</p>						
	<p>【基準】 「定期考査、宿題確認テスト、小テスト、授業時の様子、課題提出、観点別ワークシート、補講」などを基に総合的に評価する。</p>						
使用教材	<p>教科書 啓林館「深進数学Ⅱ」（数Ⅱ 708） 傍用問題集 啓林館「演習思考編 Grasp 数学Ⅱ」 参考書 啓林館「Focus Gold 5th Edition 数学Ⅱ」 補助教材 啓林館「大学入学共通テスト対応問題集 数学Ⅰ・A・Ⅱ・B・C」 数研出版「リンク数学演習Ⅰ・A+Ⅱ・B・C（ベクトル）a+b+c+d」 補助教材として、大学入試に対応した問題集を使用する。</p>						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	数学Ⅱを中心とする基本問題演習			大学入学共通テストに対応するための基礎学力向上			
2	大学入学共通テスト対策演習			大学入学共通テストに向けた実力養成			
3	大学入学共通テスト対策演習			大学入学共通テストに向けた実力養成			
学習上の留意点	<p>授業では、大学入学共通テストに向けた対策問題を中心に授業で扱います。学習した内容は、必ずその日のうちに復習することが大切です。毎日の家庭習をする習慣を身につけるために、問題集での演習に加え1日3題という宿題を課します。解らない問題はすぐにあきらめず、解るまで考える。自分で考えても解らないときは積極的に質問し、解決できるまで何度でも取り組むようにしてください。自力で解けなかった問題をノートに書き溜め、忘れた頃に解き直し二度と間違えないようにすることも大切です。 また、補助教材である大学入学共通テスト対応問題集 数学Ⅰ・A・Ⅱ・B・Cは、今までに使用したFocus Gold 5th Editionに準拠しているため、家庭学習の中で上手に活用することで基礎から発展まで幅広い内容を学習することができます。</p>						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	数学	科目	数学B	単位数	2単位	履修学年	Ⅲ年 Ⅱ類特選文系
到達目標	<p>前半では、高校Ⅰ・Ⅱ年生で学んだことの確認の意味で基礎的な問題に取り組み、基礎学力の向上を目標とする。 後半では、大学入学共通テストレベルの問題に多く取り組み、大学入試に対応できる実力を養うことを目標とする。</p>						
評価の観点・評価基準	<p>【知識・技能】 基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な力を身に付けているかどうか。</p>						
	<p>【思考・判断・表現】 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力が養われているかどうか。</p>						
	<p>【主体的に学習に取り組む態度】 考え方に関心・意欲をもつとともに、積極的に取り組み粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断し、問題解決の過程を振り返って考察を深め、評価・改善したりしようとしているかどうか。</p>						
	<p>【基準】 「定期考査、宿題確認テスト、小テスト、授業時の様子、課題提出、観点別ワークシート、補講」などを基に総合的に評価する。</p>						
使用教材	<p>教科書 啓林館「深進数学B」(数B709) 傍用問題集 啓林館「演習思考編 Grasp 数学B+C」 参考書 啓林館「Focus Gold 5th Edition 数学B+C」 補助教材 啓林館「大学入学共通テスト対応問題集 数学Ⅰ・A・Ⅱ・B・C」 数研出版「リンク数学演習Ⅰ・A+Ⅱ・B・C(ベクトル) a+b+c+d」 補助教材として、大学入試に対応した問題集を使用する。</p>						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	数学Bを中心とする基本問題演習			大学入学共通テストに対応するための基礎学力向上			
2	大学入学共通テスト対策演習			大学入学共通テストに向けた実力養成			
3	大学入学共通テスト対策演習			大学入学共通テストに向けた実力養成			
学習上の留意点	<p>授業では、大学入学共通テストに向けた対策問題を中心に授業で扱います。学習した内容は、必ずその日のうちに復習することが大切です。毎日の家庭習をする習慣を身につけるために、問題集での演習に加え1日3題という宿題を課します。解らない問題はすぐにあきらめず、解るまで考える。自分で考えても解らないときは積極的に質問し、解決できるまで何度でも取り組むようにしてください。自力で解けなかった問題をノートに書き溜め、忘れた頃に書き直し二度と間違えないようにすることも大切です。 また、補助教材である大学入学共通テスト対応問題集 数学Ⅰ・A・Ⅱ・B・Cは、今までに使用したFocus Gold 5th Editionに準拠しているため、家庭学習の中で上手に活用することで基礎から発展まで幅広い内容を学習することができます。</p>						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	数学	科目	数学C	単位数	1 単位	履修学年	Ⅲ年 Ⅱ類特選文系
到達目標	<p>前半では、高校Ⅰ・Ⅱ年生で学んだことの確認の意味で基礎的な問題に取り組み、基礎学力の向上を目標とする。 後半では、大学入学共通テストレベルの問題に多く取り組み、大学入試に対応できる実力を養うことを目標とする。</p>						
評価の観点・評価基準	<p>【知識・技能】 基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な力を身に付けているかどうか。</p>						
	<p>【思考・判断・表現】 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力が養われているかどうか。</p>						
	<p>【主体的に学習に取り組む態度】 考え方に関心・意欲をもつとともに、積極的に取り組み粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断し、問題解決の過程を振り返って考察を深め、評価・改善したりしようとしているかどうか。</p>						
	<p>【基準】 「定期考査、宿題確認テスト、小テスト、授業時の様子、課題提出、観点別ワークシート、補講」などを基に総合的に評価する。</p>						
使用教材	<p>教科書 啓林館「深進数学C」(数C707) 傍用問題集 啓林館「演習思考編 Grasp 数学B+C」 参考書 啓林館「Focus Gold 5th Edition 数学B+C」 補助教材 啓林館「大学入学共通テスト対応問題集 数学Ⅰ・A・Ⅱ・B・C」 数研出版「リンク数学演習Ⅰ・A+Ⅱ・B・C(ベクトル) a+b+c+d」 補助教材として、大学入試に対応した問題集を使用する。</p>						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	数学Cを中心とする基本問題演習			大学入学共通テストに対応するための基礎学力向上			
2	大学入学共通テスト対策演習			大学入学共通テストに向けた実力養成			
3	大学入学共通テスト対策演習			大学入学共通テストに向けた実力養成			
学習上の留意点	<p>授業では、大学入学共通テストに向けた対策問題を中心に授業で扱います。学習した内容は、必ずその日のうちに復習することが大切です。毎日の家庭習をする習慣を身につけるために、問題集での演習に加え1日3題という宿題を課します。解らない問題はすぐにあきらめず、解るまで考える。自分で考えても解らないときは積極的に質問し、解決できるまで何度でも取り組むようにしてください。自力で解けなかった問題をノートに書き溜め、忘れた頃に解き直し二度と間違えないようにすることも大切です。 また、補助教材である大学入学共通テスト対応問題集 数学Ⅰ・A・Ⅱ・B・Cは、今までに使用したFocus Gold 5th Editionに準拠しているため、家庭学習の中で上手に活用することで基礎から発展まで幅広い内容を学習することができます。</p>						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	数学	科目	数学Ⅲ	単位数	4 単位	履修学年	Ⅲ年 Ⅱ類特選理系
到達目標	微分法及び積分法について、基礎的な内容の習得と技能の習得を図り、それらの知識や技能を的確に活用する能力を伸ばすとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにすることを目標とする。基本的な公式についての使い方や意味を考えることにより、使いこなせるようにしていく。基礎的な知識の習得と反復練習により理解を深める。また応用問題についても「考えること」を大切に、「応用力」を身につける。						
評価の観点・評価基準	【知識・技能】 基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な力を身に付けているかどうか。						
	【思考・判断・表現】 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力が養われているかどうか。						
	【主体的に学習に取り組む態度】 考え方に関心・意欲をもつとともに、積極的に取り組み粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断し、問題解決の過程を振り返って考察を深め、評価・改善したりしようとしているかどうか。						
	【基準】 「定期考査、宿題確認テスト、小テスト、授業時の様子、課題提出、観点別ワークシート、補講」などを基に総合的に評価する。						
使用教材	教科書 啓林館「深進数学Ⅲ」(数Ⅲ707) 傍用問題集 啓林館「演習思考編 Grasp 数学Ⅲ」 参考書 啓林館「Focus Gold 5th Edition 数学Ⅲ」 補助教材 啓林館「大学入学共通テスト対応問題集 数学Ⅰ・A・Ⅱ・B・C」 数研出版「リンク数学演習Ⅰ・A+Ⅱ・B・C (ベクトル) a+b+c+d」 数研出版「リンク数学演習Ⅲ・C (複素数平面, 式と曲線) a+b+c」 補助教材として、大学入試に対応した問題集を使用する。						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	第3章 微分法 第1節 微分と導関数 第2節 いろいろな関数の導関数 第3節 導関数の応用			微分可能かどうかを詳しく見る。連続と微分可能の関係を学習する。導関数の定義を学習し、合成関数や逆関数、陰関数など種々の関数についても微分できるようにする。 三角関数の微分、対数関数の微分とそれに関連する自然対数の底 e の導入と指数関数の微分を学習する。 簡単な関数の第2次導関数、第3次導関数が求められるようにする。 直線の方程式 $y - y_1 = m(x - x_1)$ を使って接線の方程式を求める。また、垂直条件を使って法線の方程式を求める。平均値の定理を導入し、実際に不等式の証明などに使って実用化する。数学Ⅱで扱った増減表に慣れると共に問題が解けるようにする。第2次導関数とグラフの関係を見つけて、実際にグラフをかくときの手段の一つとして使えるようにする。			

	<p>第4節 いろいろな応用</p> <p>第4章 積分法 第1節 不定積分</p> <p>第2節 定積分</p> <p>第3節 積分法の応用</p>	<p>増減表、グラフに注意をしながら、最大・最小の問題、文章問題に挑戦する。グラフをかいて、方程式・不等式を証明する。媒介変数を使った関数についてのグラフについて学習する。関数を使って、多項式で近似する。</p> <p>不定積分といろいろな積分をすることにより、扱える関数をより詳しく見る準備をする。置換積分と部分積分を学習し、積分できる関数の幅を増やす。</p> <p>定積分を定義し、初等関数を実際に定積分する。公式を導き出し、日常において使えるように練習する。 区分求積法の考えにより、定積分と面積の関係について理解する</p> <p>曲線と直線などで囲まれた部分の面積、媒介変数表示を用いて表される曲線で囲まれた部分の面積など、様々な関数を使って定義された図形の面積の求め方を学習する。体積が積分によって求められることを理解し、一般の立体図形の体積や、平面上の曲線で囲まれた図形を x 軸または y 軸のまわりに1回転してできる回転体の体積の求め方を学習する。簡単な曲線について、曲線の長さの求め方を学習する。</p>
2	大学入試に向けた総合演習	発展学習として大学入試で扱われる問題を多く取り組み、思考力を養成する。
3	国公立大学2次試験および 大学入学共通テスト対策総合演習	国公立大学2次試験および 大学入学共通テストに向けた実力養成
学習上の留意点	<p>授業では、教科書のコア編のみならず探究編も扱います。また、問題集Graspを使って演習を行います。特に授業で学習した内容は、必ずその日のうちに復習することが大切です。毎日の家庭学習をする習慣を身につけるために、問題集での演習に加え1日3題という宿題を課します。解らない問題はすぐにあきらめず、解るまで考える。自分で考えても解らないときは積極的に質問し、解決できるまで何度でも取り組むようにしてください。自力で解けなかった問題をノートに書き溜め、忘れた頃に解き直し二度と間違えないようにすることも大切です。</p> <p>演習については、節末問題や章末問題に加え、GraspのB問題と深問題を中心に授業で扱いますが、A問題の問題も含めてきちんと取り組むことによって基礎力を身につけることができます。また、Focus Gold 5th Editionについては、家庭学習の中で上手に活用することで基礎から発展まで幅広い内容を学習することができます。</p>	

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	数学	科目	数学B	単位数	1 単位	履修学年	Ⅲ年 Ⅱ類特選理系
到達目標	<p>前半では、高校Ⅰ・Ⅱ年生で学んだことの確認の意味で基礎的な問題に取り組み、基礎学力の向上を目標とする。 後半では、国公立大学2次試験および大学入学共通テストレベルの問題に多く取り組み、大学入試に対応できる実力を養うことを目標とする。</p>						
評価の観点・評価基準	<p>【知識・技能】 基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な力を身に付けているかどうか。</p>						
	<p>【思考・判断・表現】 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力が養われているかどうか。</p>						
	<p>【主体的に学習に取り組む態度】 考え方に関心・意欲をもつとともに、積極的に取り組み粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断し、問題解決の過程を振り返って考察を深め、評価・改善したりしようとしているかどうか。</p>						
	<p>【基準】 「定期考査、宿題確認テスト、小テスト、授業時の様子、課題提出、観点別ワークシート、補講」などを基に総合的に評価する。</p>						
使用教材	<p>教科書 啓林館「深進数学B」(数B709) 傍用問題集 啓林館「演習思考編 Grasp 数学B+C」 参考書 啓林館「Focus Gold 5th Edition 数学B+C」 補助教材 啓林館「大学入学共通テスト対応問題集 数学Ⅰ・A・Ⅱ・B・C」 数研出版「リンク数学演習Ⅰ・A+Ⅱ・B・C(ベクトル) a+b+c+d」 数研出版「リンク数学演習Ⅲ・C(複素数平面, 式と曲線) a+b+c」 補助教材として、大学入試に対応した問題集を使用する。</p>						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	数学Bを中心とする基本問題演習			国公立大学2次試験および大学入学共通テストに対応するための基礎学力向上			
2	国公立大学2次試験および大学入学共通テスト対策演習			国公立大学2次試験および大学入学共通テストに向けた実力養成			
3	国公立大学2次試験および大学入学共通テスト対策演習			国公立大学2次試験および大学入学共通テストに向けた実力養成			
学習上の留意点	<p>授業では、国公立大学2次試験および大学入学共通テストに向けた対策問題を中心に授業で扱います。学習した内容は、必ずその日のうちに復習することが大切です。毎日の家庭習をする習慣を身につけるために、問題集での演習に加え1日3題という宿題を課します。解らない問題はすぐにあきらめず、解るまで考える。自分で考えても解らないときは積極的に質問し、解決できるまで何度でも取り組むようにしてください。自力で解けなかった問題をノートに書き溜め、忘れた頃に解き直し二度と間違えないようにすることも大切です。 また、補助教材である大学入学共通テスト対応問題集 数学Ⅰ・A・Ⅱ・B・Cは、今までに使用したFocus Gold 5th Editionに準拠しているため、家庭学習の中で上手に活用することで基礎から発展まで幅広い内容を学習することができます。</p>						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	数学	科目	数学C	単位数	2 単位	履修学年	Ⅲ年 Ⅱ類特選理系
到達目標	<p>複素数平面、2次曲線、媒介変数と極座標について、基礎的な内容の習得と技能の習得を図り、それらの知識や技能を的確に活用する能力を伸ばすとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにすることを目標とする。基本的な公式についての使い方や意味を考えることにより、使いこなせるようにしていく。基礎的な知識の習得と反復練習により理解を深める。また応用問題についても「考えること」を大切に、「応用力」を身につける。</p>						
評価の観点・評価基準	<p>【知識・技能】 基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な力を身に付けているかどうか。</p>						
	<p>【思考・判断・表現】 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力が養われているかどうか。</p>						
	<p>【主体的に学習に取り組む態度】 考え方に関心・意欲をもつとともに、積極的に取り組み粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断し、問題解決の過程を振り返って考察を深め、評価・改善したりしようとしているかどうか。</p>						
	<p>【基準】 「定期考査、宿題確認テスト、小テスト、授業時の様子、課題提出、観点別ワークシート、補講」などを基に総合的に評価する。</p>						
使用教材	<p>教科書 啓林館「深進数学C」(数C707) 傍用問題集 啓林館「演習思考編 Grasp 数学B+C」 参考書 啓林館「Focus Gold 5th Edition 数学B+C」 補助教材 啓林館「大学入学共通テスト対応問題集数学Ⅰ・A・Ⅱ・B・C」 数研出版「リンク数学演習Ⅰ・A+Ⅱ・B・C(ベクトル) a+b+c+d」 数研出版「リンク数学演習Ⅲ・C(複素数平面, 式と曲線) a+b+c」 補助教材として、大学入試に対応した問題集を使用する。</p>						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	第1章 複素数平面 第1節 複素数平面 第2節 平面図形と複素数			<p>数学Ⅱにおいて方程式の解として導入された複素数を、座標平面上の点に対応させることで平面上の点として表し、複素数の四則演算の図形的な意味を考える。ベクトルを利用して、複素数の和・差および実数倍を図示し、複素数の極形式による表現から、複素数の積・商の図形的意味を示して、ド・モアブルの定理を導く。さらに、この定理を利用して二項方程式$z^n - a = 0$を解き、その解を図示することを通して、累乗根の図形的な意味や結果の美しさを通して、複素数平面の考え方の良さを理解する。</p> <p>平面図形を複素数の集合と見なして、複素数の平面図形の問題への応用を図る。2点間の距離と絶対値、内・外分点の複素数、点zのまわりの回転移動、2直線のなす角の複素数による表現、3点の共線条件、2直線の垂直条件、複素数の等式が表す図形などについて学び、幾何</p>			

	<p>第2章 平面上の曲線 第1節 2次曲線</p> <p>第2節 媒介変数と極座標</p>	<p>学的な関係が、どのように複素数の代数的な演算と結びつくかを考察して複素数を総合的に理解する。</p> <p>2次曲線の標準形を学習し、焦点・準線・グラフがかけられるようにする。2次曲線を平行移動することで図形もかけられるようにする。判別式を用いて、共有点の数を理解する。</p> <p>媒介変数表示は重要な箇所であるため、自由自在に計算ができ、活用できるようにする。 極方程式・離心率についても学び、曲線の見聞を広める。</p>
2	大学入試に向けた総合演習	発展学習として大学入試で扱われる問題を多く取り組み、思考力を養成する。
3	国公立2次試験および 大学入学共通テスト策総合演習	国公立2次試験および 大学入学共通テストに向けた実力養成
学習上の留意点	<p>授業で学習した内容は、必ずその日のうちに復習することが大切です。毎日の家庭学習をする習慣を身につけるために、問題集での演習に加え1日3題という宿題を課します。解らない問題はすぐにあきらめず、解るまで考える。自分で考えても解らないときは積極的に質問し、解決できるまで何度でも取り組むようにしてください。自力で解けなかった問題をノートに書き溜め、忘れた頃に解き直し二度と間違えないようにすることも大切です。</p> <p>演習については、節末問題や章末問題に加え、GraspのB問題と深問題を中心に授業で扱いますが、A問題の問題も含めてきちんと取り組むことによって基礎力を身につけることができます。また、Focus Gold 5th Editionについては、家庭学習の中で上手に活用することで基礎から発展まで幅広い内容を学習することができます。</p>	

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	理 科	科目	科学と人間生活	単位数	2 単位	履修学年	Ⅲ年 類文 2
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自然の事物・現象に関する観察，実験などを通して，人間と自然とのかかわりについて考察し，自然に対する総合的な見方や考え方を養う。 ・ 実験・実習などを通して，それらの基本的な方法を習得し，自然を探究する力を養う。 ・ 科学技術の成果と今後の課題について考察し，科学技術と人間との関わりについて探究する。 						
評価の観点・評価基準	【知識・技能】自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているか。また，科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けているか。定期考査の点数（語句・簡単な計算・問題集の類似問題）、実験レポート（方法・データ）等を基準として評価する。						
	【思考・判断・表現】習得した知識・技能を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身に付けているか。また，見通しをもって観察・実験などを行い，得られた結果を分析して解釈し，表現できているか。定期考査の点数（計算・グラフ・図の読み取り・実験考察問題）、レポート，実験レポート（考察）等を基準として評価する。						
	【主体的に学習に取り組む態度】知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身に付ける過程において，見通しをもったり振り返ったりするなど，自ら学習を調整しようとしているか。また，粘り強く学習に取り組んでいるか。レポート，実験レポート（振り返り）、課題提出，振り返り評価等を基準として評価する。						
使用教材	教科書 啓林館 科学と人間生活						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	第1部 生命の科学 第1章 ヒトの生命現象 第3部 光や熱の科学 第1章 光の性質とその利用			<ul style="list-style-type: none"> ・ ヒトの視覚と光，動物の行動と光について学び，生物の活動と光との関係を理解する。 ・ 免疫の仕組みについて学び，ワクチンやアレルギー反応との関係を理解する。 ・ 光の性質と光が日常でどのように利用されているのかを理解する。 ・ 光のスペクトルや赤外線・紫外線，物体の色，偏光などについて理解する。 ・ 紫外線による人体への影響について理解する。 			
2	第1部 生命の科学 第2章 微生物とその利用 第2部 物質の科学 第1章 材料とその利用 第2章 衣料と食品			<ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な微生物の存在，生態系における微生物のはたらき，微生物と人間生活について学び，微生物が生態系や人間生活とどのようにかかわっているかについて理解する。 ・ 発酵食品や抗生物質について理解する。 ・ プラスチックが，それぞれの材料の特徴を生かして，身の回りの様々なところに利用されていることを学び，物質の種類，性質および用途や，資源の再利用について理解する。 ・ 衣料，染料，洗剤などについて学び，その性質や利用の仕方について化学の観点から理解する。 			
3	4部 宇宙や地球の科学 第2章 自然景観と自然災害			<ul style="list-style-type: none"> ・ 地球の活動と，人間と自然のかかわりを学び，身近な自然景観の成り立ちと自然災害について理解する。 			
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実験観察を多く取り入れながら，自然に関心を持ち，科学的に探求しようとする態度を養う。 ・ 調べ学習を多く取り入れながら，身近な科学技術に関心を持ち，日常生活に活用しようとする態度を養う。 ・ 実験後の報告書などの提出を通して，自らの考えを的確に表現する力を養う。 						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	理 科	科目	生物基礎	単位数	2 単位	履修学年	Ⅲ年Ⅰ類文2
到達目標	Ⅰ年次、Ⅱ年次に学習してきた内容の定着を図りながら、日常生活や社会との関連を意識させる。体のしくみへの関心を高める。						
評価の観点・評価基準	【知識・技能】自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているか。また、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けているか。定期考査の点数（語句・簡単な計算・問題集の類似問題）、実験レポート（方法・データ）等を基準として評価する。						
	【思考・判断・表現】習得した知識・技能を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身に付けているか。また、見通しをもって観察・実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現できているか。定期考査の点数（計算・グラフ・図の読み取り・実験考察問題）、レポート、実験レポート（考察）等を基準として評価する。						
	【主体的に学習に取り組む態度】知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身に付ける過程において、見通しをもったり振り返ったりするなど、自ら学習を調整しようとしているか。また、粘り強く学習に取り組んでいるか。レポート、実験レポート（振り返り）、課題提出、振り返り評価等を基準として評価する。						
使用教材	教科書 生物基礎 新訂版（実教出版）						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	3章 ヒトのからだの調節 1節 体内環境 2節 体内環境の維持のしくみ 3節 免疫			<ul style="list-style-type: none"> ・ミクロな観点から体の構造に関心を持ち、日常生活との関連を学習する。 ・細胞の構造、細胞小器官などを理解する。 ・ホルモンや酵素などタンパク質を主成分とする物質についての理解を深める。 			
2	3章 ヒトのからだの調節 1節 体内環境 2節 体内環境の維持のしくみ 3節 免疫			<ul style="list-style-type: none"> ・マクロな観点から体の構造に関心を持ち、日常生活との関連を学習する。 ・神経系、循環系、骨格系、呼吸器系など器官系の特徴や構造を学習し、働きを理解する。 ・目や耳などの受容器の構造や働きを理解する。 			
3	生物基礎範囲の総演習						
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に集中し、積極的な学習態度で臨ませる。 ・授業レポートを頻度高く回収することにより、授業中の意欲を向上させる。 ・授業レポートの回収方法は、ICTツールを活用する。 						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	理 科	科目	化学基礎	単位数	1 単位	履修学年	Ⅲ年Ⅰ類文Ⅰ
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・物質とその変化への関心を高め、日常生活や社会とのつながりを考える。 ・化学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。 ・大学入試に対応できる力を身につける。 						
評価の観点・評価基準	【知識・技能】自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているか。また、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けているか。定期考査の点数（語句・簡単な計算・問題集の類似問題）、実験レポート（方法・データ）等を基準として評価する。						
	【思考・判断・表現】習得した知識・技能を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身に付けているか。また、見通しをもって観察・実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現できているか。定期考査の点数（計算・グラフ・図の読み取り・実験考察問題）、レポート、実験レポート（考察）等を基準として評価する。						
	【主体的に学習に取り組む態度】知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身に付ける過程において、見通しをもったり振り返ったりするなど、自ら学習を調整しようとしているか。また、粘り強く学習に取り組んでいるか。レポート、実験レポート（振り返り）、課題提出、振り返り評価等を基準として評価する。						
使用教材	教科書：数研出版「新編化学基礎」 副教材：未定（4月に選定後、購入予定）						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	第1編 物質の構成と化学結合 [復習と演習] 第1章 物質の構成 第2章 物質の構成粒子 第3章 粒子の結合			<ul style="list-style-type: none"> ・混合物と純物質、物質とその成分、物質の三態と熱運動の理解 ・原子とその構造、イオン、元素の周期表の理解 ・イオン結合とイオンからなる物質、分子と共有結合、共有結合の結晶、金属結合と金属の理解 			
	第2編 物質の変化 [復習と演習] 第1章 物質と化学反応式			<ul style="list-style-type: none"> ・原子量・分子量・式量、物質質量、溶液の濃度、化学反応式と物質質量の理解 			
2	第2章 酸と塩基の反応 第3章 酸化還元反応			<ul style="list-style-type: none"> ・酸・塩基、水の電離と水溶液のpH、中和反応と塩、中和滴定の理解 ・酸化と還元、酸化剤と還元剤、金属の酸化還元反応、酸化還元反応の利用の理解 			
	化学基礎全範囲の演習			<ul style="list-style-type: none"> ・問題演習を行い、化学基礎全体の理解を深め、大学入試に対応できる実力を身につける。 			
3	化学基礎全範囲の演習			<ul style="list-style-type: none"> ・問題演習を行い、化学基礎全体の理解を深め、大学入試に対応できる実力を身につける。 			
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・大学入試を意識しながら、化学の基本的な概念や原理・法則を理解し活用できるようにする。 						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	理 科	科目	生物基礎	単位数	1 単位	履修学年	Ⅲ年 類 文 1
到達 目標	日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象への関心を高める 生物学的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う 共通テスト対策問題集を通じて、生物をより深く理解する						
評価 の観 点・ 評価 基準	定期考査の成績を中心に、授業態度、小テストの成績などを加味し、総合的に評価する						
使用 教材	教科書：生物基礎（実教出版） 副教材：共通テスト対策問題集を適宜使用						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	4章：生物の多様性と生態系 生物基礎 全範囲の演習			<ul style="list-style-type: none"> ・ 植生と遷移、気候とバイオーム、生態系と物質循環、生態系のバランスと保全の各項目の復習 ・ 共通テスト問題演習を通じて理解を深め、受験に対応できる学力をつける 			
2	生物基礎 全範囲の演習			<ul style="list-style-type: none"> ・ 共通テスト問題演習を通じて理解を深め、受験に対応できる学力をつける 			
3	生物基礎 全範囲の演習						
学習 上の 留意 点	授業に集中し、積極的な学習態度で臨む 習得度を適宜確認し、共通テストに対応できる学力を身につける						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	理 科	科目	化学	単位数	5 単位	履修学年	Ⅲ年Ⅰ類理系
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 物質とその変化への関心を高め、日常生活や社会とのつながりを考えさせる。 目的意識をもって観察、実験などを行い、科学的に探究する能力と態度を育てる。 化学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。 						
評価の観点・評価基準	【知識・技能】 身近な自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているか。また、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けているか。定期考査の点数（語句・簡単な計算・問題集の類似問題）、実験レポート（方法・データ）等を基準として評価する。						
	【思考・判断・表現】 習得した知識・技能を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身に付けているか。また、見通しをもって観察・実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現できているか。定期考査の点数（計算・グラフ・図の読み取り・実験考察問題）、レポート、実験レポート（考察）等を基準として評価する。						
	【主体的に学習に取り組む態度】 知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身に付ける過程において、見通しをもったり振り返ったりするなど、自ら学習を調整しようとしているか。また、粘り強く学習に取り組んでいるか。レポート、実験レポート（振り返り）、課題提出、振り返り評価等を基準として評価する。						
使用教材	教科書：新編 化学（数研出版） 副教材：新課程版 2023 セミナー化学基礎＋化学（第一学習社）						
1	第2編 物質の変化 第4章 電解質水溶液の化学平衡 第3編 無機物質 第1章 非金属元素 第2章 金属元素（Ⅰ）-典型元素- 第3章 金属元素（Ⅱ）-遷移元素-		<ul style="list-style-type: none"> 水のイオン積、pH及び弱酸や弱塩基、塩、緩衝液の電離平衡について理解する。 典型元素の単体と化合物の性質や反応を周期表や理論分野と関連付けて理解する。 遷移元素の単体と化合物の性質や反応を周期表や理論分野と関連付けて理解する。 				
	第4編 有機化合物 第1章 有機化合物の分類と分析 第2章 脂肪族炭化水素 第3章 アルコールと関連化合物 第4章 芳香族化合物		<ul style="list-style-type: none"> 脂肪族炭化水素の性質や反応を構造と関連付けて理解する。 官能基をもつ脂肪族化合物の性質や反応を構造と関連付けて理解する。 芳香族化合物の構造、性質及び反応について理解する。 				
2	第5編 高分子化合物 第1章 高分子化合物の性質 第2章 天然高分子化合物 第3章 合成高分子化合物 大学入試問題 演習		<ul style="list-style-type: none"> 高分子化合物について性質や反応、構造を理解するとともに、その有用性などを認識する。また高分子化合物と身の回りの物質や地球環境、産業とのかかわりについても考える。 問題の演習を通じて、化学の理解を深めるとともに大学入試共通テストおよび私立大学の入試に対する実力をつける。 				
3	大学入試問題 演習		<ul style="list-style-type: none"> 問題の演習を通じて、化学の理解を深めるとともに大学入試共通テストおよび私立大学の入試に対する実力をつける。 				
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> 授業に集中し、積極的かつ能動的な学習態度で臨むこと。 化学の基本的な概念や原理・法則を理解し、活用できるようにすること。 						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	理 科	科目	物 理	単位数	4 単位	履修学年	Ⅲ年Ⅰ類理系
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・各分野において、古典物理学の原理や法則について系統的に理解すること。 ・物質と原子の分野について、現代の物理学に触れ、有用性や科学に対する興味を持つこと。 ・物理的な事物・現象に対する探求心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、物理学的に探求する能力と態度をもつこと。 						
評価の観点および基準	<p>【知識・技能】自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているか。また、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けているか。定期考査の点数（語句・簡単な計算・問題集の類似問題）、実験レポート（方法・データ）等を基準として評価する。</p> <p>【思考・判断・表現】習得した知識・技能を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身に付けているか。また、見通しをもって観察・実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現できているか。定期考査の点数（計算・グラフ・図の読み取り・実験考察問題）、レポート、実験レポート（考察）等を基準として評価する。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身に付ける過程において、見通しをもったり振り返ったりするなど、自ら学習を調整しようとしているか。また、粘り強く学習に取り組んでいるか。レポート、実験レポート（振り返り）、課題提出、振り返り評価等を基準として評価する。</p>						
使用教材	<p>教科書 数研出版 物理 副教材 啓林館 物理セット</p>						
学期	学習内容		学習のねらい				
1	第4編 電気と磁気 第1章 電場 第2章 電流 第3章 電流と磁場 第4章 電磁誘導と電磁波		<ul style="list-style-type: none"> ・静電気，電場，電位，コンデンサーについて理解する。 ・電流現象，直流回路について理解する。 ・磁場に関して、磁気力に関するクーロンの法則と電流がつくる磁場の両面から、磁場についての法則を理解する。 ・ローレンツ力と磁場について理解する。 ・電磁誘導の法則について理解する。 ・交流回路を取り扱い、抵抗、コンデンサー、コイルの回路中での振る舞いを理解する。 ・電磁波についての基本的な特徴を理解する。 				
2	第5編 原子 第1章 電子と光 第2章 原子と原子核 問題演習		<ul style="list-style-type: none"> ・電子について理解を深める。 ・光の粒子性を理解する。 ・光子や電子の粒子性と波動性を理解する。 ・古典論から量子論のはじまりへの流れを理解する。 ・量子論的なものを見方を知る。 ・素粒子の理論について歴史と現状を知る。 <p>・物理の全範囲について、基本法則の確認と定着を図り、入試へ向けての問題演習を行う。</p>				
3	問題演習		<ul style="list-style-type: none"> ・物理の全範囲について、基本法則の確認と定着を図り、問題演習を通じて入試に対応できる能力を養う。 				
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・1、2年時に学習してきた内容や授業ごとに学習したことしっかりと復習し、新たに学習する事柄と結びつけて理解すること。 ・学習の定着をはかるために、問題集や配布プリント、定期試験や模試など、繰り返してしっかりと復習すること。 						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	理 科	科目	生 物	単位数	4 単位	履修学年	Ⅲ年 類理系
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生物や生物現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察・実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てる。 ・生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。 ・演習などを通して、自らの進路を実現できる実力を育成する。 						
評価の観点・評価基準	<p>【知識・技能】自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているか。また、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けているか。</p> <p>【思考・判断・表現】習得した知識・技能を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身に付けているか。また、見通しをもって観察・実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現できているか。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身に付ける過程において、見通しをもったり振り返ったりするなど、自ら学習を調整しようとしているか。また、粘り強く学習に取り組んでいるか。</p>						
使用教材	教科書 生物（実教出版） 副教材 エッセンスノート（啓林館）						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	4章 生物の環境応答 1節 動物の反応 2節 動物の行動 3節 植物の成長と環境応答 5章 生態と環境 1節 個体群と生物群集 2節 生態系			<ul style="list-style-type: none"> ・受容器、効果器の構造を学び、刺激の受容から反応までのしくみを理解する。 ・刺激に対する反応としての動物個体の行動について理解する。 ・植物が環境変化に反応する仕組みを理解する。 ・植物が環境変化に適応する仕組みを理解する。 ・植物ホルモンと光受容体について理解する。 ・個体群とその変動について理解する。 ・個体群内の相互作用、個体群間の相互作用、種間競争、相利共生を理解する。 ・生物群集の成り立ちについて理解する。 ・生態系における物質生産とエネルギー効率について理解する。 ・生態系における生物多様性に影響を与える要因を理解する。 ・生物多様性の重要性を理解する。 			
2	生物基礎 および 生物の復習			<ul style="list-style-type: none"> ・大学入試共通テストおよび各大学入試問題演習を行う。 			
3	生物基礎 および 生物の復習			<ul style="list-style-type: none"> ・各大学入試問題演習を行う。 			
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に集中し、積極的な学習態度で臨むこと。 ・内容を習得しているかを確認し、応用力を身につけること。 						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	理 科	科目	化学基礎	単位数	2 単位	履修学年	Ⅲ年Ⅱ類文 A
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への関心を高める。 化学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。 大学入試に対応できる力を身につける。 						
評価の観点・評価基準	<p>【知識・技能】自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているか。また、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けているか。定期考査の点数（語句・簡単な計算・問題集の類似問題）、実験レポート（方法・データ）等を基準として評価する。</p>						
	<p>【思考・判断・表現】習得した知識・技能を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身に付けているか。また、見通しをもって観察・実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現できているか。定期考査の点数（計算・グラフ・図の読み取り・実験考察問題）、レポート、実験レポート（考察）等を基準として評価する。</p>						
	<p>【主体的に学習に取り組む態度】知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身に付ける過程において、見通しをもったり振り返ったりするなど、自ら学習を調整しようとしているか。また、粘り強く学習に取り組んでいるか。レポート、実験レポート（振り返り）、課題提出、振り返り評価等を基準として評価する。</p>						
使用教材	<p>教科書：数研出版「化学基礎」 副教材：未定（4月に選定後、購入予定）</p>						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	第1編 物質の構成と化学結合 [復習と演習] 第1章 物質の構成 第2章 物質の構成粒子 第3章 粒子の結合			<ul style="list-style-type: none"> 純物質と混合物、物質とその成分、物質の三態と熱運動の理解 原子とその構造、イオン、周期表の理解 イオン結合とイオン結晶、共有結合と分子、配位結合、分子間にはたらく力、高分子化合物、共有結合の結晶、金属結合と金属結晶の理解 			
	第2編 物質の変化 [復習と演習] 第1章 物質と化学反応式			<ul style="list-style-type: none"> 原子量・分子量・式量、物質、溶液の濃度、化学反応式と物質の理解 			
2	第2章 酸と塩基の反応 第3章 酸化還元反応			<ul style="list-style-type: none"> 酸・塩基、水素イオン濃度と pH、中和反応と塩、中和滴定の理解 酸化と還元、酸化剤と還元剤、金属の酸化還元反応、酸化還元反応の利用の理解 			
	化学基礎全範囲の演習			<ul style="list-style-type: none"> 問題演習を行い、化学基礎全体の理解を深め、大学入試に対応できる実力を身につける。 			
3	化学基礎全範囲の演習			<ul style="list-style-type: none"> 問題演習を行い、化学基礎全体の理解を深め、大学入試に対応できる実力を身につける。 			
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> 大学入試を意識しながら、化学の基本的な概念や原理・法則を理解し活用できるようにする。 						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	理 科	科目	生物基礎	単位数	1 単位	履修学年	Ⅲ年Ⅱ類 文A・文B
到達 目標	日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象への関心を高める 生物学的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う 共通テスト対策問題集を通じて、生物をより深く理解する						
評価 の観 点・ 評価 基準	定期考査の成績を中心に、授業態度、小テストの成績などを加味し、総合的に評価する						
使用 教材	教科書：生物基礎（実教出版） 副教材：共通テスト対策問題集を適宜使用						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	4章：生物の多様性と生態系 生物基礎 全範囲の演習			<ul style="list-style-type: none"> ・ 植生と遷移、気候とバイオーム、生態系と物質循環、生態系のバランスと保全の各項目の復習 ・ 共通テスト問題演習を通じて理解を深め、受験に対応できる学力をつける 			
2	生物基礎 全範囲の演習			<ul style="list-style-type: none"> ・ 共通テスト問題演習を通じて理解を深め、受験に対応できる学力をつける 			
3	生物基礎 全範囲の演習						
学習 上の 留意 点	授業に集中し、積極的な学習態度で臨む 習得度を適宜確認し、共通テストに対応できる学力を身につける						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	理 科	科目	化学	単位数	4 単位	履修学年	Ⅲ年Ⅱ類理系
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・物質とその変化への関心を高め、日常生活や社会とのつながりを考えさせる。 ・目的意識をもって観察、実験などを行い、科学的に探究する能力と態度を育てる。 ・化学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。 						
評価の観点・評価基準	【知識・技能】 身近な自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているか。また、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けているか。定期考査の点数（語句・簡単な計算・問題集の類似問題）、実験レポート（方法・データ）等を基準として評価する。						
	【思考・判断・表現】 習得した知識・技能を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身に付けているか。また、見通しをもって観察・実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現できているか。定期考査の点数（計算・グラフ・図の読み取り・実験考察問題）、レポート、実験レポート（考察）等を基準として評価する。						
	【主体的に学習に取り組む態度】 知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身に付ける過程において、見通しをもったり振り返ったりするなど、自ら学習を調整しようとしているか。また、粘り強く学習に取り組んでいるか。レポート、実験レポート（振り返り）、課題提出、振り返り評価等を基準として評価する。						
使用教材	教科書：化学（数研出版） 副教材：新課程版 2023 セミナー化学基礎＋化学（第一学習社）						
1	第3編 無機物質 第1章 非金属元素 第2章 金属元素（Ⅰ）-典型元素- 第3章 金属元素（Ⅱ）-遷移元素- 第4編 有機化合物 第1章 有機化合物の分類と分析 第2章 脂肪族炭化水素 第3章 アルコールと関連化合物 第4章 芳香族化合物		<ul style="list-style-type: none"> ・典型元素の単体と化合物の性質や反応を周期表や理論分野と関連付けて理解する。 ・遷移元素の単体と化合物の性質や反応を周期表や理論分野と関連付けて理解する。 ・脂肪族炭化水素の性質や反応を構造と関連付けて理解する。 ・官能基をもつ脂肪族化合物の性質や反応を構造と関連付けて理解する。 ・芳香族化合物の構造、性質及び反応について理解する。 				
2	第5編 高分子化合物 第1章 高分子化合物の性質 第2章 天然高分子化合物 第3章 合成高分子化合物 大学入試問題 演習		<ul style="list-style-type: none"> ・高分子化合物について性質や反応、構造を理解するとともに、その有用性などを認識する。また高分子化合物と身の回りの物質や地球環境、産業とのかかわりについても考える。 ・問題の演習を通じて、化学の理解を深めるとともに大学入試共通テストおよび私立大学の入試に対する実力をつける。 				
3	大学入試問題 演習		<ul style="list-style-type: none"> ・大学入試の過去問題の演習を通じて、国公立大学の入試に対する実力をつける。 				
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・「化学基礎」との関連を考慮しながら、化学の基本的な概念の形成を図る。 ・化学的に探求する方法の習得を通して、化学的な思考力、判断力及び表現力を育成する。 ・応用力を身につける。 						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	理 科	科目	物 理	単位数	4 単位	履修学年	Ⅲ年Ⅱ類理系
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・各分野において、古典物理学の原理や法則について系統的に理解すること。 ・物質と原子の分野について、現代の物理学に触れ、有用性や科学に対する興味を持つこと。 ・物理的な事物・現象に対する探求心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、物理学的に探求する能力と態度をもつこと。 						
評価の観点および基準	<p>【知識・技能】自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているか。また、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けているか。定期考査の点数（語句・簡単な計算・問題集の類似問題）、実験レポート（方法・データ）等を基準として評価する。</p>						
	<p>【思考・判断・表現】習得した知識・技能を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身に付けているか。また、見通しをもって観察・実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現できているか。定期考査の点数（計算・グラフ・図の読み取り・実験考察問題）、レポート、実験レポート（考察）等を基準として評価する。</p>						
	<p>【主体的に学習に取り組む態度】知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身に付ける過程において、見通しをもったり振り返ったりするなど、自ら学習を調整しようとしているか。また、粘り強く学習に取り組んでいるか。レポート、実験レポート（振り返り）、課題提出、振り返り評価等を基準として評価する。</p>						
使用教材	<p>教科書 数研出版 物理 副教材 啓林館 物理セット 数研出版 「大学入学共通テスト対策 チェック&演習 物理」</p>						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	<p>第4編 電気と磁気 第3章 電流と磁場 第4章 電磁誘導と電磁波</p>			<ul style="list-style-type: none"> ・磁場に関して、磁気力に関するクーロンの法則と電流がつくる磁場の両面から、磁場についての法則を理解する。 ・ローレンツ力と磁場について理解する。 ・電磁誘導の法則について理解する。 ・交流回路を取り扱い、抵抗、コンデンサー、コイルの回路中での振る舞いを理解する。 ・電磁波についての基本的な特徴などを理解する。 			
2	<p>第5編 原子 第1章 電子と光 第2章 原子と原子核</p> <p>問題演習</p>			<ul style="list-style-type: none"> ・電子について理解を深める。 ・光の粒子性を理解する。 ・光子や電子の粒子性と波動性を理解する。 ・古典論から量子論のはじまりへの流れを理解する。 ・量子論的なものを見方を知る。 ・素粒子の理論について歴史と現状を知る。 <p>・物理の全範囲について、基本法則の確認と定着を図り、大学入試に対応できる能力を養う。</p>			
3	問題演習			<ul style="list-style-type: none"> ・物理の全範囲について、基本法則の確認と定着を図り、大学入試に対応できる能力を養う。 			
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・自然に関心を持ち、科学的に探求しようとする態度を養う。 ・学習の定着をはかるために、問題集を家庭学習として利用し、配布プリントや定期試験や模試をしっかりと復習する。また大学入試に十分適応できるよう入試問題を取り入れる。 						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	理 科	科目	生物	単位数	4 単位	履修学年	Ⅲ年Ⅱ類理系
到達目標	自然の事物・現象に対する関心や探究心を高め、理科の見方・考え方をもち観察、実験などを行うことで、科学的に探究する能力と態度を育て、自然の事物・現象についての理解を深め、科学的な自然観を育成する。さらには、科学的に探究するために必要な資質・能力を育成することを目指す。						
評価の観点・評価基準	【知識・技能】自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているか。また、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けているか。定期考査の点数（語句・簡単な計算・問題集の類似問題）、実験レポート（方法・データ）等を基準として評価する。						
	【思考・判断・表現】習得した知識・技能を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身に付けているか。また、見通しをもって観察・実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現できているか。定期考査の点数（計算・グラフ・図の読み取り・実験考察問題）、レポート、実験レポート（考察）等を基準として評価する。						
	【主体的に学習に取り組む態度】知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身に付ける過程において、見通しをもったり振り返ったりするなど、自ら学習を調整しようとしているか。また、粘り強く学習に取り組んでいるか。レポート、実験レポート（振り返り）、課題提出、振り返り評価等を基準として評価する。						
使用教材	教科書 新訂版 生物（実教出版） 副教材 センサー生物（啓林館） ニューステージ新生物図表（浜島書店）						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	4：生物の環境応答 1 節：動物の反応 2 節：動物の行動 3 節：植物の成長と環境応答 5：生態と環境 1 節：個体群と生物群集			<ul style="list-style-type: none"> ・受容器として眼と耳を中心に、効果器として筋肉を中心に取り上げ、刺激の受容から反応までを理解する。 ・刺激に対する反応としての動物個体の行動について理解する。 ・植物ホルモンと光受容体について理解する。 ・個体群とその変動について理解する。 ・個体群内の相互作用，個体群間の相互作用，種間競争，相利共生を理解する。 			
2	2 節：生態系 生物基礎 および 生物の復習			<ul style="list-style-type: none"> ・生物群集の成り立ちについて理解する。 ・生態系における物質生産とエネルギー効率について理解する。 ・大学入試共通テストおよび各大学入試問題演習を行う。 			
3	生物基礎 および 生物の復習			<ul style="list-style-type: none"> ・各大学入試問題演習を行う。 			
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に集中し，積極的な学習態度で臨むこと。 ・問題集を家庭学習として利用し，学習の定着を図ること。 						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	理 科	科目	化学基礎	単位数	2 単位	履修学年	Ⅲ年Ⅱ類特文
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への関心を高める。 化学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。 大学入試に対応できる力を身につける。 						
評価の観点・評価基準	<p>【知識・技能】自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているか。また、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けているか。定期考査の点数（語句・簡単な計算・問題集の類似問題）、実験レポート（方法・データ）等を基準として評価する。</p>						
	<p>【思考・判断・表現】習得した知識・技能を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身に付けているか。また、見通しをもって観察・実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現できているか。定期考査の点数（計算・グラフ・図の読み取り・実験考察問題）、レポート、実験レポート（考察）等を基準として評価する。</p>						
	<p>【主体的に学習に取り組む態度】知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身に付ける過程において、見通しをもったり振り返ったりするなど、自ら学習を調整しようとしているか。また、粘り強く学習に取り組んでいるか。レポート、実験レポート（振り返り）、課題提出、振り返り評価等を基準として評価する。</p>						
使用教材	<p>教科書：数研出版「化学基礎」 副教材：未定（4月に選定後、購入予定）</p>						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	第1編 物質の構成と化学結合 [復習と演習] 第1章 物質の構成 第2章 物質の構成粒子 第3章 粒子の結合			<ul style="list-style-type: none"> 純物質と混合物、物質とその成分、物質の三態と熱運動の理解 原子とその構造、イオン、周期表の理解 イオン結合とイオン結晶、共有結合と分子、配位結合、分子間にはたらく力、高分子化合物、共有結合の結晶、金属結合と金属結晶の理解 			
	第2編 物質の変化 [復習と演習] 第1章 物質と化学反応式			<ul style="list-style-type: none"> 原子量・分子量・式量、物質の質量、溶液の濃度、化学反応式と物質の質量の理解 			
2	第2章 酸と塩基の反応 第3章 酸化還元反応			<ul style="list-style-type: none"> 酸・塩基、水素イオン濃度と pH、中和反応と塩、中和滴定の理解 酸化と還元、酸化剤と還元剤、金属の酸化還元反応、酸化還元反応の利用の理解 			
	化学基礎全範囲の演習			<ul style="list-style-type: none"> 問題演習を行い、化学基礎全体の理解を深め、大学入試に対応できる実力を身につける。 			
3	化学基礎全範囲の演習			<ul style="list-style-type: none"> 問題演習を行い、化学基礎全体の理解を深め、大学入試に対応できる実力を身につける。 			
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> 大学入試を意識しながら、化学の基本的な概念や原理・法則を理解し活用できるようにする。 						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	理 科	科目	生物基礎	単位数	1 単位	履修学年	Ⅲ年Ⅱ類 特文
到達 目標	日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象への関心を高める 生物学的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う 共通テスト対策問題集を通じて、生物をより深く理解する						
評価 の観 点・ 評価 基準	定期考査の成績を中心に、授業態度、小テストの成績などを加味し、総合的に評価する						
使用 教材	教科書：生物基礎（実教出版） 副教材：共通テスト対策問題集を適宜使用						
学期	学 習 内 容			学 習 の ね ら い			
1	4 章：生物の多様性と生態系 生物基礎 全範囲の演習			<ul style="list-style-type: none"> ・ 植生と遷移、気候とバイオーム、生態系と物質循環、生態系のバランスと保全の各項目の復習 ・ 共通テスト問題演習を通じて理解を深め、受験に対応できる学力をつける 			
2	生物基礎 全範囲の演習			<ul style="list-style-type: none"> ・ 共通テスト問題演習を通じて理解を深め、受験に対応できる学力をつける 			
3	生物基礎 全範囲の演習						
学習 上の 留意 点	授業に集中し、積極的な学習態度で臨む 習得度を適宜確認し、共通テストに対応できる学力を身につける						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	理 科	科目	化学	単位数	4 単位	履修学年	Ⅲ年Ⅱ類特理
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・物質とその変化への関心を高め、日常生活や社会とのつながりを考えさせる。 ・目的意識をもって観察、実験などを行い、科学的に探究する能力と態度を育てる。 ・化学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。 						
評価の観点・評価基準	【知識・技能】 身近な自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているか。また、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けているか。定期考査の点数（語句・簡単な計算・問題集の類似問題）、実験レポート（方法・データ）等を基準として評価する。						
	【思考・判断・表現】 習得した知識・技能を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身に付けているか。また、見通しをもって観察・実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現できているか。定期考査の点数（計算・グラフ・図の読み取り・実験考察問題）、レポート、実験レポート（考察）等を基準として評価する。						
	【主体的に学習に取り組む態度】 知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身に付ける過程において、見通しをもったり振り返ったりするなど、自ら学習を調整しようとしているか。また、粘り強く学習に取り組んでいるか。レポート、実験レポート（振り返り）、課題提出、振り返り評価等を基準として評価する。						
使用教材	教科書：化学（数研出版） 副教材：新課程版 2023 セミナー化学基礎＋化学（第一学習社）						
1	第3編 無機物質 第1章 非金属元素 第2章 金属元素（Ⅰ）-典型元素- 第3章 金属元素（Ⅱ）-遷移元素- 第4編 有機化合物 第1章 有機化合物の分類と分析 第2章 脂肪族炭化水素 第3章 アルコールと関連化合物 第4章 芳香族化合物			<ul style="list-style-type: none"> ・典型元素の単体と化合物の性質や反応を周期表や理論分野と関連付けて理解する。 ・遷移元素の単体と化合物の性質や反応を周期表や理論分野と関連付けて理解する。 ・脂肪族炭化水素の性質や反応を構造と関連付けて理解する。 ・官能基をもつ脂肪族化合物の性質や反応を構造と関連付けて理解する。 ・芳香族化合物の構造、性質及び反応について理解する。 			
2	第5編 高分子化合物 第1章 高分子化合物の性質 第2章 天然高分子化合物 第3章 合成高分子化合物 大学入試共通テスト 演習 大学入試問題 演習			<ul style="list-style-type: none"> ・高分子化合物について性質や反応、構造を理解するとともに、その有用性などを認識する。また高分子化合物と身の回りの物質や地球環境、産業とのかかわりについても考える。 ・問題の演習を通じて、化学の理解を深めるとともに大学入試共通テストおよび私立大学の入試に対する実力をつける。 			
3	大学入試問題 演習			<ul style="list-style-type: none"> ・大学入試の過去問題の演習を通じて、国公立大学の入試に対する実力をつける。 			
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・「化学基礎」との関連を考慮しながら、化学の基本的な概念の形成を図る。 ・化学的に探求する方法の習得を通して、化学的な思考力、判断力及び表現力を育成する。 ・応用力を身につける。 						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	理 科	科目	物 理	単位数	4 単位	履修学年	Ⅲ年Ⅱ類特理
到達 目標	<ul style="list-style-type: none"> ・各分野において、古典物理学の原理や法則について系統的に理解すること。 ・物質と原子の分野について、現代の物理学に触れ、有用性や科学に対する興味を持つこと。 ・物理的な事物・現象に対する探求心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、物理学的に探求する能力と態度をもつこと。 						
評価の 観点 および 基準	<p>【知識・技能】自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているか。また、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けているか。定期考査の点数（語句・簡単な計算・問題集の類似問題）、実験レポート（方法・データ）等を基準として評価する。</p>						
	<p>【思考・判断・表現】習得した知識・技能を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身に付けているか。また、見通しをもって観察・実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現できているか。定期考査の点数（計算・グラフ・図の読み取り・実験考察問題）、レポート、実験レポート（考察）等を基準として評価する。</p>						
	<p>【主体的に学習に取り組む態度】知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身に付ける過程において、見通しをもったり振り返ったりするなど、自ら学習を調整しようとしているか。また、粘り強く学習に取り組んでいるか。レポート、実験レポート（振り返り）、課題提出、振り返り評価等を基準として評価する。</p>						
使用 教材	<p>教科書 数研出版 物理 副教材 啓林館 物理セット 数研出版 「大学入学共通テスト対策 チェック&演習 物理」</p>						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	<p>第4編 電気と磁気 第3章 電流と磁場 第4章 電磁誘導と電磁波</p>			<ul style="list-style-type: none"> ・磁場に関して、磁気力に関するクーロンの法則と電流がつくる磁場の両面から、磁場についての法則を理解する。 ・ローレンツ力と磁場について理解する。 ・電磁誘導の法則について理解する。 ・交流回路を取り扱い、抵抗、コンデンサー、コイルの回路中での振る舞いを理解する。 ・電磁波についての基本的な特徴などを理解する。 			
2	<p>第5編 原子 第1章 電子と光 第2章 原子と原子核</p> <p>問題演習</p>			<ul style="list-style-type: none"> ・電子について理解を深める。 ・光の粒子性を理解する。 ・光子や電子の粒子性と波動性を理解する。 ・古典論から量子論のはじまりへの流れを理解する。 ・量子論的なものの見方を知る。 ・素粒子の理論について歴史と現状を知る。 <p>・物理の全範囲について、基本法則の確認と定着を図り、大学入試に対応できる能力を養う。</p>			
3	問題演習			<p>・物理の全範囲について、基本法則の確認と定着を図り、大学入試に対応できる能力を養う。</p>			
学習上 の 留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・自然に関心をもち、科学的に探求しようとする態度を養う。 ・学習の定着をはかるために、問題集を家庭学習として利用し、配布プリントや定期試験や模試をしっかりと復習する。また大学入試に十分適応できるよう入試問題を取り入れる。 						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	理 科	科目	生物	単位数	4 単位	履修学年	Ⅲ年Ⅱ類特理
到達目標	自然の事物・現象に対する関心や探究心を高め、理科の見方・考え方をもち観察、実験などを行うことで、科学的に探究する能力と態度を育て、自然の事物・現象についての理解を深め、科学的な自然観を育成する。さらには、科学的に探究するために必要な資質・能力を育成することを目指す。						
評価の観点・評価基準	【知識・技能】自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているか。また、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けているか。定期考査の点数（語句・簡単な計算・問題集の類似問題）、実験レポート（方法・データ）等を基準として評価する。						
	【思考・判断・表現】習得した知識・技能を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身に付けているか。また、見通しをもって観察・実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現できているか。定期考査の点数（計算・グラフ・図の読み取り・実験考察問題）、レポート、実験レポート（考察）等を基準として評価する。						
	【主体的に学習に取り組む態度】知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身に付ける過程において、見通しをもったり振り返ったりするなど、自ら学習を調整しようとしているか。また、粘り強く学習に取り組んでいるか。レポート、実験レポート（振り返り）、課題提出、振り返り評価等を基準として評価する。						
使用教材	教科書 新訂版 生物（実教出版） 副教材 センサー生物（啓林館） ニューステージ新生物図表（浜島書店）						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	4：生物の環境応答 1 節：動物の反応 2 節：動物の行動 3 節：植物の成長と環境応答 5：生態と環境 1 節：個体群と生物群集			<ul style="list-style-type: none"> ・受容器として眼と耳を中心に、効果器として筋肉を中心に取り上げ、刺激の受容から反応までを理解する。 ・刺激に対する反応としての動物個体の行動について理解する。 ・植物ホルモンと光受容体について理解する。 ・個体群とその変動について理解する。 ・個体群内の相互作用，個体群間の相互作用，種間競争，相利共生を理解する。 			
2	2 節：生態系 生物基礎 および 生物の復習			<ul style="list-style-type: none"> ・生物群集の成り立ちについて理解する。 ・生態系における物質生産とエネルギー効率について理解する。 ・大学入試共通テストおよび各大学入試問題演習を行う。 			
3	生物基礎 および 生物の復習			<ul style="list-style-type: none"> ・各大学入試問題演習を行う。 			
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に集中し、積極的な学習態度で臨むこと。 ・問題集を家庭学習として利用し、学習の定着を図ること。 						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	保健体育	科目	体育（男女）	単位数	2～3単位	履修学年	Ⅲ年
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・集団行動を通じて集団の中で個人の役割・協調性を考えることができる。 ・運動技能の習得だけでなく、運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう自ら進んで種目を選択し、運動に取り組める。 ・個々の能力に応じた課題の解決を目指して、活動のしかたを考え工夫する力を身につける。 ・運動の技能や体力を向上させるとともに、公正、協力、責任、参画、共生等に対する意欲を高め、健康、安全を確保して、生涯スポーツの重要性を考え、豊かなスポーツライフを実現するための知識や方法を身につける。 						
評価の観点 評価基準	【知識・技能】 ・身につけた技能や動き等の出来映えを確かめたり、新たに技や動き及び得意技を身に付けたりして、記録や技に挑戦したり、参加者の体力や技能の程度、年齢や性別及び障害の有無等に応じてルールを工夫するなどして試合をしたり、発表したりできている。技術の名称や行い方、ルールを理解している。						
	【思考・判断・表現】 ・生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。						
	【主体的に学習に取り組む態度】 ・各種運動に自主的に取り組むとともに、お互いに助け合い教え合おうとすること、一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとする、話し合いに貢献しようとするなどや、健康・安全を確保している。						
使用教材	「ステップアップ高校スポーツ2022」「現代高等保健体育」「現代高等保健体育ノート」（大修館）						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	・体づくり運動 ①バドミントン ②バスケットボール ③バレーボール ④ソフトテニス ⑤ソフトボール ⑥サッカー ⑦陸上競技 ⑧ダンス } から1種目選択			・体を動かす楽しさや心地よさを味わい、健康の保持増進や体力の向上を図り、目的に適した運動の計画や、自己の体力や生活に応じた運動の計画を立て、実生活に役立てることができるようにする。 <1・2・3学期共通>			
2	・①～⑧から1種目選択			・自己や仲間の体力や能力に応じた課題、目標を設定して運動する。 ・リーダーを中心に、全員で分担・協力して工夫して活動を行う。			
	・①～⑧から1種目選択 ・体育理論（2時間）			・ルールを理解し、ゲーム運営・審判ができる。 ・チームの能力に応じて作戦をたて、個人の能力を最大限に引き出す。 ・ゲームを通して運動の楽しさや喜びを味わう。			
3	・①～⑧から1種目選択 ・体育理論（2時間）			・生涯スポーツの見方・考え方、ライフスタイルに応じたスポーツ、日本のスポーツ振興、スポーツと環境について理解させる。			
学習上の留意点	・身体を動かすことの楽しさや、主体的に仲間と協力することの大切さを理解させる。 ・運動技能の習得・体力の向上を図るとともに、生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現に向けて、継続していける運動への興味・習慣を身につけさせる。 ・体育理論を適時実施する。（6時間）						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	芸術	科目	音楽Ⅱ	単位数	2 単位	履修学年	Ⅲ 年
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽文化についての理解を深め、個性豊かな表現の能力と主体的な鑑賞の能力を伸ばす。 ・世界の多種多様な音楽を積極的に探求して、自分が持っている音楽の世界を広げる。 ・音楽の諸活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情と音楽文化を尊重する態度を育む。 						
評価の観点・評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽を愛好し音楽文化を理解しているか。 ・音楽の良さや美しさを感じ取っているか。 ・個性豊かに表現するための技能を身に付けているか。 ・多様な音楽や音楽文化の良さや美しさを主体的に味わっているか。 ・実技試験、鑑賞プリント等により、総合的に評価する。 						
使用教材	教育出版「音楽Ⅱ Tutti +」 カワイ出版「高校生のための音楽ノート」、自作プリント						
学期	学習内容			学習のねらい			
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・斉唱、混声合唱 ・歌劇「カルメン」 ・「交響曲第3番 オルガン付き」 ・「ヴァイオリン協奏曲ホ短調」 ・「春の祭典」 ・実技試験 			様々な楽曲を歌唱し、それぞれの特徴をつかみ違いを感じながら味わう。 歌劇・器楽曲を鑑賞し、特徴をとらえ、作曲家や文化的背景を知り、理解を深める。 1 学期学習内容をふまえ、歌唱実技試験をする。			
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・斉唱、混声合唱 ・「交響曲第9番 新世界より」 ・「交響曲第1番ハ短調Op.68」 ・「交響詩 フィンランディア」等 ・自由課題研究発表 			ロマン派以降の音楽を鑑賞し、作曲家や文化的背景を知り、理解を深める 個人またはグループに分かれ、3年間のまとめとして、それぞれテーマを決定し、研究発表する。			
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・合唱 ・鑑賞 			3年間の活動をふまえ、既習事項を生かせるよう表現する。			
学習上の留意点	音楽の活動では、集中するということは何よりも大切である。また、音楽の表現や鑑賞の活動では、他の人と積極的に関わりながら自己の感性や能力を向上させていくことが大切である。						

科目の年間授業計画(シラバス)

教科	芸術	科目	美術Ⅱ	単位数	2単位	履修学年	Ⅲ年 (I類文2)
到達目標	美術の創造的な諸活動を通して、美的体験を豊かにし美術を愛好する心情を育てるとともに、美術文化についての理解を深め、個性豊かな感性と能力を高める。						
評価の観点・評価基準	<ul style="list-style-type: none"> * 意欲的に継続して制作することができたか。 * 自他の作品の存在を尊重し理解することができたか。 * 主題や自分の意図に応じた表現方法を工夫し、創造的な表現力を養うことができたか。 * 制作を身近に感じ、自ら課題を見つけ考えることができたか。 * 造形的なよさや美しさを感じ取り、制作することができたか。 * 準備から片付けまで主体的に取り組むことができたか。 						
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> * 教科書 * スケッチブック、絵の具などはⅡ年次の授業と同様各自準備し、一括購入はしないが、購買で購入可。(詳しくは最初の美術の授業時に説明する。) 						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	○デザイン 平面又は立体の構成デザイン			<ul style="list-style-type: none"> * 自ら意図したことをどうすれば的確に視覚伝達できるか、創意工夫し制作する態度を養う。 * 配色や形体などの造形要素を理解し、また効果的に生かした構成をする能力を高める。 			
2	○課題選択作品(卒業制作) 平面又は立体など (生徒自身でテーマを決め、計画的に制作) ○絵画・彫刻 自己の表現 (自分を見つめ、自画像等を制作)			<ul style="list-style-type: none"> * 興味、関心、意欲、能力に応じて自らの課題を発見し制作に臨む態度を身につける。 * 材料や用具の特性を理解し、多様な技法を身につける。 * 造形的なよさや美しさを感じ取り、完成する喜びを実感する。 * 外面のみならず内面をも表現しようとする態度を養う。 * 自分を見つめ、自分を問い直す態度を養う。 			
3	○鑑賞 教科書、生徒作品、図録、DVD等の利用			<ul style="list-style-type: none"> * 自他の作品を通して、今後の生活や制作活動に生かそうとする態度を養う。 			
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> * 制作は授業時間内に終わることを原則とするが、希望者には放課後美術室での制作を許可する。 * 準備や片付けに時間が取られるため、常に積極的に取り組み、短い時間を有効に使うように指導する。 * 興味、関心、意欲、能力には個人差があるので、各講座の様子によって制作課題を多少変更することがある。 						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	芸術	科目	書道Ⅱ	単位数	単位	履修学年	Ⅲ年Ⅰ類文2
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・書の文化や伝統について、理解を深め、個性豊かな表現と鑑賞能力伸ばす。 ・書を愛好する心情を育てると共に感性をさらに高める 						
評価の観点・評価基準	【知識・技能】 書の表現や、発展的な古典を理解し、効果的な技法を身につけ、臨書・創作することができたか。						
	【思考・判断・表現】 書の様々な美を感じ取り、これまで学んだ古典の知識を組み合わせ、表現を工夫することができたか。						
	【主体的に学習に取り組む態度】 書の表現や鑑賞など、幅広い活動に取り組もうとする。						
使用教材	書道Ⅱ（書Ⅱ703）教育出版・自作プリント						
学期	学習内容			学習のねらい			
1	<ul style="list-style-type: none"> ○篆書の学習 ○篆刻・刻字の学習 			<p>篆書の基本的な用筆・運筆・結構を古典を臨書・鑑賞することにより習得し、その特徴を理解する。</p> <p>習得した技法を生かし、姓名印を刻る。</p>			
2	<ul style="list-style-type: none"> ○楷書・行書・草書・隷書の学習 ○仮名の学習 			<p>Ⅰ年次・Ⅱ年次の学習を基礎に発展させる。</p> <p>書道Ⅰの学習を基に、各古典の字形や線質の違いを理解し、習得する。 臨書・倣書・創作の手順を確認しながら、創作する。</p>			
3	<ul style="list-style-type: none"> ○漢字仮名交じりの書の学習 ○大字の学習 			<p>今までの学習を基に自分の思考や感動を表現できる語句を選び、表記方法を工夫しながら作品制作をする。</p> <p>漢字の古典・仮名の古典・用具・用材・筆使い・墨色・余白・文字の大きさなど生かした表現を試みる。</p>			
学習上の留意点	三年間の学習のまとめとして、それぞれに応じた表現を目指し、各自の個性をより効果的に表現できるように、用具・形式・詩文などを選択していく。						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	英語	科目	英語コミュニケーションⅢ	単位数	4単位	履修学年	Ⅲ年Ⅰ類
到達目標	<p>日常的、社会的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、対話の展開、事前の準備、情報量などにおいて支援をほとんど活用しなくても、以下に示す5領域において、それぞれの能力を身につける。</p> <p>【聞くこと】必要な情報を聞き取り、話の展開や話し手の意図を把握することができるようになる。</p> <p>【読むこと】必要な情報を読み取り、文章の展開や書き手の意図を把握することができるようになる。</p> <p>【話すこと(やりとり)】多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを詳しく話して伝え合うやり取りを続け、会話を発展させることができるようになる。</p> <p>【話すこと(発表)】多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを論理的に詳しく話して伝えることができるようになる。</p> <p>【書くこと】多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを複数の段落から成る文章で論理的に詳しく書いて伝えることができるようになる。</p>						
評価の観点・評価基準	<p>【知識・技能】単語や文法事項などの英語の特徴や決まりに関する事項を理解し、身につけられているか、またそれらの力を、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、論理的に聞いたり、読んだり、話したり、書いたりする活動の中で使いこなせているかを定期考査や小テスト等で確認し、評価する。</p>						
	<p>【思考・判断・表現】多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して話したり書いたりして表現したり、伝え合ったりしている状況をパフォーマンステストや定期考査、Writing課題等で確認し、評価する。</p>						
	<p>【主体的に学習に取り組む態度】知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力を身につける過程において、見通しをもったり、振り返ったりするなど、自ら学習を調整しようとしているか。また粘り強く学習に取り組んでいるかを各課題やリフレクション等で確認し、評価する。</p>						
使用教材	<p>MY WAY English Communication Ⅲ (三省堂) MY WAY English Communication Ⅲ ワークブック スタンダード版 (三省堂) 教科書の内容に準拠したプリント APPLAUSE ENGLISH LOGIC AND EXPRESSION Ⅲ (開隆堂出版)</p>						
学期	学習内容		学習のねらい				
1学期	Unit1 Strategy 1 ~ 8 Unit2 Lesson1・2		<p>関連したトピックについての理解を深める。また、学習した文法項目を使ったコミュニケーションをALTとの活動(1時間/週)から学ぶ。</p> <p>※ALTとの活動時には活動内容に合わせて「論理・表現Ⅲ」の教科書を使用することがある。</p> <ul style="list-style-type: none"> 各課の題材を読みとり、理解する。 習得した文法や表現に注意しながら英文を読む。 				
	Team Teaching		<ul style="list-style-type: none"> ALTとの活動を通し、英語特有の言い回しを習得する。 				
2学期	Unit2 Lesson3 ~ 7 Unit3 Lesson8		<ul style="list-style-type: none"> 各課の題材を読みとり、理解する。 習得した文法や表現に注意しながら英文を読む。 				
	Team Teaching		<ul style="list-style-type: none"> ALTとの活動を通し、英語特有の言い回しを習得する。 				
3学期	Unit3 Lesson9・10		<ul style="list-style-type: none"> 各課の題材を読みとり、理解する。 習得した文法や表現に注意しながら英文を読む。 				
	Team Teaching		<ul style="list-style-type: none"> ALTとの活動を通し、英語特有の言い回しを習得する。 				
学習上の留意点	<p>授業では教科書以外にも、「MY WAY English Communication Ⅲ ワークブック」や教科書の内容に準じたプリントを使い、内容理解と文法習得をしていきます。授業の予習として、英文に目を通し分からない英単語の意味を辞書で調べておいてください。また授業後は学習した英文を音読したり、文法問題を解き直したりして復習をしてください。また、定期的に英単語・熟語のテストを行いますので、1回1回のテスト勉強を通して、語彙力を強化してください。こうした日々の積み重ねが英語力向上につながっていきます。</p>						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	外国語	科目	英語コミュニケーションⅢ	単位数	4 単位	履修学年	Ⅲ年Ⅱ類
到達目標	<p>日常的、社会的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、対話の展開、事前の準備、情報量などにおいて支援をほとんど活用しなくても、以下に示す5領域において、それぞれの能力を身につける。</p> <p>【聞くこと】必要な情報を聞き取り、話の展開や話し手の意図を把握することができるようになる。</p> <p>【読むこと】必要な情報を読み取り、文章の展開や書き手の意図を把握することができるようにする。</p> <p>【話すこと(やりとり)】多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを詳しく話して伝え合うやり取りを続け、会話を発展させることができるようになる。</p> <p>【話すこと(発表)】多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを論理的に詳しく話して伝えることができるようになる。</p> <p>【書くこと】多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを複数の段落から成る文章で論理的に詳しく書いて伝えることができるようになる。</p>						
評価の観点・評価基準	<p>【知識・技能】単語や文法事項などの英語の特徴や決まりに関する事項を理解し、身につけられているか、また、それらの力をコミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、論理的に聞いたり、読んだり、話したり、書いたりする活動の中で使いこなせているかを定期考査や小テスト等で確認し、評価する。</p> <p>【思考・判断・表現】多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して話したり書いたりして表現したり、伝え合ったりしている状況をパフォーマンステストや定期考査、Writing 課題等で確認し、評価する。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】知識・技能の習得や思考・判断・表現力を身につける過程において、見通しをもったり、振り返ったりするなど、自ら学習を調整しようとしているか。また粘り強く学習に取り組んでいるかを各課題やリフレクション等で確認し、評価する。</p>						
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ・ FLEX English Communication Ⅲ（増進堂） ・ EARTHRISE English Logic and Expression Ⅲ Advanced（数研出版） ・ 大学入試対策用問題集 						
学期	学習内容			学習のねらい			
1 学期	Lesson 1 : Potential Uses of Optical Illusions Lesson 2 : Expanding World Population Lesson 3 : What Makes a Hit Song? Lesson 4 : Visas for Life Lesson 5 : How Have Butterflies Survived? ・ 大学入試対策問題集			<ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書本文の音声を正確に聞き取る。 ・ 未知の語の意味を推測し、背景となる知識を活用しながら読む。 ・ 文法や語法に注意し、本文内容を正確に読み取る。 ・ 文章の中でキーとなる語句や文、段落の構成や展開に注意して読む。 ・ 筆者の見解を正確に理解して、要約し話す。 			
2 学期	Lesson 6 : Mr. Price Meets Jakuchu Lesson 7 : Sustainable Lifestyle of the Edo Period Lesson 8 : Why Do We Lie? Lesson 9 : In Defense of Zoos Lesson 10 : Eco-friendly Farming of Bluefin Tuna Lesson 11 : A Brief History of Humans ・ 大学入試対策問題集			<ul style="list-style-type: none"> ・ 日常生活・現代社会の様々な問題に関心を持ち、考え、自分の意見を深める。 ・ 過去の入試問題、模試問題やそれに準ずる実践的演習問題を数多く解くことで、実践力を身につける。 <p>* 年間を通じ、週に一度ALTとのチームティーチング授業を実施し、教科書の題材に合わせた時事的な話題に触れ、内容理解を深める。また、自分の意見を述べたり、記述したりすることで、思考力・判断力・表現力を高める。</p>			
3 学期	大学入学共通テスト問題演習			<ul style="list-style-type: none"> ・ 大学入試の長文問題に対応する実力を養う。 			
学習上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自ら外国語を理解し、使おうとする等、積極的な姿勢を身につける。 ・ 英文をただ読むだけでなく、筆者の主張や論理の組み立て方を理解するように努める。 ・ 英文のテーマは多岐に渡っており、英語の知識だけでは解決できない内容も扱うため、日頃から様々な事柄に好奇心を持ち、周辺知識を深めるように努める。 ・ 自身の活動(聞く・話す・読む・書く)を豊富に取り入れ、英語運用力向上を目指す。 						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	外国語	科目	論理・表現Ⅲ	単位数	3単位	履修学年	Ⅲ年Ⅰ類文系
到達目標	<p>日常的な話題や社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、複数の資料を活用しながら、次のことができるようになる。</p> <p>【話すこと(やり取り)】多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、課題を解決することができるよう、情報や考え、気持ちなどを整理して話して伝え合うことができるようにする。</p> <p>【話すこと(発表)】多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを、聞き手を説得できるよう、論理の構成や展開を工夫して詳しく話して伝えることができるようにする。</p> <p>【書くこと】多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを、読み手を説得できるよう、論理の構成や展開を工夫して複数の段階から成る文章で詳しく書いて伝えることができるようにする。</p>						
評価の観点・評価基準	<p>【知識・技能】単語や文法事項などの英語の特徴や決まりに関する事項を理解し、身につけられているか、また、それらの力をコミュニケーションの目的や場面、状況などに応じて、論理的に聞いたり、話したり、書いたりする活動の中で使いこなせているかを定期考査や小テスト等で確認し、評価する。</p>						
	<p>【思考・判断・表現】多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して話したり書いたりして表現したり、伝え合ったりしている状況をパフォーマンステストや定期考査、Writing課題等で確認し、評価する。</p>						
	<p>【主体的に学習に取り組む態度】知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力を身につける過程において、見通しをもったり、振り返ったりするなど、自ら学習を調整しようとしているか。また粘り強く学習に取り組んでいるかを各課題やリフレクション等で確認し、評価する。</p>						
使用教材	<p>教科書『APPLAUSE ENGLISH LOGIC AND EXPRESSIONⅢ』（開隆堂出版） 副教材 大学入試対策問題集</p>						
	学習内容			学習のねらい			
1	<p>Lesson 1 What Are You Going to Do during the Golden Week Holidays? Lesson 2 What Do You Want to Do in the Future? Lesson 3 Suggest a New Style of Traveling Lesson 4 Communicating Your Requests Lesson 5 Thank You for Your Support Lesson 6 How to Complain Politely ・大学入試対策問題集</p>			<p>関連したトピックについての理解を深める。また、学習した文法事項を使用した、受験に対応できる英語運用能力を養う。</p>			
2	<p>Lesson 7 My Specialty Lesson 8 My Special People and Places Lesson 9 Paragraph Writing Lesson 10 Presentation Lesson 11 Discussion Lesson 12 Debate ・大学入試対策問題集</p>			<p>関連したトピックについての理解を深める。また、学習した文法事項を使用した、受験に対応できる英語運用能力を養う。</p>			
3	<p>・大学入試対策問題集</p>			<p>関連したトピックについての理解を深める。また、学習した文法事項を使用した、受験に対応できる英語運用能力を養う。</p>			
学習上の留意点	<p>授業では教科書以外にも、大学入試対策問題集や教科書の内容に準じたプリントを使い、文法事項を確認、習得をしていきます。授業の予習として、英文に目を通し分からない英単語の意味を辞書で調べ、授業後は文法問題を解き直したりして復習をしてください。また、定期的に英単語・熟語のテストを行いますので、1回1回のテスト勉強を通して、語彙力を強化してください。こうした日々の積み重ねが英語力向上につながります。</p>						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	外国語	科目	論理・表現Ⅲ	単位数	2単位	履修学年	Ⅲ年Ⅰ類理系
到達目標	<p>日常的な話題や社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、複数の資料を活用しながら、次のことができるようになる。</p> <p>【話すこと(やり取り)】多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、課題を解決することができるよう、情報や考え、気持ちなどを整理して話して伝え合うことができるようになる。</p> <p>【話すこと(発表)】多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを、聞き手を説得できるよう、論理の構成や展開を工夫して詳しく話して伝えることができるようになる。</p> <p>【書くこと】多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを、読み手を説得できるよう、論理の構成や展開を工夫して複数の段階から成る文章で詳しく書いて伝えることができるようになる。</p>						
評価の観点・評価基準	<p>【知識・技能】単語や文法事項などの英語の特徴や決まりに関する事項を理解し、身につけられているか、また、それらの力をコミュニケーションの目的や場面、状況などに応じて、論理的に聞いたり、話したり、書いたりする活動の中で使いこなせているかを定期考査や小テスト等で確認し、評価する。</p>						
	<p>【思考・判断・表現】多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して話したり書いたりして表現したり、伝え合ったりしている状況をパフォーマンステストや定期考査、Writing課題等で確認し、評価する。</p>						
	<p>【主体的に学習に取り組む態度】知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力を身につける過程において、見通しをもったり、振り返ったりするなど、自ら学習を調整しようとしているか。また粘り強く学習に取り組んでいるかを各課題やリフレクション等で確認し、評価する。</p>						
使用教材	<p>教科書『APPLAUSE ENGLISH LOGIC AND EXPRESSIONⅢ』（開隆堂出版） 副教材 大学入試対策問題集</p>						
	学習内容			学習のねらい			
1	<p>Lesson 1 What Are You Going to Do during the Golden Week Holidays? Lesson 2 What Do You Want to Do in the Future? Lesson 3 Suggest a New Style of Traveling Lesson 4 Communicating Your Requests Lesson 5 Thank You for Your Support ・大学入試対策問題集</p>			<p>関連したトピックについての理解を深める。また、学習した文法事項を使用した、受験に対応できる英語運用能力を養う。</p>			
2	<p>Lesson 6 How to Complain Politely Lesson 7 My Specialty Lesson 8 My Special People and Places Lesson 9 Paragraph Writing Lesson 10 Presentation Lesson 11 Discussion ・大学入試対策問題集</p>			<p>関連したトピックについての理解を深める。また、学習した文法事項を使用した、受験に対応できる英語運用能力を養う。</p>			
3	<p>Lesson 12 Debate ・大学入試対策問題集</p>			<p>関連したトピックについての理解を深める。また、学習した文法事項を使用した、受験に対応できる英語運用能力を養う。</p>			
学習上の留意点	<p>授業では教科書以外にも、大学入試対策問題集や教科書の内容に準じたプリントを使い、文法事項を確認、習得をしていきます。授業の予習として、英文に目を通し分からない英単語の意味を辞書で調べ、授業後は文法問題を解き直したりして復習をしてください。また、定期的に英単語・熟語のテストを行いますので、1回1回のテスト勉強を通して、語彙力を強化してください。こうした日々の積み重ねが英語力向上につながります。</p>						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	外国語	科目	論理・表現Ⅲ	単位数	3単位	履修学年	Ⅲ年Ⅱ類文系
到達目標	<p>日常的な話題や社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、支援をほとんど用いなくても、複数の資料を活用しながら、次のことができるようになる。</p> <p>【話すこと(やり取り)】多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、課題を解決することができるよう、情報や考え、気持ちなどを整理して話して伝え合うことができるようにする。</p> <p>【話すこと(発表)】多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを、聞き手を説得できるよう、論理の構成や展開を工夫して詳しく話して伝えることができるようにする。</p> <p>【書くこと】多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを、読み手を説得できるよう、論理の構成や展開を工夫して複数の段階から成る文章で詳しく書いて伝えることができるようにする。</p>						
評価の観点・評価基準	<p>【知識・技能】単語や文法事項などの英語の特徴や決まりに関する事項を理解し、身につけられているか、また、それらの力をコミュニケーションの目的や場面、状況などに応じて、論理的に聞いたり、話したり、書いたりする活動の中で使いこなせているかを定期考査や小テスト等で確認し、評価する。</p>						
	<p>【思考・判断・表現】多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して話したり書いたりして表現したり、伝え合ったりしている状況をパフォーマンステストや定期考査、Writing課題等で確認し、評価する。</p>						
	<p>【主体的に学習に取り組む態度】知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力を身につける過程において、見通しをもったり、振り返ったりするなど、自ら学習を調整しようとしているか。また粘り強く学習に取り組んでいるかを各課題やりフレクシオン等で確認し、評価する。</p>						
使用教材	<p>教科書『EARTHRISE English Logic and Expression Ⅲ Advanced』（数研出版） 副教材『RANDOM CHALLENGE 450 Standard』（いいずな書店） 『英文法・語法Engage』（いいずな書店） 『英作文のトレーニング 必修編』（Z会）</p>						
	学習内容			学習のねらい			
1学期	<p>「メールを書く」 Lesson 1 Coming to Japan Lesson 2 Online shopping Lesson 3 Preparing to study abroad 「意見を述べる」 Lesson 4 24-hours stores Lesson 5 Smart agriculture Lesson 6 <i>Aiman</i>, the house ・大学入試対策問題集</p>			<p>・教科書では、[Travel],[Education],[Shopping],[Economy],[Agriculture],[Food],[Technology],[Society],[Science],[Media],[Career],[Environment]といった身近に感じることができる日常的话题や社会的な話題をテーマに議論したり自分の考えを表現したりする力を養う。</p>			
2学期	<p>「イラストを説明する」 Lesson 7 Recipes Lesson 8 A helping hand 「申込書・応募書類を作る」 Lesson 9 International Science Fair Lesson 10 Future career plans 「要点を整理する」 Lesson 11 Media reliability Lesson 12 Garbage problems ・大学入試対策問題集</p>			<p>・授業では教科書以外にも、『RANDOM CHALLENGE 450 Standard』や『英文法・語法 Engage』で演習を行い、大学入試に必要な力を養う。</p> <p>・過去の入試問題、模試問題やそれに準ずる実践的演習問題を数多く解くことで、実践力を身につける。</p>			
3学期	大学入試共通テスト問題演習			・大学入試に対応する実力を養う。			
学習上の留意点	<p>授業では教科書以外にも、大学入試対策問題集や教科書の内容に準じたプリントを使い、文法事項を確認、習得していきます。授業の予習として、英文に目を通し、分からない英単語の意味を辞書で調べ、授業後は文法問題を解き直したりして復習をしてください。また、定期的に英作文のテストを行いますので、1回1回のテスト勉強を通して、Writing力を強化してください。こうした日々の積み重ねが英語力向上につながっていきます。</p>						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	外国語	科目	論理・表現Ⅲ	単位数	2 単位	履修学年	Ⅲ年Ⅱ類理系
到達目標	<p>日常的な話題や社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、複数の資料を活用しながら、次のことができるようになる。</p> <p>【話すこと(やり取り)】多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、課題を解決することができるよう、情報や考え、気持ちなどを整理して話して伝え合うことができるようにする。</p> <p>【話すこと(発表)】多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを、聞き手を説得できるよう、論理の構成や展開を工夫して詳しく話して伝えることができるようにする。</p> <p>【書くこと】多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを、読み手を説得できるよう、論理の構成や展開を工夫して複数の段階から成る文章で詳しく書いて伝えることができるようにする。</p>						
評価の観点・評価基準	<p>【知識・技能】単語や文法事項などの英語の特徴や決まりに関する事項を理解し、身につけられているか、また、それらの力をコミュニケーションの目的や場面、状況などに応じて、論理的に聞いたり、話したり、書いたりする活動の中で使いこなせているかを定期考査や小テスト等で確認し、評価する。</p>						
	<p>【思考・判断・表現】多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して話したり書いたりして表現したり、伝え合ったりしている状況をパフォーマンステストや定期考査、Writing課題等で確認し、評価する。</p>						
	<p>【主体的に学習に取り組む態度】知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力を身につける過程において、見通しをもったり、振り返ったりするなど、自ら学習を調整しようとしているか。また粘り強く学習に取り組んでいるかを各課題やリフレクション等で確認し、評価する。</p>						
使用教材	<p>教科書『EARTHRISE English Logic and Expression Ⅲ Advanced』（数研出版） 副教材『RANDOM CHALLENGE 450 Standard』（いいずな書店） 『英文法・語法Engage』（いいずな書店） 『英作文のトレーニング 必修編』（Z会）</p>						
	学習内容			学習のねらい			
1 学期	<p>「メールを書く」 Lesson 1 Coming to Japan Lesson 2 Online shopping Lesson 3 Preparing to study abroad 「意見を述べる」 Lesson 4 24-hours stores Lesson 5 Smart agriculture ・大学入試対策問題集</p>			<p>・教科書では、[Travel],[Education],[Shopping],[Economy],[Agriculture],[Food],[Technology],[Society],[Science],[Media],[Career],[Environment]といった身近に感じることができる日常的话题や社会的な話題をテーマに議論したり自分の考えを表現したりする力を養う。</p> <p>・授業では教科書以外にも、『RANDOM CHALLENGE 450 Standard』や『英文法・語法 Engage』で演習を行い、大学入試に必要な力を養う。</p> <p>・過去の入試問題、模試問題やそれに準ずる実践的演習問題を数多く解くことで、実践力を身につける。</p> <p>・大学入試に対応する実力を養う。</p>			
2 学期	<p>「意見を述べる」 Lesson 6 Aiman, the house 「イラストを説明する」 Lesson 7 Recipes Lesson 8 A helping hand 「申込書・応募書類を作る」 Lesson 9 International Science Fair Lesson 10 Future career plans 「要点を整理する」 Lesson 11 Media reliability ・大学入試対策問題集</p>						
3 学期	<p>「要点を整理する」 Lesson 12 Garbage problems ・大学入試共通テスト問題演習</p>						
学習上の留意点	<p>授業では教科書以外にも、大学入試対策問題集や教科書の内容に準じたプリントを使い、文法事項を確認、習得していきます。授業の予習として、英文に目を通し、分からない英単語の意味を辞書で調べ、授業後は文法問題を解き直したりして復習をしてください。また、定期的に英作文のテストを行いますので、1回1回のテスト勉強を通して、Writing力を強化してください。こうした日々の積み重ねが英語力向上につながっていきます。</p>						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	仏教科	科目	一般仏教	単位数	1 単位	履修学年	Ⅲ 年
到達目標	親鸞の生涯（特に法然との出遇い）と思想（「悪人正機説」等）を学習することで、親鸞の本願他力の思想と深い人間の内面を洞察し、内省の過程を理解する。						
評価の観点・評価の基準	<p>1. 知識の理解・・・親鸞が生きた時代背景、仏教的背景、親鸞が接した人間関係、親鸞が学んだ仏教的思想を理解しているかどうか。</p> <p>2. 思考・・・親鸞の生き様、親鸞の思考内容（本願他力思想）を学ぶことで、人生の意味（人生観）や人間の価値（人間観）、社会のあり方（社会観）について思考されているかどうか。そして、その教えを日常生活の中でいかに実践して活用していくかを考えさせる。</p>						
使用教材	『高校生からの仏教入門』 釈尊から親鸞聖人へ（本願寺出版社） 『歎異抄』（本願寺出版社）プリントを使用 『さとの知恵を読む』（仏教伝道教会）						
学期	学習内容			学習のねらい			
1 学期	4 月	序	生死出づべき道	1 誕生	①親鸞聖人の誕生	<ul style="list-style-type: none"> ・親鸞誕生時の時代背景を理解する。 ・仏教で説かれる「無常」を理解する。 	
	5 月	1	誕生	②混乱の時代	2 出家	①出家の理由	<ul style="list-style-type: none"> ・自力聖道門の修行の厳しさを理解する。
	6 月	2	出家	②得度の時に詠んだ和歌	3 学問修行	①比叡山での学問修行	<ul style="list-style-type: none"> ・修行に励むことで見えてくる心を理解する。
	7 月	3	学問修行	②求道の悩み			
2 学期	9 月	4	六角堂参籠	5 法然聖人の下へ①法然聖人との出遇い	<ul style="list-style-type: none"> ・宗教的値遇の重要性を理解する。 		
	10 月	5	法然聖人の下へ②法然聖人の教え	『歎異抄』第三章の解説（その1）			<ul style="list-style-type: none"> ・「悪人正機説」を理解する。
	11 月	『歎異抄』第三章の解説（その2）			（法然思想と親鸞思想の理解）		
	6	承元の法難	①念仏弾圧	<ul style="list-style-type: none"> ・真実追究の喜びと厳しさを理解する。 			
	12 月	6	承元の法難	②非僧非俗	<ul style="list-style-type: none"> ・親鸞が明かす自立的人間像を理解する。 		
3 学期	1 月	7	越後での生活	<ul style="list-style-type: none"> ・現代における他力思想の重要性を理解する。 			
	現代と仏教について						
学習上の留意点	親鸞の本願他力の思想が、世間一般において「他者依存、甘えの宗教、努力の放棄」などの誤解を受けているので、本時においては、「本願他力」だけではなく、「念仏」・「往生」・「成仏」など、人間を再生する重要な言葉の意味を理解し、親鸞思想を現代において換骨奪胎する必要がある。そして、その教えを身近な日常生活の中で活用し、実践する方向に導くことによって、生命の尊厳性に目覚め、人権を尊重し、社会生活におけるマナーの遵守につなげていく。						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	情報	科目	情報Ⅰ	単位数	2 単位	履修学年	Ⅲ 年
到達目標	情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を養う。						
評価の観点・評価基準	【知識・技能】 効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータ活用について理解し、技能を身に付けているとともに、情報社会と人との関わりについて理解しているかどうか。						
	【思考・判断・表現】 事象を情報とその結び付きの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いているかどうか。						
	【主体的に学習に取り組む態度】 情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしているかどうか。						
	【基準】 「定期考査、授業時の様子、課題提出、観点別ワークシート」などを基に総合的に評価する。						
使用教材	教科書	東京書籍	「情報Ⅰ」(情Ⅰ702)				
	問題集	東京書籍	「ニューステップアップ 情報Ⅰ」				
		啓林館	「大学入学共通テスト対策問題集 情報Ⅰ」				
学期	学習内容			学習のねらい			
1 学期	第1章 情報社会 ・情報とメディア ・情報社会におけるモラル・セキュリティ ・情報社会が社会に及ぼす影響			「情報」とは何かを理解する。また、情報に関する法規・制度や個人の責任、情報モラルに基づいた行動について理解する。			
	第2章 情報デザイン ・情報のデジタル表現 ・コミュニケーションの手段と特徴 ・情報デザイン			情報のデジタル化の基礎的な知識と技術として、ビットの概念、2進数による表現、文字、音、画像、動画のデジタル化の原理と表現方法を理解する。			
2 学期	第3章 プログラミング ・コンピュータのしくみ ・アルゴリズムとプログラミング ・モデル化とシミュレーション			コンピュータのハードウェアやソフトウェアなど、基本的なしくみを理解する。 問題解決するためのアルゴリズムを考え、プログラミングの基本を理解する。また、目的に応じたモデル化やシミュレーションを行い、問題を適切に解決する方法を考えられるようにする。			
	第4章 ネットワークの活用 ・ネットワークのしくみ ・データベース ・データ分析			情報通信ネットワークの基本的な方式やプロトコルの役割について理解する。また、データを表現・蓄積するためのデータの形式に関する知識、データの収集、整理、分析する方法について理解する。			
3 学期	共通テストに向けた総合演習			共通テストに対応できる実力養成			
学習上の留意点	情報社会で必要となる知識や考え方はもちろんのこと、コンピュータを使用する上でのスキルやネットワーク利用時のマナーやモラルなどを学びます。そのため、知識を蓄えるだけでなく、情報モラルに基づいた行動が大切です。また、問題解決に対する手順や段取りを考えることも必要となるため、様々な情報を取得・収集し、取捨選択および評価・判断する能力を身に付けられるように、日頃から情報社会に関するニュースや出来事に興味を持つことも大切です。						

科目の年間授業計画（シラバス）

教科	探究	科目	総合的な探究の時間	単位数	1	履修学年	高三学年
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 探究に主体的・協働的に取り組み、集団における自己の役割や責任を見いだすとともに、仲間と協調して互いのよさを生かしながら、よりよい社会を実現しようとする。 自らが調査し活動したテーマについて、未来の社会とつなげて考える。 調査、活動した探究内容を様々な表現方法でまとめたり、個人から外の世界に向かって発信したりする。 						
評価の観点・評価基準	【知識・技能】探究過程において、課題発見と解決に必要な発展的な知識及び技能を身につけている。						
	【思考・判断・表現】身近なものや環境を深く知り、地域や社会の問題を身近に捉えながら、「これからの自分に何ができるか」を見つけだし、自分のテーマを決め発表する。問題解決に必要な情報を様々な手段を選択しながら収集している。						
	【主体的に学習に取り組む態度】自分の興味・関心のある問題やテーマを知り、物事を客観的かつ科学的に見る力を身につけようとしている。よりよい地域、よりよい社会を実現しようとする態度を養おうとしている。						
使用教材	『課題研究メソッド』（啓林館）						
1	<ul style="list-style-type: none"> 収集した情報を取捨選択し、情報の傾向を見つけたり、複数の情報を組み合わせて新しい関係を見いだしたりする。 各自が活動した内容、活動で得た結果などからキーワードをまとめ、様々な方法で表現する方法を学ぶ。(レポート作成方法やスピーチの方法などを学ぶ。) 			<ul style="list-style-type: none"> 地域の複雑な問題状況を把握し、自分の進路や興味、関心と結びつけながら、自己の課題を明らかにさせる。 レポートでのまとめ方を身につけさせる。 改めて自己の将来について深く考え、これからの生活の有様を見つめさせる。 			
2	<ul style="list-style-type: none"> 自分の探究成果を受け、未来や将来を豊かにするための世界・社会・自分の活動や取り組みを文章化する。(「未来への提言書」を作成する。) 文章化した「提言書」を客観的に読み、推敲を重ねる。 文章化したものを個人から外の世界に向かって発信する。 			<ul style="list-style-type: none"> 探究を通して、自己を見つめ、自分の個性や特徴に気づかせる。 外の世界に向けて、研究論文、スライド発表、ポスター発表など様々な形式が使用されていることを理解させる。 自他の良さを認め互いの特徴を生かしながら、協働して解決に向けた探究に取り組ませる。 			
3	<ul style="list-style-type: none"> 活動した内容や取り組みを通して、自分の在り方や生き方を考えながら、実社会で活用できる資質や能力の育成を意識させる。 3年間の探究活動を振り返り、自身の学習や生活に生かす。 			<ul style="list-style-type: none"> 探究を通して、自己の在り方生き方を考えながら、将来社会の理想を実現する態度を養わせる。 次年度以降に学習する下級生の参考になる改善点を考えさせる。 			
学習上の留意点	探究の見方・考え方を働かせ、自己の興味・関心や進路選択に基づき、横断的・総合的な課題研究に取り組むことで、あらゆる場面で自ら考え判断し、課題解決に取り組むことができるように、学年所属の全教員が協力し、目標が達成できるよう支援を行う。						

特別活動の年間授業計画（シラバス）

教科	特別活動	内容	ホームルーム活動 生徒会活動 学校行事	単位数	1 単位	履修学年	第三学年
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・最高学年として自覚し責任ある行動をとれるようにする。 ・自己の在り方生き方や進路について考察できるようにする。 ・社会生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。 						
評価の観点・評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・活動への自主性や主体性、責任感、創意工夫など、取り組みの姿勢を振り返らせる。 ・活動から学んだことや反省を活かし、自分の生活を見つめ直させる。 						
学期	指 導 内 容 等						
	ホームルーム活動	生徒会活動		学校行事			
1	<ul style="list-style-type: none"> ・最高学年としての自覚を持たせ集団生活に適応する能力を育成する。 ・学習や諸行事に最善を尽くし、将来の自分の在り方を考えさせる。 ・学年ロング 	新入生対面式 クラス役員選出 体育祭 芸術鑑賞 クラスマッチ 委員会活動		始業式 体育祭 中間考査 期末考査 校内人権学習 終業式			
2	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休みを反省し、生活のリズムを取り戻すとともに文化祭の成功に向けての意識づけとクラスの団結を高める。 ・自分の適正や進路について考え、将来を展望できるように指導する。 ・学年ロング 	文化祭 生徒会役員改選 ピンクシャツ運動		始業式 避難訓練 文化祭 校外研修 中間考査 期末考査 校内人権学習 終業式			
3	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の進路の実現に向けて指導する。 ・学年ロング 			始業式 進路決定 卒業式			
学習上の留意点	さまざまな活動を通して、集団の意義と個の役割の大切さを学ばせ、リーダーシップや友だちとの協調性を育てていくことを期待する。						